

第8号（1）様式

外交・安全保障調査研究事業費補助金
補助事業実績報告書

※本報告書のほか、事業成果をアピールする資料（パワーポイントや動画等自由書式。最大3枚/3分程度）を提出すること。

（※当該資料は、単なる活動報告にしないこと。事業の新規性、研究成果によって得られた新たな知見及びそれに基づく政府へのアウトプット・提言等、事業成果について記載すること。）

1. 基本情報	
事業者名 東京大学先端科学技術研究センター	
事業区分・テーマ	※事業区分（発展型総合事業・総合事業・調査研究事業）及びテーマを記載。 発展型総合事業「国際理念と秩序の潮流:日本の安全保障戦略の課題」
事業名及び事業概要	※事業計画書の該当部分を転載。 秩序観を掲げる勢力が競合する「体制間競争」が激化している中で、日本の国際的立ち位置と、対外的に打ち出す理念を構想する。安全保障・外交戦略、政治体制、政治思想、宗教思想等を中心に、日本が直面している諸問題、そして日本が取るべき選択肢とその発信について議論、シミュレーションを行い、政策提言に繋げる。
事業実施期間	※下記の期間から1つを選択し「○」を記入 () 1年間 (年度) () 2年間 (年度～ 年度) (うち 年目) (○) 3年間 (令和5年度～8年度) (うち 2 年目)

2 事業の成果（アウトカム）

評価要綱 3 の項目につき、以下①、②の自己評価を記載すること（分量は自由）。

（※ 活動実績の詳細や定量的実績は下記「3－1」～「4－2」の欄に記載すること。）

- ① どのように取り組み、どのような成果があったか（工夫を凝らした点、前年度の事業から改善した点を含む）。
- ② どの部分につき進展・成果が不十分であったか。その原因、次年度での改善方法。

（1）補助事業の成果

（基礎的情報収集・調査研究（外交に資する政策志向の研究とし、政策提言を含む。）

- 他の類似事業と比べて新規性があったか。研究成果により新たな知見が得られたか。また、外交に資する政策志向の研究がなされたか。

本事業では、今後の国際秩序を方向づける理念を日本から発信するために、外国・安全保障政策とその基礎となる思想の専門家・実務家の人的・知的ネットワークを東大先端研が結節点となって形成することを目指した。そのためにトラック 2/1.5 の国際会議や国際セミナー・戦略対話を多数開催した。特筆されるのは、2024 年 5 月 12・13 日にヨルダン・アンマンでヨルダン大学戦略研究センター（CSS）との共催で開催した「第 1 回日本・中東戦略対話」であり、ガザ紛争をめぐって流動化した中東地域秩序の再編成に日本が積極的に関与していくプラットフォームを形成した。また、2024 年 9 月 18・19 日に東大先端研のキャンパスにアラブ首長国連邦（UAE）のシンクタンクの年次大会を誘致して開催した国際会議「持続的な安全保障とその先：人工知能（AI）の役割」では AI やロボティクス等の先端科学技術の発展が外交・安全保障に及ぼす影響を議論したが、そこでは日本の代表的な AI 研究者が、湾岸産油国や米・欧や南アフリカなどの G7 諸国とグローバルサウスの双方から来訪した有力な専門家と議論する場となった。これに合わせてワシントン DC の中東研究所（MEI）の戦略的先端技術部門ディレクター（エジプト人）を招聘し、国際会議とは別にセミナーを開催し次世代先端技術をめぐる米国と中東の戦略的関係をめぐる議論を行なった。さらに、ユーラシアにおける中・露の勢力圏の間で独自の存在を保つモンゴルに着目し、モンゴル国家安全保障委員会の戦略研究所との関係構築を行い、アジアの安全保障協力体制の設立に向けた専門家会合の端緒を開いた。また、慶應大学 KCS と連携し、ケンブリッジ大学地政学研究所長や米ワシントン DC ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究所教授らを招いて国際研究集会を東京と京都で開催した。エストニアの国際防衛安全保障センター（ICDS）とは相互往来の関係を構築し、2025 年 2 月には ICDS 所長を東京に迎えた国際ラウンドテーブルを開催した。これらは日本が結節点となり、G 7

と「それ以外」の有力な国・地域の双方が集って国際社会の秩序を支える理念の形成を議論していく場を示したものである。本事業による東大先端研 ROLES の活動は、従来の日本の外交・安全保障シンクタンクの活動とは一線を画し、国際環境の変化に即応し、グローバルサウスの台頭する諸機関との関係を新たに構築し、今まさに国際社会が直面した課題と、新たに現れたテーマに対応して、大学の最先端の知見を集約する、新基軸を打ち出した。

これらの国際会議事業の企画・実施に際しては、外務省および経済産業省、あるいは国家安全保障局の担当部局との連絡を欠かさず、招聘した要人と、関係する官庁の担当局長・審議官・参事官・課長・室長との議論の場を創出した。国内開催の国際会議では経済産業審議官のビデオメッセージや外務省の担当局参事官の登壇を得ており、海外開催の国際会議では駐箚大使や、担当する局長を経験した大使の登壇を実現し、シンクタンクとしての自律性・客観性を維持しつつ日本政府の発信の場を創出している。

① 世界の多様な視点に基づく情報収集・調査研究・国際発信

英語その他の言語を用いた国際研究プロジェクト

本事業は、立脚する視点の多角性と国際性を大きな特色としている。その第一は、「紛争解決の理論と実践」や「インド太平洋の安全保障構想」をはじめとする多くの研究会が、海外の研究者をメンバーとして英語で実施されている点にある。普段は日本語で実施されている日本人中心の研究会も海外での国際会議やワークショップの開催や、東京での国際会議の開催では英語を共通言語として行い、活発に発信を行なった。中でも「紛争解決の理論と実践」では、ウクライナの長期的な再建計画を含む、紛争解決の見通しと可能性に関する研究書を英文で刊行し、政策的価値の高い成果に繋がった。

これらの日頃の活動は、ROLES が主導したヨルダンでの大規模国際会議などのトラック 2/1.5 の協議・政策／戦略対話を主宰し、各国の知識人や要人の参加を得て、日本の外交・安全保障政策の幅を広げるために一歩となっている。

「歴史」と「現在」の往還関係に基づく政策志向の研究

第二に、『西側』の論理の検証と再構築」や「日本の価値観外交の検証と再構築」で、歴史研究の手法を取り入れ、現在起こっていることを現在の事象のみによって理解するのではなく、そこに至る歴史的経緯を踏まえ構造的に捉えることを試みた。アカデミックなバックグラウンドを持つ研究メンバーを多数集めることが可能な ROLES としての強みを最大限に活かすアプローチと言える。その成果は、岸田外交をはじめとする日本の外交・安全保障政策、NATO の結束、フランスのインド太平洋政策といった現代的事象に関する刊行物やイベントの開催に繋がった。

宗教と地域研究に基づく知見の活用

第三に、国際秩序を支える理念の研究という本プロジェクトの趣旨から、研究会「宗教と社会の関係の検証と再構築」を組織し、日本及び世界の宗教的価値観と紛争との関わりという、多くのシンクタンクがカバーしてこなかった側面に取り組んだ。特に中東やバルカン地域の紛争について知見の拡大を図った。また、日本の宗教伝統や価値観を海外に伝えることで、海外における日本の理解を深めると同時に、日本固有の価値観を相対化し再認識することにも繋がった。「戦争の記憶の継承」について、ボスニア・ヘルツェゴビナとの比較を通じて東アジアにおける戦争の記憶を相対化し視野を広げた。

我が国の安全保障課題に関する国際的発信

本事業のこれらの研究会のメンバーが中心になり、東大先端研 ROLES が実施する他の事業と協力して、ヨルダン・アンマンでの日本・中東戦略対話会議や、東京への UAE・Trends の年次国際会議の招致という形で、大規模な国際会議を開催した。また、『国家安全保障戦略』でも懸念国として指摘されている北朝鮮のグローバル展開に関する研究成果を『ROLES REVIEW』Vol.5 として英語で刊行できたことは、日本の安全保障に大きく関わる対象についての前例の少ない独自の調査研究の成果として特筆される。北朝鮮によるロシア・ウクライナ戦争への兵員派遣等の事象により、この先駆的調査研究の重要性は再確認されることとなった。

機動的な海外出張による時事的問題についての情報収集と国民の理解促進

ROLES が実施している各種の事業間で予算を拠出し合い、研究メンバーや研究メンバーの推薦した人材を、日本にとって戦略的な価値の高い国・地域のシンクタンクや研究機関、政府要人や専門家との協議・対話のために小規模の訪問団として派遣する「遊軍」制度を設けた。それにより、エストニアやリトアニア、ポーランドやハンガリー、あるいはモンゴルやタイ・中国国境地帯といった、ロシアや中国の周辺に位置する戦略的に重要な国・地域に機動的に有力な研究者を派遣し、現地の有力機関や政府機関との対話・協議の場を多数設定した。また、これらの出張の成果は今後の学術的刊行物のための基礎とするだけでなく、まずは「出張報告」として速報的に公開することで、日本の外交・安全保障政策にとって戦略的な価値の高い国・地域と関係強化を必要とする相手先を特定し、国民の理解を促進すると共に、他のシンクタンクや研究機関、政府機関にも、日本として重点を置くべき地域や方向性を示すことができたと自負している。

② 来年度に向けての反省点と対策

来年度は本事業の最終年度であり、本年度で見られた反省点を着実に活かしていく必要がある。個々の細かい反省点は以下の項目に譲るが、全体としては次のような点が指摘できよう。

第一に、各研究会の活動にかなりのばらつきがあった。活動の方向性がそれぞれ異なることは当然であるとしても、成果物の発信などについて、非常に充実した研究会とそうでなかった研究会が混在していることは問題である。

第二に、一般の国民に向けて外交・安全保障について理解を促すための取り組みがまだ十分とはいえない。本事業にはアカデミックな性格の強い研究会が多いためと思われるが、その成果をより広く活用してもらうためには、もっと「軟らかい」アプローチも必要となろう。

第三に、研究会間の連携不足、あるいは発信の属人性である。本事業は内外の有力研究者の巻き込みにかなりの程度成功しているが、それら研究者が持っているプロジェクトやネットワークを相互に連携させ切れているとはまだ言えない。2年間の実践を通じて連携の芽自体は生まれているので、最終年度である来年度にはその成果を最大限に開花させたいと考えている。

● 事業テーマ及び補助事業者の企画に基づき、情報収集及び調査研究が的確に行われたか。

① 各研究会の活動を通じた情報収集及び調査研究の着実な実施

本事業の下に設置された各研究会の今年度における活動状況を以下のとおりまとめる。

「インド太平洋の安全保障構想」（座長：山口亮東京国際大学准教授）

本研究会では、ROLES で実施している別の外務省補助金事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」内の研究会「安全保障政策研究のための衛星画像分析」と合同で北朝鮮の核開発に関する合同研究プロジェクトを実施した。北朝鮮制裁パネルで実務に携わった古川勝久氏など専門家を交えての研究体制を確立することができた。また11月に韓国で開催された日韓安全保障対話に研究メンバーが参加した。

「安全保障協力体制の構想」（座長：岩間陽子 GRIPS 教授）

研究会「安全保障協力体制の構想」は、欧州の経験を参考にして、アジアにおける信頼醸成の枠組みを、日本が主導して構築することを目的としている。欧州における信頼醸成枠組みである OSCE に繋がった 1975 年のヘルシンキ最終文書から 50 年にあたる 2025 年に、「アジア版 OSCE」の可能性を検討する大規模な国際会議を開催する予定であり、そのために、東京での準備会合と、モンゴル等の主要な協力国の研究機関との関係構築を進めている。本年度はこれに向け、信頼醸成についての知見を蓄積するために 4 回の研究会合を実施した（開催見込み含む）。さらに 11 月には研究会メンバーがモンゴル・ウランバートルを訪問し、現地の研究者、政治家、実務家等と国際会議の開催について意見交換を行った。モンゴルは 2012 年より OSCE 加盟国であり、また 1980 年代以来ア

ジアにおける地域安保対話に積極的で、「ウランバートル・ダイアログ」等を実施している。このため、国際会議開催の最有力候補地と考えている国である。訪問の結果、多くの研究機関と今後の協力について合意することが出来た。特に今後のトラック 2 対話の実現に向けた道筋をつけることができたことは大きな成果である（後述）。

「『西側』の論理の検証と再構築」（座長：細谷雄一慶應義塾大学教授）

研究会「『西側』の論理の検証と再構築」では、国内においてはポピュリズムによる政治・社会の動揺、国際政治においては中国やロシアなどの権威主義国家からの脅威や、いわゆる「グローバル・サウス」と呼ばれる国々による挑戦に直面している「西側」諸国の政治・外交・安全保障のあり方を多角的に検証し、今後の指針を提案することを目的として活動している。本年度は全 5 回すべての研究会合を研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」（総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」）との合同で開催し、「西側」の論理をより多角的に検証した。また、「激変する欧州・世界の中の NATO—『模索する NATO—米欧同盟の実像』をめぐって—」（7 月 26 日開催）、「西側同盟の運命—結束は持続可能か？」（9 月 26 日開催）、「バイデン政権・岸田政権後の日米同盟とグランド・ストラテジー」（9 月 28 日開催）と 3 回の大規模なシンポジウムを開催し、これらのテーマに関する国民の理解の増進に努めた。特に 9 月に開催した 2 つのシンポジウムは慶応義塾大学戦略構想センター（KCS）との共催でイギリスのケンブリッジ大学地政学研究所、アメリカのジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究所（SAIS）から著名な研究者を招へいし、国際的なネットワークの構築と、国際的な発信力の強化に繋がった。

研究会「紛争解決の理論と実践」（座長：篠田英朗東京外国語大学教授）

研究会「紛争解決の理論と実践」では、昨年発足させたウクライナ国立工科大学の研究グループと日本の欧州研究者を糾合した日・ウクライナ共同研究プロジェクトを推し進めることによって、ロシア・ウクライナ戦争の終結シナリオや、それが国際秩序に与える影響などについて重厚な研究・分析を行ってきた。その成果は、英文書籍、Hideaki Shinoda and Pavlo Ferdorchenko- Kutuyev eds. *The Impacts of the Russo-Ukrainian War: Theoretical and Practical Explorations of Policy Agendas for Peace in Ukraine* (Springer, 2025)として刊行された。

また、同研究会では、11 月 3 日（於・バングラデッシュ）に、BISS との共催で「ROLES-TUFS-B IISS Dialogue on Bangladesh in Transition: New Directions for FOIP and BIG-B」を実施した。他にも、インドの United Service Institution of India 及びスリランカの University of Colombo において「南アジアと FOIP」に関する研究会を、また、ケニアのナイロビにおいて IGAD Leadership Academ

y と共催の形をとって「Violent Extremism in the Horn of Africa」研究会を開催した。これらはいずれも、本年 2 月の国際会議を基盤とした会議であり、一過性の関係構築ではなく継続的かつ定期的に協力できる体制を整えながら、25 年度中の第二の英文論文集の刊行を目指し、取り組んでいる。

このように、ウクライナ、南アジア、東アフリカの紛争解決研究に同時に取り組むことで、紛争解決の理論と実践の現状を地域横断的に分析・評価し、可能な限り政策的含意のある視座を提示できるよう努めた。

研究会「宗教と社会の関係の検証と再構築」（座長：市川裕東京大学名誉教授、西村明東京大学教授）

日本の宗教伝統や戦争の経験の理解を通じ、世界の他地域、特に多神教地域における宗教や戦後社会の理解を深める活動を行なった。また、一神教社会に属さない日本が、各宗教が分断されている社会において交流を深める媒体となり、平和構築において独自の役割を果たす試みを行なった。カリフォルニア大学サンタバーバラ校で開かれたワークショップ「Animism Today」（10 月 21-22 日開催）では、アニミズムの伝統が根強く残る日本と、一神教圏の米国の研究者が集い、一神教の観点とアニミズムを日常の存在とする社会の観点からアニミズムについて議論することにより、日本の宗教に対する理解を深めた。サラエボでは日本とサラエボの研究者がそれぞれ戦後社会における戦争の記憶の継承と再構築について語り合う「サラエボ・シンポジウム」（10 月 23 日開催）を実施した。大戦後 80 年が経とうとし、実際の戦争の記憶を持つ人々が少なくなっている日本と、内戦から 30 年近く経ち戦後生まれの若者たちが社会に出始めているボスニアという、それぞれ戦後の異なるフェーズにある社会における実践と課題を比較することにより、戦後社会についての多角的な視野を模索、発表した。座長の西村明東京大学が発表した“Hibakusha Masked by Borderline: Atomic Bomb Victims from Amami Archipelago”は Conference Paper としてウェブサイトに掲載されている。また、日本と韓国、およびボスニアで対立するセルビア人・クロアチア人・ボシュニャク人それぞれを代表する大学の学生達計 12 名が 1 週間を過ごす「徳之島国際ユースキャンプ」を在ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館の後援を受け開催し、参加学生たちがそれぞれの戦後社会における経験を語り合い、戦後生まれの若者達による歴史認識の見直しを促した。特にボスニア・ヘルツェゴビナの 3 民族の融和に向けた活動は成果が大きい。また、3 民族の学生による戦後社会の捉え直しを進めた徳之島国際ユースキャンプを 2 年連続で開催した。

研究会「エネルギー国際秩序における日本の立場」（座長：岩瀬昇）

主要エネルギー消費国のエネルギー安全保障政策を国際比較することを目的として研究活動を実施した。この過程では日本エネルギー経済研究所から報告者 2 名、第 2 回会合ではオブザーバー参

加も加わるなど、同研究所との連携を強化することができた。また、このうちの一名は SK Energy から出向中の Kim Saehoon 氏であり、国際連携を強化する効果もあった。また、2024 年度中に、第 7 次エネルギー基本計画をめぐる政策提言を取りまとめた。

研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」（座長：井上正也慶應義塾大学教授）

本研究会では日本、特に、戦後の日本がいかなる「価値」を重視した対外政策を展開してきたのか、歴史的に検証することを目的としている。今年度は、戦後日本外交のあゆみを全体として理解するため、通史的な検証のための研究会合を緊密な頻度で重ね、知見の蓄積をおこなってきた。来年度は、これらの成果をシンポジウムなどの形で対外的に発表することで、「これまで」と、そして「これから」の戦後日本外交における「価値」について、より開かれた場で考察・展開していくことを計画している。また後述するように、今年度の末に、大学院在学中の若手研究者を米国に派遣するなど、積極的な若手支援に取り組んでいる。

サブユニット「国際政治とリーダーシップ」（ユニット長：山口航帝京大学専任講師）

サブユニット「国際政治とリーダーシップ」では、対外政策における「個人」の役割の意義と限界を歴史的に分析することで、今日へのインプリケーションを導き出す取り組みを行ってきた。とりわけ、今年は日米関係に焦点を当て、首脳会談の意義、在日米軍基地をめぐる政治的リーダーシップ、日本の対中政策をめぐる「個人」の役割などを検討してきた（見込みも含む）。それらの成果の一部は、山口航『日米首脳会談：政治指導者たちと同盟の 70 年』（中公新書、2024 年）；『ROLES Review』Vol. 6（特集号：対外政策における「個人」の役割——その意義と限界——）に反映されている。さらに、メンバーには、日米にとどまらず、ロシア・ソ連、イギリスやドイツの専門家も加わったこともあり、来年度以降は、その射程を広げていくことを目指す。

また、本サブユニットは、メンバー全員が「若手」から構成されているだけでなく、成果物の 1 つである『ROLES Review』Vol. 6 には、2 名の関西の大学院生による論文も所収されており、地方の若手育成にも力を入れている。今後もその輪を広げていきたいと考えている。

② 研究会ごとの活動のばらつきと連携の不足

本事業における今年度の問題としては、いくつかの研究会（研究会「インド太平洋の安全保障構想」等）の活動が非常に不活発だったことである。研究会自体は実施できているにもかかわらず、その成果を発信できない事例があったことも残念であった。これは事業全体の総括であり「インド太平洋の安全保障構想」座長でもあった山口亮特任助教が他大学に転出したことによるものであ

り、最終年度での活動の再構成を必要とする事情である。活動の低調な研究会を整理統合し、現在成果の出ているプロジェクトにリソースを集中させることを検討している。

研究会同士の交流は国際会議を共同企画・参加によって随時に実現できたものの、恒常的な研究会同士の相互参加の機会を増やす仕組みが必要である。他にも、成果物として動画を撮影する際に複数の異なった研究会のメンバーが出演することや、国内向けにも複数の研究会による合同シンポジウムを実施するといった取り組みを行うことが最終年度の研究会横断の総合のために効果的だろう。

(機動的かつタイムリーな国内外への発信)

- 海外のシンクタンクの動向も参考に、広報責任者を設置する等の措置を講じて、訴求対象ごとに、発信のタイミング、形式、内容等を工夫し、戦略的な発信に意を用いているか。

① 情報の需要層に応じた複合的な発信

文字メディアの需要層に対する突っ込んだ地域的インテリジェンスの発信

第1年度目に広報責任者に任命したマスコミ出身の国末特任教授を中心として、多角的で即時・大規模な国際展開を行うことができた。その第一は、活発な現地調査と迅速な成果発信である。研究メンバーによる幅広い現地調査を多数実施してコメンタリーとして刊行したことに加え、現役新聞記者による米国大統領選の現地ルポを3回にわたって掲載し、X上で4万回以上の閲覧数を記録しているなど、従来のシンクタンクのコミュニティを超え、マスメディアと同等の一般社会へのアウトリーチを実現しつつある。こうした文字による発信は、新聞などの在来型メディアを中心とした読者層により深い情報分析を届けることを意図したものであり、大きな効果があったと考える。

多様な文字媒体による発信

従来の「ROLES Report」、「ROLES Commentary」、「ROLES Sat Analysis」「ROLES Insights」といった媒体に加え、今年度は「Conference Papers」、「ROLES Working Papers」を新たに設けることで、時事問題の分析や解説にとどまらない、より詳細な専門家の議論や考え方、分析枠組みなどを即座に公開できる仕組みを整えた。また、それらは日本語と英語の双方で公開されるようになっており、研究活動の成果が日本および海外で幅広く参照されるよう配慮している。

動画メディアの需要層に対する機動的な発信

第二に、国際情勢の展開に合わせた動画発信を心がけた。米国大統領選に際してはその選挙制度を動画で解説したり、過去の政治的事件を当時の写真を使って解説するなど、動画メディアを主な情報源とする若者層に正しい国際情勢理解を提供することができた。これらの取り組みは、動画や音声での機動的な発信を活発に行う欧米シンクタンクの取り組みを参考にしたものである。動画を

掲載している ROLES の YouTube チャンネル「ROLES Channel」の登録者数も順調に増加し、本報告書の作成時点で 1000 名を超え、日本のシンクタンクとしては有数の規模となった（これを上回るのは地経学研究所のみ）。特に、研究会「インド太平洋の安全保障構想」は、プーチンの訪朝や、韓国で起きた戒厳令にまつわる事象を分析・解説した動画を機動的に発信するなど、スピード感を持った対外活動を行なった。

海外メディアによる報道

第三に、特に中東に関する本事業の主催・共催する大規模な国際会議では、現地メディアによる大規模な報道が行われた。UAE の最有力メディアであるアル・イッティハードをメディア・パートナーとして、アラビア語および湾岸の英語メディアでの大々的な報道に繋がるなど、日本のシンクタンクが直接中東の世論に意見を届ける類例のない事例となった。

② 我が国の外交・安全保障政策に関する国際的発信の不足

上記のように、我が国の安全保障課題に関しては、英語論文集が刊行されるなどの成果が挙げられている一方で、我が国の外交・安全保障政策に関する分析や考察が英語媒体で発信されることが少なかったことは課題である。これまでも、国際セミナーやシンポジウム、研究会などにおいて、多くの発信を行ってきていることは間違いないが、もう一步踏み込み、これらを文字媒体として残すことで、より一層日本の立場に関する分析を多くの関係者の目に止めることができると考えられる。そのための手段として、上記のように多様な文字媒体を設けた。それらを一層活用することで、我が国の外交・安全保障政策に関する分析や考察を発信していく。加えて、講演録の作成等を検討しているところである。

- 補助事業者・研究者個人によるインターネット、SNS 等による広報やセミナー・シンポジウムの実施・参加等を通じ、日本の主張・視点の国際社会への発信が機動的・タイムリーかつ積極的になされたか。その結果として国際世論の形成に参画することができたか。

(※活動内容のみではなく、どのような発信が、どのように国際世論の形成への参画につながったかを総括的に記載すること。)

① 事業自体の国際性を活かしたイベント開催と発信

高頻度の国際セミナー・シンポジウムの実施

日本・中東戦略対話や UAE との AI と安全保障をめぐる国際会議が英語を共通言語とすることは言うまでもないが、これらの大規模な国際会議に限定されず、本事業の研究会のうちいくつかは平素から英語による国際研究会として実施され、加えて随時公開セミナーやシンポジウムを英語を共

通語として開催してきた。在京外交団の対面参加や、オンラインでのウェビナーによって日本の主張・視点の国際社会への発信に効果があったものとする。普段は日本語を中心としている「宗教と社会の関係の検証と再構築」についてもカリフォルニア大学サンタバーバラ校やボスニアでのワークショップを実施するとともに、徳之島での若者向けイベントを実施した。

国際的な若者交流イベントの地方での実施

徳之島で2024年12月に行われた「徳之島国際ユースキャンプ」では、ボスニアで対立する3民族それぞれを代表する大学と韓国、日本の大学生計12名が徳之島で1週間過ごし、戦後社会を生きることについて学び合った。戦後、日本本土の占領が終了してからも米国による占領統治が続いたが、島民の運動などにより、短期間で日本復帰を果たした歴史がある。このような、本土とは違う、特殊な戦争体験・戦後体験が受け継がれてきた徳之島において、ボスニアの3民族と韓国・日本の戦後生まれの学生たちが集まることにより、それぞれの戦後社会を相対化し、戦争により生まれた摩擦や分断を乗り越えるひとつの契機を提供した。

英語での刊行物の発行

研究会「紛争解決の理論と実践」では、昨年発足させたウクライナ国立工科大学の研究グループと日本の欧州研究者を糾合した日・ウクライナ共同研究プロジェクトの成果として、英文書籍『The Impacts of the Russo-Ukrainian War: Theoretical and Practical Explorations of Policy Agendas for Peace in Ukraine』(Hideaki Shinoda, Pavlo Ferdorchenko- Kutuyev, Eds.)を刊行した。この他にも本事業の枠内では、多数の英語発信が、尚且つ現在進行形の外交・安全保障課題に関係して行われたことは大きな成果と言える。

② メディア・SNS 発信

ROLES が実施している他の事業との比較において、メディア・SNS での発信が本事業では今ひとつ低調である。ROLES や研究メンバー個人々の発信力により、またカウンターパートの海外の研究機関の媒体による発信によって補われているものの、ROLES としての英語での発信を強化する必要がある。

- 補助事業者・研究者個人によるインターネット、SNS 等による広報やセミナー・シンポジウムの実施・参加等を通じ、国民の外交・安全保障に関する理解増進に取り組んだか。また、その反響があったか。

(※活動内容のみではなく、どのような活動がどう国民の理解を増進したのか、どのような反響があったかを総括的に記載すること。)

① 活発なインターネット・SNS 発信とメディア・ミックス

機動的な発信と SNS 発信の相乗効果

東大 ROLES は代表の個人 X アカウントが 7 万フォロワー、副代表の個人 X アカウントが 21 万フォロワーに対して、常時外交・安全保障に関わる情報・議論を活発に提起している。同時に、個人的な非公式な発信に頼ることなく、東大 ROLES の公式 X アカウントを運用しており、ROLES ウェブサイトにアップロードされる刊行物や動画、イベントやニュースを逐一広報している。また、その他の研究メンバーの多くも X アカウントを持ち、ROLES 公式アカウントのポストをリポストすることで拡散を図るというサイクルで発信力の強化を図っており、その訴求力・拡散力は非常に大きい。上述した機動的な発信と組み合わせることで、国民の理解増進に貢献しているものとする。

一般向けセミナー・シンポジウムの開催と活用

7 月に、研究会『西側』の論理と再構築」委員である鶴岡路人慶應義塾大学准教授の『模索する NATO-米欧同盟の実像』の書籍刊行を記念したブックローンチ・イベント「激変する欧州・世界中の NATO」を開催し、NATO の歴史と今後の展望について登壇者が議論した。このイベントは 100 名以上の一般聴衆の参加があった。研究会「紛争解決の理論と実践」では、3 月上旬に、英語での書籍刊行に際しての公開セミナーを実施する。

メディア・ミックスによるアウトリーチ

一種のメディア・ミックス的アプローチを用いて幅広い国民へのアウトリーチを目指した。テレビや新聞・雑誌への露出に加えて、本事業の研究メンバーがインターネット番組「国際政治チャンネル」に出演したり、その内容が新潮社のインターネットメディア「Foresight」で記事化されるなど、一つの発信を複合的に展開していくことも行われている。

「国際政治とリーダーシップ」の山口航ユニット長（帝京大学専任講師）および小南有紀研究委員（日本国際問題研究所研究員）が、福田康夫元内閣総理大臣へのインタビューを行い、冷戦後の日本外交、とりわけ日米関係とアジア外交に焦点を当てた証言が雑誌『外交』へ掲載され、日本外交の専門家を中心に反響を呼んだ。また、『西側』の論理の検証と再検討」のメンバーは、テレビ、雑誌、新聞などで積極的に発信を行った。岩間陽子「信頼醸成はアジア版 OSCE」（『毎日新聞』朝刊 2024 年 10 月 25 日）、細谷雄一「連載 地球を読む」（『読売新聞』定期連載）、「連載 世界を解く」（『産経新聞』定期連載）、鶴岡路人「日本と NATO を近づけた「共通の脅威」とは」（『朝日新聞 デジタル』2024 年 7 月 11 日）といった記事はいずれも SNS で広く拡散され、広く読まれた。

② 発信力のさらなる強化に向けて

ROLES の X におけるフォロワー数は本報告書作成時点で 4088 人であり、国際問題研究所や地経学研究所といった他の国際シンクタンクより小さい。代表・副代表の個人的・非公式な発信力に多くを依存している傾向があり、公式アカウントを通じた ROLES ウェブサイトの刊行物・動画発信と、成果物の魅力をさらに分かりやすく広報することによって、より多くのフォロワーを獲得し、SNS 発信力の強化を図る必要がある。

(外国シンクタンク・有識者等との連携、ネットワークを通じた国際世論の醸成への貢献)

- 研究過程における外国シンクタンク・有識者等（在日の有識者、外交官、外国メディア関係者を含む）との定期的な討論や共同研究等を通じ、諸外国の視点や海外シンクタンク・有識者等のネットワークを取り入れた調査研究や、日本の立場や見解に関する外国シンクタンク・有識者等による理解の増進に取り組んでいるか。

(※ 活動内容のみではなく、外国シンクタンク・有識者との連携がどれほど、どのように深められたかを総括的に記載すること。)

① 国際的な連携の拡大とトラック 2/1.5 対話のハブとしての地位の確立

シンクタンク間連携

海外の主要シンクタンク・研究機関との政策対話や共催国際会議を積極的に行い、国際連携の相手先を多く開拓した。研究会「紛争解決の理論と実践」では、11 月 3 日（於・バンガラデッシュ）に、BISS との共催で「ROLES-TUFS-BISS Dialogue on Bangladesh in Transition: New Directions for FOIP and BIG-B」を実施した。これは、本年 2 月の国際会議に基づいた会議であり、一過的な関係構築ではなく、継続的かつ定期的に協力できる体制を整えている。また、同研究会は、2024 年 6 月 10 日に、訪日中のウォックナー・ゲベヨウ政府間開発機構事務局長（Dr. Workneh Gebeyehu, Executive Secretary, Inter-Governmental Authority on Development (IGAD)、元エチオピア外務大臣）と、非公開会合を行い、「アフリカの角」の紛争解決・平和と安定のための日本の政策について、東アフリカ・紅海情勢について意見交換を行った。ここでは、今後の IGAD の活動への日本の関与、特に IGAD Leadership Academy (ILA)への日本の協力要請が行われたように、新たな協力関係構築の取り組みも随時行なっている。

2/1.5 トラック協議・政策／戦略対話

<チェコ・カレル大学とのラウンドテーブル>

さらに今年度の本事業の枠内では、ROLES をハブとする 2/1.5 トラックの協議・政策／戦略対話が活発に展開された。5 月には、ROLES、慶應戦略構想センター（KCS）およびカレル大学の戦略的

コミュニケーション研究所（Center for Strategic Communication）共催のラウンドテーブル「戦略的コミュニケーションと地政学：チェコから日本へ」がプラハのカレル大学で開催された。同ラウンドテーブルでは、世界的な不確実性が高まる中、安定的な秩序を構築・維持するためにも戦略的コミュニケーションが不可欠であることが確認されたほか、チェコ・日本間において戦略的コミュニケーションとサイバーセキュリティの分野で協力する余地があることなどが話し合われた。

<日本・中東戦略対話>

5月には ROLES とヨルダン大学戦略研究センター（CSS）共催の「日本・中東戦略対話」がアンマン市内のヨルダン大学で開催された。両国のみならずエジプト、カタール、アラブ首長国連邦（UAE）、トルコ、パレスチナ、モーリタニアなど中東・アフリカの主要国、欧米、国連、国際機関からも多数の研究者や政治家、ビジネス関係者、国際機関スタッフや学生ら各界が参加し、ガザ情勢や中東政治の今後、経済協力や投資の可能性、地域の将来像などについての議論が行われた。東大先端研と CSS は包括的連携協定を締結した。

9月には UAE のシンクタンク Trends International の、従来はワシントン DC のアトランティック・カウンシルで開催していた年次国際会議を東大先端研で開催し、併せて Trends と東大先端研の覚書締結で合意した。

<モンゴルとのトラック 2 対話の実施合意>

研究会「安全保障協力体制の構想」のメンバーがモンゴルを訪問し、モンゴル国家安全保障委員会・戦略研究所（Institute for Strategic Studies, National Security Council, Mongolia）との間において協議を行い、2025 年 8 月後半に共催で「50 Years Helsinki Final Act: European Experience and Asian Future」という共通題目でアジアの安全保障協力体制の提唱を目指したトラック 2 の国際会議を開催することで基本合意ができた。

<日豪抑止対話>

12 月、研究会「『西側』の論理の検証と再検討」のメンバーがオーストラリア・キャンベラを訪問し、オーストラリア国立大学戦略・防衛研究センター（the Strategic and Defence Studies Centre (SDSC), Australian National University）と共催で「日豪抑止対話」を開催した。インド太平洋地域における核兵器の役割、同盟間協力のあり方などについてオーストラリアの研究者と意見交換を行った。

② 本年度の成果を活かした成果の着実な刈り取り

本年度における国際的な連携・ネットワークの拡大は非常に充実したものがあった。今後の課題は、こうした関係性を生かして対話や成果物の刊行等を着実に実施していくこと、また国際会議の連続開催を行い、持続的なプラットフォームとして確立させ、「残る」ものとするものである。この点は最終年度の課題としたい。

- G 7、安保理常任理事国以外の国のシンクタンクとの意見交換・セミナー実施を通じて、我が国の情勢認識及び外交施策に関する理解増進、並べに我が国にとり望ましい国際世論の醸成に取り組んでいるか。

① G 7、安保理常任理事国以外の国々に向けた理解増進と国際世論情勢の取り組み

上記してきたように、東大先端研 ROLES のシンクタンク・研究機関との対話・協力関係は主に G7 や安保理常任理事国以外の国との間で行ってきた独自のものであるが、本年度はこれ以外にも以下のように特筆すべき試みがあった。

石本特任研究員のオーストラリア訪問

石本特任研究員が7月下旬から8月上旬にかけて、オーストラリア・キャンベラおよびシドニーを訪問し、意見交換および関係構築を行った。7月29日には、オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジにて開催された、日本外交・安全保障政策に関するラウンドテーブルに参加し、FOIP や QUAD に対する日本の姿勢や、安倍外交と岸田外交の連続性についての意見交換を行なった。さらに、7月31日には、オーストラリア国立大学ヘドリー・ブル・ビルディングにて、Amy King・オーストラリア国立大学戦略防衛研究センター准教授および、Guibourg Delamotte・INALCO 教授（東大先端研客員上級研究員）と、米中関係、中国の国際秩序観、インド太平洋における国際関係と日本の役割に関する意見交換を行ない、今後も意見交換を続けていくことを確認した。8月2日には、シドニー大学にて、シドニー大学アメリカ研究センターおよび Lowy Institute のメンバーなどと、インド太平洋をめぐる国際関係、日豪関係、日米豪関係、中豪関係についての意見交換・議論を行なった。8月3日には、シドニー市内にて、花田龍亮・マッコーリー大学博士候補生と、日本外交、日豪関係、安全保障政策における「認識」論などについて議論し、花田氏の紹介により、10月18日、マッコーリー大学の上級講師である Dalbir Ahlawat 氏より、インド太平洋における日豪印関係、島嶼国の地政戦略上の重要性、リーダー交代後の日米関係についてのインタビューを受けた。このように、石本特任研究員のオーストラリア訪問は単なる意見交換や議論にとどまらず、インド太平洋地域的外交・安全保障に関する議論に ROLES が積極的に関与し、我が国に外交政策に関する理解増進や国際世論の情勢に大きく寄与する道を開くものとして大きな成果を挙げた。

旧ユーゴスラビア諸国の大学との研究協力合意

ボスニア・ヘルツェゴビナのセルビア系準国家であるスルプスカ共和国のバニャルカ大学と、サラエボ大学も含めた研究協力の合意をした。ボスニア・ヘルツェゴビナはセルビア正教のセルビア人、カトリックのクロアチア人、ムスリムのボシュニャク人という3民族の間の政治的社会的な分断が深刻で、学術上の交流もほとんど見られない。一神教伝統に属さない日本が介在することにより、セルビア系とムスリム系との間の研究協力が実現されることは、非一神教の日本文化が一神教圏において果たすことのできる役割を再確認させるものである。

モンゴルでのセミナー実施、政府機関・研究機関との意見交換

研究会「安全保障協力体制の構想」では、欧州安全保障協力機構（OSCE）をモデルに、アジアにおいて安全保障協力の機構・体制を構想し提案することを企図し、その鍵となる国としてモンゴルに焦点を当てている。そのために研究会で訪問団を募りウランバートルを訪問し、モンゴル国立大学でセミナーを開催し、訪問メンバーが日本の外交・安全保障政策についての報告を行なった。また、モンゴル外務省、モンゴル国家安全保障委員会戦略研究所、科学アカデミー国際研究所、コンラート・アデナウアー財団モンゴル支部、モンゴル国立大学法学部、在モンゴル国日本大使館、JICA モンゴル事務所を訪問し、研究者、政府高官等と日・モンゴル関係について意見交換を行い、アジアにおける安全保障協力体制の構築に向けて、政府実務者と有識者との意見交換を進めた。

② 諸外国の一般国民に向けた理解増進の取り組みの強化

今後はG7、安保理常任理事国以外の国の一般市民に日本としての声を届けていくことであろうと思われる。今後の国外イベントでは一般市民も招いての公開シンポジウムを行うことなどが一つの方向性として考えられよう。我が国の主権・領土に関わる問題や安全保障課題については海外メディアへの露出をさらに増加させていくことも求められると認識している。

（2）補助事業の実施体制及び実施方法

- 若手、女性、地方在住研究者を積極的に登用しているか。若手研究者の育成（英語による発信力の強化を含む。）に取り組んでいるか。

① 多様な人材の発掘と育成

若手・地方在住者・女性の登用によるインクルーシブな研究体制の実現

本事業で実施する研究会・研究プロジェクトにおいては、若手・地方在住者・女性を含めることを原則としている。具体的な数値は後述するが、研究テーマにそぐう適切な人材の中に若手・地方在住者・女性が存在しないといったやむを得ない場合を除き、この原則は徹底して守られてきた。

中でも若手の登用は ROLES の重要なアイデンティティである。エスタブリッシュされた人材のプールであるだけでなく、これからの世代を担う若手人材の発掘と登用がシンクタンクの重要な役割であるとの信念に基づくものであり、今後とも ROLES の活動の中核としていきたい。

サブユニットを活用した若手研究者間の協力

サブユニット「国際政治とリーダーシップ」では、「外交や安全保障といった対外政策において、政治的リーダーはこれまでどのような役割を果たし、リーダーシップをとってきたのだろうか」という問題意識のもと、分散的な個人研究に留まらず、研究者間で連携して調査研究を行ってきた。同ユニットはユニット長の山口航帝京大学専任講師をはじめとして研究メンバーの大部分が「アラサー」世代であり、その活動自体に若手研究者の登用を持たせてある。また、同ユニットの成果物として、論文集（『ROLES REVIEW』6 巻 特集号：「対外政策における『個人』の役割」）を刊行予定であるが、研究メンバーだけでなく問題意識を共有する地方の若手研究者も執筆者に加え、地方の若手人材発掘の場としても活用することを目指す。

若手研究者による英語発信力の強化

石本特任研究員が有力英字誌『The Diplomat』に“Strengthening Japan-US Security Relations Over Extended Deterrence”と題した論考を寄稿した。研究会「紛争解決の理論と実践」の共同研究の成果としての英文書籍'The Impacts of the Russo-Ukrainian War: Theoretical and Practical Explorations of Policy Agendas for Peace in Ukraine'(Hideaki Shinoda, Pavlo Ferdorchenko- Kutuyev, Eds.)には、交流研究生である安井氏（女性、若手）も寄稿しており、英語発信だけでなく若手育成と女性登用に寄与している。「エネルギー国際秩序における日本の立場」からは JOGMEC の豊田氏がヨルダンでの国際会議向けに"The Future of Energy Cooperation between Japan and the Middle East"を発表した。

インターン学生による英語発信機会の提供

これに加えて ROLES ではインターン学生に英語発信の機会を提供している。ROLES の教員の指導の下で学生たちがそれぞれの関心に従って調査研究を行い、ROLES コメンタリーとして発信するという枠組みであり、将来の研究者やグローバル人材を育成する取り組みとして期待される。また、研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」では、大学院修士課程の段階にいる若手研究者を 1 月に米国に派遣し、調査や知見を深めさせるなど、積極的な若手支援、グローバル人材の育成に取り組んでいる。

同志社大学での日英米国際研究集会の実施

9月28日、同志社大学アメリカ研究所部門研究6（テーマ：アメリカの分極化の実相と帰結——国際環境との相互作用／代表者：村田晃嗣（同志社大学法学部教授）との共催にて、公開シンポジウム「バイデン政権・岸田政権後の日米同盟とグランド・ストラテジー」を実施した（於：同志社大学烏丸キャンパス）。ケンブリッジ大学やジョンズホプキンス大学から国際関係の専門家を招き、本事業の研究会「『西側』の論理の検証と再構築」のメンバーや、「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」事業の研究会「自由・民主主義の動揺と再編」のメンバー、関西の大学生や大学院生など、30名以上が参加して英語で議論を行った。関西在住の研究者や、院生からの質問も相次ぎ、京都という場で、英語による国際関係の最先端 이슈に関するディスカッションの場が設けられた意義は大きい。また、関西で若手を巻き込んだイベントを行う足がかりを得られたという意味においても、一過的な成果にとどまらず、今後も展開が期待される。

② 女性人材のさらなる登用の必要性

本事業に関与する研究メンバー内では、ジェンダー・バランスには大きな問題はないと考えている。しかし、ROLESの専任・特任教員に限ってみると女性が非常に少ないという状況が依然として解決されていない。人事上の問題と関係するために一挙に改善することは難しいとしても、今後の重要な取り組み項目として認識する必要がある。

- 複数の分科会や研究会がある場合、それらの間の有機的な連携が取れているか。単一の分科会・研究会のみの場合は、分散的な個人研究に留まらず、研究者間で連携して調査研究・対外発信が実施されているか。

① 研究会を横断した研究・発信態勢

研究会間の協力による研究の実施

第1年度目と同様、各研究会の実施に際しては他の研究会にも案内を出し、研究メンバーが様々な分科会にクロス出席できるよう配慮している。ヨルダン・アンマンでの「日本・中東戦略対話」や東京でのUAE Trendsの年次国際会議のような大規模イベントでは、各研究会の座長・幹事や若手メンバーが登壇し、東大ROLESの諸事業の研究会の間の相互協力・相乗効果を産んでいる。

研究会「『西側』の論理の検証と再検討」は、本年度、全5回すべての研究会合を研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」（総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」）との合同で開催し、より多角的な視点から「西側」の論理を検証出来るよう努めた。また、サブユニット「国際政治とリーダーシップ」は、1月に、サブユニット「戦後日

本政治史検証プロジェクト」（総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」）をはじめとした複数の研究会と合同の研究会合を実施した。

海外での研究集会に関する研究会間協力

第2年度目に国内外で実施されたセミナー・シンポジウムはいずれも研究会の枠を超えて合同で実施されたものである。外国の研究者等を招いて実施している非公開ラウンドテーブル「RCAST SECURITY SEMINAR」も同様であり、インプットだけでなくアウトプットについても研究会間の連携とシナジー効果を意識するよう努めている。

事業を横断した「遊軍」派遣制度

ROLES が実施している各種の事業間で予算を拠出し合い、研究メンバーや研究メンバーの推薦した人材を海外調査に派遣する「遊軍」制度を設けた。この制度を用いて国末特任教授や神戸学院大学の岡部教授、北海道大学の服部教授などが外交・安全保障上の関心が高まる地域に機動的に出張し、情報収集を行うことができた。また、これらの出張の成果は今後の学術的刊行物のための基礎とするだけでなく、まずは「出張報告」として速報的に公開することで、日本にとって外交・安全保障上の重要な国・地域を東大 ROLES として特定し国民に示し、それらの国・地域に関する最新の情勢についての関心を高め、理解を促進するよう努めた。

② 制度化による有機的な連携を目指して

第2年度目までにおける問題は、研究会間の連携が研究者同士の個人的な関係によるところが大きかった点であると思われる。第3年度目においてはこの点を改善するため、年に一度は研究会同士の合同研究会合を実施するなど、連携をより組織的に制度化することを考慮する。

- 外務省等の関係部局とのコミュニケーションを構築し、政策立案上のニーズを把握し、それを踏まえて効果的にアウトプット・政策提言を行ったか。

① 直接的なニーズ把握に基づく知見提供

ROLES メンバーによる外交・安全保障政策への貢献

ROLES の大きな特徴は、研究メンバーが平素から政府関係者との密接な関係を構築し、我が国に求められる知見を直接的に把握しながら提供していくことが可能な点である。第2年度目においても、ROLES の研究メンバーが持つ知見を我が国の外交・安全保障政策に反映する機会を数多く持つことができた。中でも研究会「安全保障協力体制の構想」では、これまで述べてきたアジア版 OSCE 構想を岩間陽子座長らが提唱し、『毎日新聞』（10月25日）にも広く国民に向けた提言として掲載されたほか、実現に向けた具体的な計画が進んでいることは前述のとおりである。

刊行物を通じた政策提言

研究会「インド太平洋の安全保障構想」座長の山口特任助教が他事業の総括を務める小泉准教授とともに『2030年の戦争』と題した書籍を刊行した。2030年をターゲットとし、日本として望ましい安全保障政策のあり方について論じた政策志向型の刊行物である。

研究会「紛争解決の理論と実践」座長の篠田教授は、ガザ問題に対する日本外交のあり方や、国内武力紛争に対するアプローチなどについて検討し、複数の政策志向型の論考を發表している。それらはいずれも、日本語と英語で書かれており、幅広い読者に向けたアプローチを行っている。

〔Working Papers 日本語版〕篠田英朗「紛争解決の理論と実践の批評的な検討：『国際的な国内武力紛争』にはどのようにアプローチすべきか？」；〔Working Papers〕Hideaki Shinoda "A Critical Examination of Theories and Practices of Conflict Resolution: How do we approach 'International intra-state armed conflicts'?"；篠田英朗「ガザ危機に直面する日本が追求すべきこと」（ROLES Commentary No. 21）；〔Conference Papers〕Hideaki Shinoda "What Japan Should Pursue in the Face of the Gaza Crisis")。

② 組織としての知見提供・政策提言能力の向上

本事業はアカデミックな性格が強く、他事業と比較すると政府当局者からのニーズ汲み取りに関する機会に限られる傾向があった。他方、特定の研究メンバーについては非常に活発に政府当局とのコミュニケーションを持ち、知見の提供や提言を行なっている。来年度の課題は、こうした関係性を ROLES という組織全体のものへと展開していくこととなろう。

- 補助事業者のホームページ上に、研究部門、研究者個人（研究実績、写真、連絡先等）の情報を充実させ、研究内容及び研究者の見える化に努めているか。

① ROLES 事業の見える化

ROLES のサイト上では、各事業及びそれらを構成する研究会全てについてのページを設けている。研究メンバーについても同様である。また、成果物を観光したりイベントの実施についての投稿を行う際には、それがどの事業（研究会）であり、誰が参加したのかを管理画面上で選択できるようになっており、選択結果は自動的に各ページに反映される仕組みである。自動化により、各事業の実施状況や成果物の著者を取りこぼしなく可視化することに注意を払っている。

② 人手によるより細かいフォロー

一方、個人のプロフィールや写真、過去の業績等については人手で入力するほかないが、従来、人手不足によって入力が進まない状況が続いてきた。第2年度目においては、インターンを動員して各研究メンバーのページを重点的に充実させたことで、以上の問題はかなり解消されたと考える。次の課題としては、英語版のプロフィールページの充実に取り組む必要がある。

- 組織自体の外交・安全保障政策に関する政策提言能力及び国際発信力を強化し、国際的な議論の先導に努めているか。（※実施状況のほか、発信がどう国際世論の先導につながったかを記載すること。）

（※総合事業及び調査研究事業については本項目の記載は任意。）

① ROLES 自体の認知度を高める取り組み

パンフレットの制作

個別の事業や研究会だけでなく、組織としての ROLES の認知を図る取り組みを前年度から引き続いて実施した。その一つとして ROLES の紹介パンフレットを作成して訪問者や面談相手に配布してきたが、第2年度目には活動内容の拡充に合わせて新たなパンフレットの作成に着手した。同パンフレットは英語と日本語を併記し、外国からの訪問者が持ち帰って組織内で回覧してもらえるよう工夫している。また、ROLES が東大の一部局による公式のシンクタンクプロジェクトであることを利用して、東大先端研のウェブサイトや刊行物にもその名前や活動内容を掲載している。

ウェブサイトの改修

ROLES の運営するウェブサイトも、組織的発信の重要な手段である。そこで ROLES では毎年ウェブサイトの改修による高機能化を図っており、2024 年には日本語ページと英語ページをより効果的に連携するための大規模改修に着手した。従来は両言語のコンテンツが混在するなど、非日本語話者には見づらい仕様であったものを改善することが目的である。

② 個人から組織へ

ROLES の研究メンバーによる国際的ネットワーク開拓の試みは、特に第2年度目において大きな成果を挙げた。今後の課題は、こうして得られたネットワークを ROLES としての知名度や発信力にいかにして繋げていくかであろう。一つの方法としては、それぞれのメンバーに ROLES 独自の名刺を配布し、海外のカウンターパートの面会時に所属組織の名刺と一緒に手渡してもらうことが考えられる。「こんなプロジェクトに所属していて、こんなことをやっている」という話題が生まれる余地を生もうという目論見である。前述した英語版 X アカウントの開設も必要となろう。

- グローバルに活躍する若手人材を含む多様なシンクタンク人材の発掘・育成に意を用い、これら人材の国際的な発進力強化に取り組んでいるか。

(※総合事業及び調査研究事業については本項目の記載は任意。)

① 若手人材の発掘・育成と地方連携に関する方針と成果

若手人材を研究者として育てる取り組み

ROLES の若手人材発掘・育成は、当該人材を「研究者として育てる」という原則によって実施されている。若手人材をアシスタントや事務員として使うのではなく、あくまでも研究者として扱い、その能力を伸ばしていく方針ということである。実際、前事業及び本事業の第2年度目までに ROLES から多様な研究人材が輩出されており、第2年度目には山口特任助教が東京国際大学准教授に着任して英語による国際教育プログラムを担当することとなった。他方、第2年度目には新たに2人の若手研究者が特任研究員として ROLES に着任するなど、若手人材のキャリアにおける選択肢として ROLES は着実に地位を固めてきた。このほか、前述のインターン生にも英語発信を積極的に志望する学生がおり、ROLES 側研究メンバーの指導の下で発信の準備を進めている。

実務人材の輩出

また、第2年度目においては、田中（祐）特任研究員が JICA ウクライナ支援室に着任したほか、ROLES インターン生が防衛省に入省した。第2年度目は、外交・安全保障の現場で活躍する人材を ROLES が排出し始めた契機となった。

活発な地方イベントの実施

「徳之島国際ユースキャンプ」や同志社大学での日英米国際研究集会など、地方イベントを活発に実施している。ROLES の所在地である東京に偏ることなく、地方在住の学生や一般市民に対しても外交・安全保障に関する知見を取りこぼすことなく提供し、また海外との触れ合いの機会を提供することを意図したものである。

② 若手による国際発信へのテコ入れ

設立から日の浅い ROLES であるにも関わらず、若手人材を集めて研究に携わらせるという体制自体は比較的うまく機能していると考えられる。次なる課題は国際発信であろう。幸い、ROLES の国際交流は拡大傾向にあり、これらの機会を捉えて特任助教・特任研究員クラスの登壇や発言、海外でのイベントの開催・参加等をさらに促していきたい。これまで幾度か述べてきた定例ミーティング制度を用いて、事務負担などで若手が研究に専念できなくなる事態を避けることも効果があるだろう。もう一つの問題は、専任・特任教員の中における極端な女性比率の低さである。今後は若手女

性人材の採用と、当該人材による国際発信の推進を真剣に検討していく。地方イベントについては、これまで実施したことのなかった地域も対象として検討する。

(3) 補助金の使用

● 補助金事業事務処理マニュアルに沿って事業が実施されているか。

① 本事業団体では大学執行部、研究室の研究部門、事務部門にて「補助金事業事務処理マニュアル」を共有し、マニュアルに従った執行がなされている。

②

3-1 事業の実施状況・成果

※以下のカテゴリーに沿って、具体的な実施状況（日時、場所、参加者/参加人数、テーマ、調査、議論や対外発信の概要、成果等）について記載すること。（分量自由）

1. 基礎的情報収集・調査研究

分科会・タスクフォースによる研究会合の実施概要

各国際研究会、研究会、タスクフォースにおいて、以下のとおりの研究会合を実施した（予定も含む）。

(1) 研究会「インド太平洋の安全保障構想」

本研究会は、今年度は北朝鮮、豪州を軸に、海外有識者・シンクタンク・研究機関との国際会議を通じて情報収集を実施し、成果として『ROLES Review Vol.5』も刊行。以下、詳細は「2. 機動的かつタイムリーな国内外への発信（インターネット等による広報、公開セミナーの開催を含む）」「3. 外国シンクタンク・有識者等との連携ネットワークを通じた国際世論の醸成への貢献（若手人材の参画を含む）」を参照されたい。

1) RCAST セキュリティ・セミナー 「ある中央情報部分析官の生きざま」

【日時】2024年4月23日（火）14:00～17:00

【場所】東京大学・駒場リサーチキャンパス 13号館1階旧教授会室

【参加者／参加人数】20名

山口亮（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

康仁徳（北韓大学院大学招聘教授）

宮本悟（聖学院大学教授）

【概要 URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20240423>

2) Round table "For Japan, international security requires solidarity with the West"

【日時】2024年7月29日（月）14:00～15:30

【場所】オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ

【参加者】

Guibourg Delamotte（INALCO 教授・東大先端研客員上級研究員）

Frédéric Grare（オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ上級リサーチフェロー）

Justin Burke（オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ上級政策アドバイザー）

Aisling Philippa（オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ政策オフィサー）

石本凌也（東大先端研特任研究員）

オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ

【概要】

Guibourg Delamotte・INALCO 教授（東大先端研客員上級研究員）の基調報告を受け、その後、出席者間で議論した。

3）オーストラリア国立大学での意見交換

【日時】 2024 年 7 月 31 日（水）11:30～12:30

【場所】 オーストラリア国立大学 ヘドリー・ブル・ビルディング

【参加者】

Amy King（オーストラリア国立大学戦略防衛研究センター准教授）

Guibourg Delamotte（INALCO 教授・東大先端研客員上級研究員）

石本凌也（東大先端研特任研究員）

【概要】

出席者間で米中関係、中国の国際秩序観、インド太平洋における国際関係と日本の役割に関する意見交換を実施した。

4）シドニー大学での意見交換

【日時】 2024 年 8 月 2 日（金）16:00～18:00

【場所】 シドニー大学

【参加者】

高田志都香（シドニー大学アメリカ研究センターRA）

Jack Sato（Lowy Institute データアナリスト）

石田嵩人（外務省経済局資源安全保障室外務事務官）

日野原由佳（電子情報技術産業協会サブマネージャー）

佐藤洋介（国際交流基金国際対話部事業第 1 チーム長補佐）

井上麟太郎（慶應義塾大学大学院／国際文化会館地経学研究所 RA）

石本凌也（東大先端研特任研究員）

【概要】

シドニー大学にて、インド太平洋をめぐる国際関係、日豪関係、日米豪関係、中豪関係についての意見交換・議論。

(2) 研究会「安全保障協力体制の構想」

1) 打ち合わせ

【日時】2024年4月30日（金）9:30～10:40

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】3名

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

大庭三枝（神奈川大学教授）

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

研究会幹事（小林）より事業の趣旨について話があった後、参加者で今後の研究活動についての意見交換を行い、本会合を終えた。

2) 打ち合わせ

【日時】2024年7月5日（金）18:00～19:00

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】11名

岩間陽子（座長・政策研究大学院大学教授）

大庭三枝（神奈川大学法学部教授）

中村真咲（名古屋経済大学経営学部教授）

益尾知佐子（九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

Umirdinov Alisher（名古屋経済大学法学部教授）

桑原尚子（岩手県立大学総合政策学部准教授）

古賀慶（南洋工科大学社会科学部准教授）

LOTTAZ Pascal（京都大学白眉センター特定准教授）

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

鍛冶一郎（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

小林弘幸（幹事・東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

1. 岩間先生、池内先生より研究会の趣旨説明
2. 委員より自己紹介
3. 今後の研究会スケジュール等についての打ち合わせ

3) 第1回会合

【日時】2024年7月5日（金）19:00～21:00

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】10名

神保謙（慶應義塾大学総合政策学部教授）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

大庭三枝（神奈川大学法学部教授）

中村真咲（名古屋経済大学経営学部教授）

益尾知佐子（九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

Umirdinov Alisher（名古屋経済大学法学部教授）

桑原尚子（岩手県立大学総合政策学部准教授）

古賀慶（南洋工科大学社会科学部准教授）

LOTTAZ Pascal（京都大学白眉センター特定准教授）

小林弘幸（幹事・東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

神保謙教授より「アジア太平洋地域の信頼醸成措置:概念の生成・発展・現在地」と題する報告があり、その後、質疑応答が行われた。

4) 第2回会合

【日時】2024年9月13日（金）19:00～21:00

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】8名

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

大庭三枝（神奈川大学法学部教授）

中村真咲（名古屋経済大学経営学部教授）

Umirdinov Alisher（名古屋経済大学法学部教授）

桑原尚子（岩手県立大学総合政策学部准教授）

古賀慶（南洋工科大学社会科学部准教授）

LOTTAZ Pascal（京都大学白眉センター特定准教授）

小林弘幸（幹事・東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

中村真咲委員より「憲法史から見たモンゴル」と題する報告があり、その後、質疑応答が行われた。

5) 第3回会合

【日時】 2024 年 10 月 2 日（水）19:00～21:00

【場所】 Zoom

【参加者／参加人数】 9 名

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

大庭三枝（神奈川大学 法学部教授）

中村真咲（名古屋経済大学 経営学部教授）

桑原尚子（岩手県立大学 総合政策学部准教授）

益尾知佐子（九州大学大学院 比較社会文化研究院教授）

古賀慶（南洋工科大学准教授）

Umirdinov Alisher（名古屋経済大学 法学部准教授）

宮本悟（聖学院大学政治経済学部教授）

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

益尾知佐子（九州大学大学院比較社会文化研究院教授）委員より、「中国的「信頼醸成」の現在」と題する報告があり、その後質疑応答が行われた。

6) 特別研究会

【日時】 2024 年 12 月 24 日（火）11:00～12:00

【場所】 Zoom

【参加者／参加人数】 6 名

清水武則（元・駐モンゴル大使）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

大庭三枝（神奈川大学 法学部教授）

中村真咲（名古屋経済大学 経営学部教授）

益尾知佐子（九州大学大学院 比較社会文化研究院教授）

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

清水武則氏（元・駐モンゴル大使）より、「モンゴルの実情と展望」と題する報告があり、その後質疑応答が行われた。

（3）研究会「『西側』の論理の検証と再構築」

1) 研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」、ならびに研究会「『西側』の論理の検証と再構築」、メンバーによる研究会

【日時】2024年6月3日（月）17:00～18:00

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】16名

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

佐竹知彦（青山学院大学准教授）

ギブール・ドラモット（フランス国立東洋言語文化学院教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

山本みずき（慶應義塾大学大学院）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

合六強（二松学舎大学国際政治経済学部准教授）

小森宏美（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

山本直（日本大学法学部教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

服部倫卓（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

中井遼（東京大学先端科学技術研究センター教授）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

田中祐真（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター・特任教授）より「ウクライナ情勢の検討」と題する報告があり、その後質疑応答が行われた。

2) キックオフ会合

【日時】 2024 年 6 月 3 日（月）19:00～21:30

【場所】 Saint Jean Pied de Port

【参加者／参加人数】 3 名

細谷雄一(慶應義塾大学法学部教授)

山本みずき(慶應義塾大学大学院)

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター・特任研究員）

【概要】

「西側の論理」研究会の活動方針について話し合うとともに、9 月の日・英・米シンポジウムに向けての打ち合わせを行った。

3) 第 1 回会合（研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」（共催）

【日時】 2024 年 7 月 25 日（木）10:00～11:00

【場所】 Zoom

【参加者／参加人数】 16 名

佐竹知彦（青山学院大学准教授）

細谷雄一(慶應義塾大学法学部教授)

岩間陽子(政策研究大学院大学教授)

鶴岡路人(慶應義塾大学総合政策学部准教授)

山本みずき(慶應義塾大学大学院)

東野篤子(筑波大学人文社会系教授)

合六強(二松学舎大学国際政治経済学部准教授)

森聡（慶應義塾大学法学部教授）

寺岡亜由美（コロンビア大学博士研究員）

小森宏美(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

保坂三四郎(エストニア国際防衛安全保障センター研究員)

服部倫卓(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

中井遼（東京大学先端科学技術研究センター教授）

田中祐真（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」との共催で開催された。報告者の佐竹委員より「AUKUS の現状と展望」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

4) 日・英・米シンポジウムに関する打ち合わせ（※非公開）

【日時】2024 年 7 月 29 日（月）11:00～11:30

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】2 名

山本みずき（慶應義塾大学大学院）

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

9 月の日・英・米シンポジウムに向けて、準備状況の確認、今後の準備の進め方について打ち合わせを行なった。

5) 日・英・米シンポジウムに関する打ち合わせ（※非公開）

【日時】2024 年 8 月 11 日（日）14:00～15:00

【場所】対面（慶應義塾大学三田キャンパス北館 1 階会議室 2）・Zoom ハイブリッド

【参加者／参加人数】5 名

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）

山本みずき（慶應義塾大学大学院）

小林稜太（慶應義塾大学）

平田宗一郎（慶應義塾大学）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター・特任研究員）

【概要】

9 月の日・英・米シンポジウムに向けて、準備状況の確認、今後の準備の進め方について打ち合わせを行なった。

6) 第2回会合（研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」共催）

【日時】2024年9月10日（火）17:00～18:30

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】11名

細田尚志（チェコ国防大学准教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

小森宏美（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

山本直（日本大学法学部教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

服部倫卓（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

中井遼（東京大学先端科学技術研究センター教授）

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

小林弘幸（東京大学先端研学技術研究センター特任研究員）

【概要】

研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」との共催で開催された。報告者の細田氏より「チェコ共和国の外交・安全保障の現状」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

7) 第3回会合（研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」共催）

【日時】2024年9月11日（水）11:00～12:30

【場所】対面（慶應義塾大学三田キャンパス北館1階会議室2）・ZOOMハイブリッド

【参加者／参加人数】9名

Philip Shetler-Jones (RUSI)

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

合六強（二松学舎大学国際政治経済学部准教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

小森宏美（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

服部倫卓（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」との共催で開催された。報告者の Philip Shetler-Jones 氏より「NATO, IP4 (AP4) and China」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

8) 第4回会合（研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」共催）

【日時】2024年9月16日（月）17:00～18:30

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】13名

平野高志（ウクルインフォルム）

合六強（二松學舎大学国際政治経済学部准教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

佐竹知彦（青山学院大学 国際政治経済学部 准教授）

小森宏美（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

山本直（日本大学法学部教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

服部倫卓（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

中井遼（東京大学先端科学技術研究センター教授）

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」との共催で開催された。報告者の平野高志氏より「政治・社会情勢から考えるロシア・ウクライナ戦争の短期展望」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

9) アドホック研究会

【日時】2024年9月26日（木）14:00～16:00

【場所】東京大学駒場Ⅱキャンパス3号館セミナールーム

【参加者／参加人数】7名

フランシス・ギャビン（ジョーンズ・ホプキンズ大学教授）

岩間 陽子（政策研究大学院大学教授）

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

池内 恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

合六強（二松学舎大学准教授）

乃坂龍誠（慶應義塾大学大学院）

【概要】

フランシス・ギャビン教授より核戦略についての講話があり、その後質疑応答が行われた。

10) 第5回会合（研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」共催）

【日時】2024年10月28日（月）17:15～18:15

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】15名

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

山本みずき（慶應義塾大学大学院）

佐竹知彦（青山学院大学 国際政治経済学部 准教授）

森聡（慶應義塾大学法学部教授）

寺岡亜由美（コロンビア大学博士研究員）

山本直（日本大学法学部教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

服部倫卓（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

合六強（二松学舎大学国際政治経済学部准教授）

中井遼（東京大学先端科学技術研究センター教授）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）より「出張報告・アルメニアの安全保障環境調査」と題する報告が行われた。

11) 第6回会合（研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」共催）

【日時】2025年2月3日（月）15:00～16:30

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】10名

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）

合六強（二松學舎大学国際政治経済学部准教授）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

山本みずき（慶應義塾大学大学院）

佐竹知彦（青山学院大学国際政治経済学部准教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」との共催で開催された。報告者の鶴岡路人委員より「「日豪抑止対話」開催報告」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

12) 第7回会合（研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」共催）

【日時】2025年2月5日（水）20:00～21:30

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】7名

Alessio Patalano（King's College London）

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

【概要】

研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」との共催で開催された。報告者の Alessio Patalano 氏より「Global Combat Air Programme (GCAP)」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

（4）研究会「宗教と国際秩序」

本研究会では今年度は、サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」にて米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校（UCSB）との共同会議の開催、同会議で初上映された出雲大社遷宮についてのドキュメンタリー映画上映会、島根県出雲市において日本神話についてのフォーラムを共催、サブユニット「戦争の記憶と宗教」では、ボスニア・ヘルツェゴヴィナのサラエボ大学との共同会議の開催、及び今年度2回目となる「徳之島ユースキャンプ」（韓国・江原国立大学校、日本：東京大学、慶応義塾大学、ボスニア・ヘルツェゴビナ：サラエボ大学、モスタル大学、バニヤルカ大学の学生が徳之島で一同に会し、戦争の記憶の伝え方・捉え方について、若い世代における国際的相互理解の促進を目指す試み）、SHIBUYA QWS において戦争とアニメーションについてのワークショップを QWS ACADEMIA として開催、合評会の戦争社会学研究会との共催を実施した。概要については「4. 国際的な議論を先導するシンポジウムの開催」を参照されたい。

1) “Animism Today” ワークショップ

【日時】2024年10月21日（月）13:30～19:00、22日（火）9:30～15:00

【場所】カリフォルニア大学サンタバーバラ校（UCSB）

【参加者】

Ranjani Atur（ミネソタ大学助教授）

William Elison（UCSB 准教授）

Claudia Moser（UCSB 准教授）

Fabio Rambelli（UCSB 教授）

Amit Shilo（UCSB 准教授）

Christine Thomas (UCSB 教授)

平藤喜久子 (國學院大學教授)

小泉凡 (小泉八雲記念館館長)

松村一男 (和光大学名誉教授)

港千尋 (多摩美術大学教授・写真家)

【プログラム URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20241021>

2) シンポジウム「戦争の記憶に対する境界を越えたアプローチ：東アジアとバルカンの事例より」

【日時】 2024 年 10 月 23 日 (水) 13:00～17:00

【場所】 サラエボ大学政治学部 Library Conference Room

【登壇者】

タム・ノー (Institute for War, Holocaust and Genocide Studies)

西村明 (東京大学)

エルマ・ハシムベゴビッチ (ボスニア・ヘルツェゴビナ歴史博物館)

【プログラム URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20241023>

3) 第2回徳之島ユースキャンプ (本研究会を中心に、総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」と発展型総合事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」との合同事業として実施)

【日時】 2024 年 12 月 2 日～8 日

【場所】 徳之島伊仙町

【参加者】

1) 学生 (全行程参加 12 名、一部参加 1 名)

ボスニア・ヘルツェゴビナ

- ・アナスタシヤ・プラブシッチ (バニャルカ大学)
- ・ガブリリエラ・アセンティッチ (バニャルカ大学)
- ・ニキツァ・ブバロ (モスタル大学)
- ・ウラディミル・ベガル (モスタル大学)
- ・レイラ・ブルギッチ (サラエボ大学)
- ・アイヌル・カニジャ (サラエボ大学)

韓国

- ・キム・ジュニョン（江原国立大学校）
- ・坪井佑介（江原国立大学校）

日本

- ・菅原一花（東京大学）
- ・山村絢（東京大学）
- ・横森翼（慶應義塾大学）
- ・野末美樹（慶應義塾大学）
- ・成瀬茉倫（慶應義塾大学）*12月6-8日

2) 教員・スタッフ

- ・ディーノ・アバゾビッチ（サラエボ大学教授）
- ・西村明（東京大学教授）
- ・犬塚悠太（東京大学大学院博士課程学生）
- ・立田由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【スケジュール】

12月2日（月）	参加者伊仙町到着
12月3日（火）	開会式、徳之島の歴史についての講演（松岡）、グループワーク
12月4日（水）	学生グループワーク
12月5日（木）	エクスカージョン（犬田布岬、母間カトリック教会等）
12月6日（金）	学生グループワーク、犬田布小学校児童との交流会
12月7日（土）	グループワーク報告会、島の子どもたちとの交流会
12月8日（日）	参加者伊仙町出発

【概要】

今回のユースキャンプでは、ボスニアで政治社会的な分断の深まる3民族それぞれの代表的な大学（セルビア人のバニャルカ大学、クロアチア人のモスタル大学、ボシュニャクが中心のサラエボ大学）から学生が2名ずつ参加し、全行程を通じて仲間として互いに分け隔てなく過ごし、民族ごとの言語の呼び名（セルビア語、クロアチア語、ボスニア語）を使わないなど互いに配慮する様子が見られた。

「戦後社会を生きること」をテーマとしたグループワークでは、3民族の対立が政治的に煽られたものであり個人レベルには及ばないこと、戦争では3つの民族がいずれも苦しんだこと、3

民族は言語や文化を共有しており互いをはっきり区別するものはないことなどが強調された。これら3大学の学生が交流する機会はほとんどないが、本キャンプはボスニアへの政治面での関与が大きい欧米ではなく、また3民族を隔てる3宗教（セルビア正教、カトリック、イスラーム）文化圏のいずれにも属さない日本をホストとしたことで、戦後社会という課題という分断に結びつくような課題に共に向き合うことができたのかもしれない。

参加者全員で徳之島にある三町（徳之島町、天城町、伊仙町）の教育委員会を訪問した。三町とも英語教育や遠隔教育に積極的に取り組んでおり、その取り組みを次年度のキャンプと連携させることが話し合われた。今回は伊仙町立犬田布小学校の児童と参加学生がスポーツなどを通じて交流し、またその交流から参加日本人学生と児童との遠隔英会話レッスンが計画されるなど、徳之島における国際教育推進への貢献が始まりつつある。

また、モスタル大学から参加したクロアチア人学生の協力で、モスタル大学哲学部との研究協力の計画が進んでいる。10月に西村明東京大学教授と立田由紀恵東京大学先端科学技術研究センター特任研究員がバニャルカ大学を訪問し、ROLESを介したサラエボ大学とバニャルカ大学との間の研究協力の計画を進めているが、これにモスタル大学も加えた3大学の連携へと発展させる契機となった。

4) QWS ACADEMIA（東京大学）「アニメーションは戦争体験をいかに描くか？」

【日時】2025年1月11日（土）18:30～20:30

【場所】SHIBUYA QWS CROSS PARK

【登壇者】

アルト・ヨアヒム（国立歴史民俗博物館）

長谷川章（秋田大学）

【プログラム URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20250111>

5) 上映会 “Building Eternity: The Kami-Human Landscape of Izumo Taisha”（永遠を建てる―出雲大社カミとヒトの風景へ）アフタートーク「古代バビロニアから出雲へ―永遠を目指す神殿」

【日時】2025年1月22日（水）18:00～20:00

【場所】東京大学先端科学技術研究センターENEOSホール

【登壇者】

千家和比古（出雲大社権宮司）

月本昭夫（立教大学・上智大学）

港千尋（多摩美術大学）

平藤喜久子（國學院大学）

【コメント】

クラウス・アントーニ（テュービンゲン大学）

ジャン・ミシェル・ビュテル（フランス国立東洋言語文化大学）

【プログラム URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20250122>

6) これからの「私たち」の歴史実践に向けて—『戦争のかけらを集めて』から始まるトークセッション

【日時】 2025 年 1 月 26 日（日） 14:00～17:00

【場所】 東京大学先端科学技術研究センター 3 号館中 2 階セミナー室

【登壇者】

白岩伸也（北海道教育大学）

今泉裕美子（法政大学）

【プログラム URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20250126>

7) 「出雲神話フォーラム 2025—出雲が生み出したもの」

【日時】 2025 年 3 月 16 日（日） 13:00～16:30

【場所】 島根県立美術館ホール

【登壇者】

平藤喜久子（國學院大学）

港千尋（多摩美術大学）

Alan Cummings（ロンドン大学）

Kio Griffith（Visual Sound Artist）

大杉浩司（岡本太郎記念館客員研究員）

小泉凡（小泉八雲記念館館長）

【プログラム URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20250316>

(5) 研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」

1) 第 1 回会合

【日時】 2024 年 5 月 24 日（金） 17:00～19:00

【会議形式】 慶應義塾大学三田キャンパス

【参加者／参加人数】 4 名

井上正也（慶應義塾大学法学部教授）

白鳥潤一郎（放送大学教養学部准教授）

高橋和宏（法政大学法学部教授）

前田亮介（北海道大学大学院法学研究科准教授）

【議題】

「戦後日本外交史の叙述をめぐって」

2) 第 2 回会合

【日時】 2024 年 8 月 1 日（木） 10:00～11:00

【会議形式】 Zoom

【参加者／参加人数】 4 名

井上正也（慶應義塾大学法学部教授）

白鳥潤一郎（放送大学教養学部准教授）

高橋和宏（法政大学法学部教授）

前田亮介（北海道大学大学院法学研究科准教授）

【議題】

ポスト冷戦期の日本外交を議題とした。歴史問題などの価値をめぐる問題が噴出し、同時に安全保障上の課題への適応を迫られた 90 年代日本外交の歴史叙述のあり方について議論を交わした。

3) 第 3 回会合

【日時】 2024 年 9 月 5 日（水） 11:00～14:00

【会議形式】 慶應義塾大学三田キャンパス

【参加者／参加人数】 4 名

井上正也（慶應義塾大学法学部教授）

白鳥潤一郎（放送大学教養学部准教授）

高橋和宏（法政大学法学部教授）

前田亮介（北海道大学大学院法学研究科准教授）

【議題】

1950年代～60年代の日中関係史にいかなる研究上の課題が残されているか、同時期の日中二国間関係史の歴史叙述がどのように変化してきたかを議論した。また1972年の日中国交正常化と沖縄返還をもって、「戦後処理」外交の終焉と位置づけることが可能かという課題についても議論を交わした。

4)第4回会合

【日時】2024年11月6日（水）10:00～11:00

【会議形式】Zoom

【参加者／参加人数】4名

井上正也（慶應義塾大学法学部教授）

白鳥潤一郎（放送大学教養学部准教授）

高橋和宏（法政大学法学部教授）

前田亮介（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

【議題】

1970年代の国際経済体制の動揺期の日本外交を再検討し、今後の史料公開に伴って解明すべき研究課題についての議論を行なった。

5)第5回会合

【日時】2024年12月5日（木）10:00～11:30

【会議形式】Zoom

【参加者／参加人数】4名

井上正也（慶應義塾大学法学部教授）

白鳥潤一郎（放送大学教養学部准教授）

高橋和宏（法政大学法学部教授）

前田亮介（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

【議題】

1970年代の日本の防衛政策の展開を再検討し、さらに日本の「平和大国」の規範がどのように定着していったかについて議論を交わした。

(5-1) サブユニット「国際政治とリーダーシップ」

1) 第1回会合

【日時】2024年5月26日（日）15:00～17:00

【場所】東大先端研 14号館 114号室

【参加人数／参加者】6名

山口航（帝京大学 法学部 専任講師／ユニット長）

石本凌也（東京大学 先端科学技術研究センター 特任研究員／幹事）

小南有紀（日本国際問題研究所 研究員）

堀田主（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

田口季京（コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー）

中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

【概要】

幹事（石本）より本事業の概要や事務的なことについて話があった後、ユニット長（山口先生）を中心に、参加者全員で目指す成果や今後の研究活動についての意見交換を行い、本会合を終えた。

2) 第2回会合

【日時】2024年9月15日（日）14:00～17:00

【会議形式】東京大学先端科学技術研究センター14号館 114教室

【参加人数／参加者】8名

山口航（帝京大学 法学部 専任講師）

石本凌也（東京大学 先端科学技術研究センター 特任研究員）[委員]（五十音順）

小南有紀（日本国際問題研究所 研究員）

田口季京（コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー）

中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

堀田主（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

中谷直司（帝京大学 文学部 准教授）

藤田吾郎（早稲田大学 政治経済学術院 講師）

【概要】

山口航氏による「日米首脳会談——リーダーシップに着目して」の報告を受け、戦後日米関係のリーダーシップなどについて議論した。

3) 第3回会合

【日時】2025年1月24日（金）15:00～17:00

【会議形式】沖縄国際大学5号館

【参加人数／参加者】7名

山口航（帝京大学 法学部 専任講師）

石本凌也（東京大学 先端科学技術研究センター 特任研究員）[委員]（五十音順）

小南有紀（日本国際問題研究所 研究員）

田口季京（コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー）

中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

堀田主（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

野添文彬（沖縄国際大学 法学部 教授）

【概要】

野添文彬氏による報告を受け、在日米軍基地をめぐる問題や、その問題を取り巻く国政ならびに沖縄県政のリーダーシップなどについて議論した。

3) 第4回会合

【日時】2025年2月16日（日）14:00～17:00

【会議形式】東京大学先端科学技術研究センター4号館 RCAST 学堂

【参加人数／参加者】8名

山口航（帝京大学 法学部 専任講師）

石本凌也（東京大学 先端科学技術研究センター 特任研究員）[委員]（五十音順）

小南有紀（日本国際問題研究所 研究員）

田口季京（コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー）

中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

堀田主（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

三代川夏子（東京大学大学院 法学政治学研究科附属ビジネスロー・比較法政研究センター 特任講師）

東郷雄太（神戸大学大学院 法学研究科 博士後期課程）

【概要】

東郷雄太氏による「海部政権期における日本の対中政策：中国の『孤立化脱却』から『再関与』へ」報告を受け、戦後日本の対中外交や、そこで果たされたリーダーシップなどについて議論した。

（6）研究会「エネルギー国際秩序における日本の立場」

1) 第1回会合

【日時】2024年8月7日（水）11:30～13:00

【開催形式】Zoom

【参加人数／参加者】7名

岩瀬昇（エネルギーアナリスト）

池内恵（東京大学 先端科学技術研究センター教授）

豊田耕平（東京大学先端科学技術研究センター連携研究員）

小林周（日本エネルギー経済研究所 中東研究センター主任研究員）

榎本量平（INPEX ソリューションズ）

高橋雅英（公益財団法人 中東調査会主任研究員）

Kim Saehoon（SK Energy（日本エネルギー経済研究所出向中）

【報告内容】

Kim Saehoon「韓国のエネルギー安全保障政策」

2) 第2回会合

【日時】2024年12月13日（金）11:00～13:00

【開催形式】日本エネルギー経済研究所

【参加人数／参加者】7名

岩瀬昇（エネルギーアナリスト）

池内恵（東京大学 先端科学技術研究センター教授）

豊田耕平（東京大学先端科学技術研究センター連携研究員）

小林周（日本エネルギー経済研究所 中東研究センター主任研究員）

榎本量平（INPEX ソリューションズ）

高橋雅英（公益財団法人 中東調査会主任研究員）

柳沢崇文（日本エネルギー経済研究所主任研究員）

（オブザーバー参加）

坂梨祥（日本エネルギー経済研究所中東研究センターセンター長）

吉岡明子（日本エネルギー経済研究所中東研究センター副センター長）

深沢幸治（日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究主幹）

【概要】

柳沢 崇文「現代日本の資源外交」

3) 第3回会合

【日時】2025年1月9日（木）11:00～13:00

【開催形式】東京大学先端科学技術研究センター

【参加人数／参加者】6名

岩瀬昇（エネルギーアナリスト）

池内恵（東京大学 先端科学技術研究センター教授）

豊田耕平（東京大学先端科学技術研究センター連携研究員）

小林周（日本エネルギー経済研究所 中東研究センター主任研究員）

榎本量平（INPEX ソリューションズ）

高橋雅英（公益財団法人 中東調査会主任研究員）

【報告内容】

各メンバーの最終年度に向けた成果報告案の共有

4) 第4回会合

【日時】2025年3月13日（水）13:00～15:00

【開催形式】東京大学先端科学技術研究センター

【参加人数／参加者】7名

岩瀬昇（エネルギーアナリスト）

池内恵（東京大学 先端科学技術研究センター教授）

中井遼（東京大学 先端科学技術研究センター教授）

豊田耕平（東京大学先端科学技術研究センター連携研究員）

小林周（日本エネルギー経済研究所 中東研究センター主任研究員）

榎本量平（INPEX ソリューションズ）

高橋雅英（公益財団法人 中東調査会主任研究員）

【報告内容】

「第7次エネルギー基本計画」に関する本研究会コメントリー内容の検討

（7）研究会「紛争解決の理論と実践」

1) 第1回会合

【日時】2024年4月4日（木）17:00～19:00

【形式】Zoom

【参加人数／参加者】9名

篠田英朗（東京外国語大学院総合国際学研究院 教授）

Anna Mykolayivna Ischenko（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部 上級講師）

Iurii Perga（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部大学院 教授）

Olena Akimova Kasatnika（ウクライナ国立工科大学（KPI）経営理論実践学科 准教授）

Pavlo Fedorchenko-Kutuyev（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部 学部長

吉崎知典（東京外国語大学総合国際学研究員 特任教授）

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター 特任教授）

藤原広人（国際刑事裁判所（ICC）書記局・対外活動局 国別分析ユニット長）

松平翔（外務省中・東欧課）

【概要】

篠田英朗 「Towards Policy Recommendations for Conditions for Conflict Resolution for Ukraine」

2) 第2回会合

【日時】2024年6月14日（金）17:00～19:00

【会議形式】Zoom

【参加人数／参加者】13名

篠田英朗（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授）
吉崎知典（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院特任教授）
Anna Mykolayivna Ischenko（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部上級講師）
Iurii Perga（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部大学院教授）
Olena Akimova Kasatnika（ウクライナ国立工科大学（KPI）経営理論実践学科准教授）
Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部学部長）
Philip Shetler-Jones（Royal United Services Institute (RUSI)シニア・リサーチ・フェロー）
国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）
富田瑞希（外務省総合外交政策局政策企画室主査）
川上恭一郎（在英国日本国大使館公使）
今村弘太郎（欧州連合日本政府代表部専門調査員）
山岸良馬（JICA ウクライナ事務所職員）
Vitalii Buzan（ウクライナ国立工科大学（KPI）学生）

【議題】

Anna Mykolayivna Ischenko

Iurii Perga

「Prospects of Ukraine's Integration into the Global Security Order based on End-of-war Scenarios」

3) 第3回会合

【日時】2024年10月23日（水）19:00～22:00

【会議形式】Zoom

【参加人数／参加者】8名

篠田英朗（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授）
吉崎知典（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院特任教授）
Anna Mykolayivna Ischenko（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部上級講師）
Iurii Perga（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部大学院教授）
Olena Akimova Kasatnika（ウクライナ国立工科大学（KPI）経営理論実践学科准教授）
Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部学部長）
Philip Shetler-Jones（Royal United Services Institute (RUSI)シニア・リサーチ・フェロー）
安井日向子（東京大学大学院公共政策学教育部2年）

【議題】

「The impacts of Russo-Ukraine War: Theoretical and Practical Explorations of Policy Agendas for Peace in Ukraine」

冒頭に研究会の今後の予定に関する事務的相談事項を協議し、続いて今後出版予定の書籍について、各担当のチャプターごとに報告と質疑応答を行い、意見交換を行う。

4) 第4回会合

【日時】2024年11月2日（土）19:00～20:30

【会議形式】Zoom

【参加人数／参加者】7名

篠田英朗（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院・教授）

吉崎知典（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院・特任教授）

Anna Mykolayivna Ischenko（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部・上級講師）

Iurii Perga（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部大学院・教授）

Olena Akimova Kasatnika（ウクライナ国立工科大学（KPI）経営理論実践学科・准教授）

Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部・学部長）

安井日向子（東京大学大学院公共政策学教育部2年）

【議題】

「The impacts of Russo-Ukraine War: Theoretical and Practical Explorations of Policy Agendas for Peace in Ukraine」

第3回会合で議論した近日出版予定の書籍の各チャプターについて、更なるブラッシュアップと原稿の完成に向けた最終調整の議論を行う。

5) 「危機に直面したICC（国際刑事裁判所）：国際政治の荒波の中で」研究グループの立ち上げ会合

【日時】2025年2月3日（月）16:00～18:00

【会議形式】東京外国語大学＋Zoom

【参加人数／参加者】7名

篠田英朗（東京外大・東大 ROLES）

小阪真也（早稲田大学）

長有紀枝（立教大学）

下谷内奈緒（津田塾大学）

須網隆夫（早稲田大学）

藤原広人（ICC 国別分析ユニット長）

太清伸（ICC 国別分析ユニット職員）

【議題】

「危機に直面した ICC（国際刑事裁判所）：国際政治の荒波の中で」研究グループの立ち上げおよび論文集の刊行に向けて議論。

6) 第 5 回会合

【日時】 2025 年 2 月 4 日（土）17:00～19:00

【会議形式】 Zoom

【参加人数／参加者】 7 名

篠田英朗（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院・教授）

吉崎知典（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院・特任教授）

Anna Mykolayivna Ischenko（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部・上級講師）

Iurii Perga（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部大学院・教授）

Olena Akimova Kasatnika（ウクライナ国立工科大学（KPI）経営理論実践学科・准教授）

Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部・学部長）

安井日向子（東京大学大学院公共政策学教育部 2 年）

【議題】

「Preparation of the Book Publication including the book-launch event and activities afterwards」

近日出版予定の書籍の最終校正確認とブックローンチ・イベントの準備、及び出版後の研究会の活動の方向性に関する協議を行なった。

国内外有識者・シンクタンクとのヒアリング／意見交換実績

本事業にかかる ROLES メンバーによる国内外有識者・シンクタンクへのヒアリング／意見交換実績は以下の通り。

実施日	実施者	対象者氏名（所属）	ヒアリング内容
-----	-----	-----------	---------

2024/4/19	松田 拓也	Dr. Bart Gaens（フィンランド国際問題研究所(FIIA) 上席研究員）	インド太平洋の安全保障や日本の多国間の安全保障枠組みへの参画やグローバルサウスとの関わり方などについて意見交換
2024/10/18	石本 凌也	Dalbir Ahlawat (Senior Lecturer, Department of Security Studies and Criminology, Macquarie University)	インド太平洋における日豪印関係、島嶼国の地政戦略上の重要性、リーダー交代後の日米関係について
2024/10/31	石本 凌也	馬場一輝（海上保安大学校海上保安研究国際研究センター講師 主任研究員）	東アジアにおける海洋安全保障、北朝鮮をめぐる日米韓関係、アメリカ外交政策の優先順位など
2025/1/31	池内 恵	北川敬三・K2 コネクト・インターナショナル代表・チーフストラテジスト （一等海佐（退役）、元海上自衛隊幹部学校防衛戦略教育研究部長）	インド太平洋の海洋安全保障、2トラック国際会議の企画運営に関する意見交換
2025/2/4	池内 恵	中川浩一（三菱総研主席研究員／海外事業本部 中東事業グループ） 阿部真千子（三菱総研チーフコンサルタント／海外部 兼 政策イノベーションセンター） 百瀬和樹（三菱総研主任研究員／海外事業本部 中東事業グループ） 【オンライン】 遠藤峻（三菱総研・中東支部ジェネラル・マネジャー） 廣瀬明寛（三菱総研・中東中東支部マネージャー） 三井道隆（三菱商事アンマン支社代表）	日本・中東間の戦略対話および科学技術協力に関する国際会議の共同開催に関する協議

2025/2/7	池内 恵	宮島昭夫（前ポーランド大使・元トルコ大使）	シンクタンクの調査研究課題・社会的使命・政策的に関する意見交換、および宮島大使からの、実務家の経験からの研究課題・事業に関する三つの提言
2025/2/10	池内 恵	ナーセル・ムハンマド・アフマド・アール・アリー（TRENDS 財務・人事統括） スマイヤ・アル＝ジュナイビー（TRENDS グローバル・セクター統括補佐） アブドゥルアジーズ・マズルーイー（TRENDS グローバル・セクター各国オフィス担当） アルヤー・アル＝ジュナイビー（TRENDS 戦略パートナーシップ担当） 廣瀬明寛・三菱総研・中東中東支部マネージャー）	日本・UAE 間で産官学を横断する国際会議・セミナーの共同企画に関する意見交換。
2025/2/11	池内 恵	ザイド・イヤード（ヨルダン大学国際関係学部教授・RUSI 上級研究員） 三井道隆（三菱商事アンマン事務所長）	中東情勢、シリアをめぐるトルコ・イラン・イスラエルの動向についての分析。日・中東戦略対話会議の定例化と持続的基盤の形成について。日・中東戦略対話の産官学連携の枠組みについて。
2025/3/1	池内 恵	稲賀繁美（京都精華大学教授・国際日本文化研究センター名誉教授）	ソフトパワー外交におけるポピュラー・カルチャーの役割。京都精華大学の京都国際マンガミュージアムを通じた研究成果の社会発信・国際発信の制度と方法。
2025/3/1	池内 恵	瀧井一博（国際日本文化研究センター教授）	岩倉使節団に関する漫画・翻訳による国際発信について。ソフトパ

		フレデリック・クレインス（国際日本文化研究センター副所長） 楠綾子（国際日本文化研究センター教授）	ワー外交への映画・アニメ・ゲームの役割。映画 Shogun の時代考証・歴史監修を通じた日本イメージの改善について。京都精華大学国際漫画研究センターと国際日本文化研究センターの協力による、外交史研究のポピュラーカルチャーを通じた視覚的な成果発信の事例について。
2025/3/21	立田 由紀恵	ミア・カラメヒッチ・アバゾビッチ（ボスニア・ヘルツェゴビナ下院議員）	ボスニアの議会における民族間の関係・連携、および議会・議員と上級代表との関係について。
2025/3/27	池内 恵	三井道隆（三菱商事アンマン事務所長） 岩瀬繁（三菱商事アンマン次期事務所長）	第2回日本・中東戦略対話の準備打ち合わせ
2025/3/28	池内 恵	井上貴史（三菱商事イスタンブール支社シニア・マネージャー）	イスタンブールでの産官学国際会議の準備打ち合わせ

海外調査実績

研究会を主体とした海外調査実績は以下のとおり。

実施日	リンク	対象者氏名 (所属)	訪問先	内容	実施研究会
2024/5/7	【国際会議】「戦略的コミュニケーションと地政学：チェコから日本へ」プラハで開催	デニサ・ヘイロヴァ（カレル大学戦略的コミュニケーション研究所・所長）、長岡寛介（駐チェコ日本国大使）、細谷雄一教授（慶應義塾大学）、ヤン・シーコラ准教授（カレル大学）、パブリナ・スタチョヴァー（デロイト・アドバイザリー）	プラハ/チェコ	プラハのカレル大学にて慶應戦略構想センター（KCS）およびカレル大学の戦略的コミュニケーション研究所（Center for Strategic Communication）共催のラウンドテーブルを開催。世界的な不確実性が高まる中、安定的な秩序を構築・維持するためにも戦略的コミュニケーションが不可欠であること、民主主義的価値を共有するチェコと日本は今後戦略的コミュニケーションとサイバーセキュリティの分野で協力する余地があることなどが話し合われた。	研究会 「『西側』の論理の検証と再構築」
2024/5/8-9	【対外発信】細谷雄一教授がハンガリー国際問題研究所（HIIA）で講演	Mr. Pier Paolo Pigozzi (Vice-Rector for International Affairs)、Dr. Viktor Eszterhai (Research Fellow, John Lukacs Institute for Strategy & Politics)、Dr. András Bartok	ブダペスト/ハンガリー	5月8日から9日にかけて、ハンガリーのブダペストへ出張し、研究機関などを訪問、現地の有識者との意見交換を行った。	研究会 「『西側』の論理の検証と再構築」

		(Assistant lecturer, Department of International Relations and Diplomacy)、小野日子大使（在ハンガリー日本国大使館）、細谷雄一教授（慶應義塾大学）			
2024/7/29	Round table"For Japan, international security requires solidarity with the West"の実施	Guibourg Delamotte・INALCO 教授（東大先端研客員上級研究員）、Frédéric Grare・オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ上級リサーチフェロー、Justin Burke・オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ上級政策アドバイザー、Aisling Philippa・オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ政策オフィサー、石本凌也（東大先端研特任研究員）	オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ	Guibourg Delamotte・INALCO 教授（東大先端研客員上級研究員）の基調報告を受け、その後、Frédéric Grare・オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ上級リサーチフェロー、Justin Burke・オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ上級政策アドバイザー、Aisling Philippa・オーストラリア国立大学国際安全保障カレッジ政策オフィサーを含め、議論	研究会「インド太平洋の安全保障構想」
2024/7/31	オーストラリア国立大学での意見交換	Amy King・オーストラリア国立大学戦略	オーストラリア国立大学ヘドリー・ブ	オーストラリア国立大学ヘドリー・ブル・ビルディングに	研究会「インド太平洋

		防衛研究センター准教授、Guibourg Delamotte・INALCO 教授（東大先端研客員上級研究員）、石本凌也（東大先端研特任研究員）	ル・ビルディング	て、Amy King・オーストラリア国立大学戦略防衛研究センター准教授および、Guibourg Delamotte・INALCO 教授（東大先端研客員上級研究員）と、米中関係、中国の国際秩序観、インド太平洋における国際関係と日本の役割に関する意見交換。	の安全保障構想」
2024/8/2	シドニー大学での意見交換	高田志都香・シドニー大学アメリカ研究センターRA、Jack Sato・Lowy Institute データアナリスト、石田嵩人・外務省経済局資源安全保障室外務事務官、日野原由佳・電子情報技術産業協会サブマネージャー、佐藤洋介・国際交流基金国際対話部事業第1チーム長補佐、井上麟太郎・慶應義塾大学大学院／国際文化会館地経学研究所RA、石本凌也（東大先端研特任研究員）	シドニー大学	シドニー大学にて、インド太平洋をめぐる国際関係、日豪関係、日米豪関係、中豪関係についての意見交換・議論。	研究会「インド太平洋の安全保障構想」

2024/10/22	バニャルカ大学 (ボスニア・ヘルツェゴビナ) での 意見交換	ランカ・ベリ ッチ＝ロミッ チ・バニャル カ大学政治学 部長、ダリボ ル・サビッ チ・バニャル カ大学政治学 部教授、アン ジェラ・ペピ ッチ・バニャ ルカ大学助教 授、西村明・ 東京大学文学 部教授、立田 由紀恵（東大 先端研特任研 究員）	バニャルカ大 学	バニャルカ大学政治 学部にて、同学部に おける教育研究状況 についての聞き取 り、日本との教育研 究協力およびそれに 際するボスニア国内 のサラエボ大学、モ スタル大学との協力 について意見交換。	研究会「宗 教と国際秩 序」
2024/11/3	ROLES-TUFS- BIISS Dialogue on “Bangladesh in Transition: New Directions for FOIP and BIG-B”を実施	Major General Iftekhar Anis, BSP, awc, afwc, psc, Peng, Director General, BIISS, 篠田英 朗(東京外国語 大学院総合国 際学研究院教 授), 吉崎知典 (東京外国語大 学総合国際学 研究員特任教 授)、Dr Mahfuz Kabir, Research Director, BIISS	BIISS Auditorium, Dhaka	昨年度（2024年 2月）開催の「現代 世界における紛争解 決：ウクライナの未 来と自由で開かれた インド太平洋 （FOIP）」のフォロ ーアップとして、バ ングラデシュ国際戦 略研究所と共催でワ ークショップ “ Bangladesh in Transition : New Directions for FOIP and BIG-B?”を 開催	研究会「紛 争解決の理 論と実践」

2024/11/4	28TH IAPTC ANNUAL CONFERENCE への参加	篠田英朗(東京外国語大学院総合国際学研究院教授),吉崎知典(東京外国語大学総合国際学研究院員特任教授)	イスラマバード国際平和安定センター	APTC (国際平和維持訓練センター協会) 年次総会に参加	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/11/3-11/8	モンゴル・ウランバートルへの訪問	岩間陽子(政策研究大学院大学教授),大庭三枝(神奈川大学法学部教授),中村真咲(名古屋経済大学経営学部教授),桑原尚子(岩手県立大学総合政策学部准教授),益尾知佐子(九州大学教授),西山美久(東京大学先端科学技術研究センター特任助教)	ウランバートル/モンゴル	モンゴル国立大学の協力を得てセミナー“Japan and the Changing Security Environment in Asia”を開催。モンゴル外務省、モンゴル国家安全保障委員会戦略研究所、科学アカデミー国際研究所、コンラート・アデナウアー財団モンゴル支部、モンゴル国立大学法学部、在モンゴル国日本大使館、JICA モンゴル事務所を訪問し、研究者、政府高官、関係者等と日・モンゴル協力、アジアにおける信頼醸成などについて意見交換を行った。	研究会「安全保障協力体制の構想」
2024/11/25-12/1	ロンドンでの資料収集	堀田主 (慶應義塾大学大学院法学研究科・後期博士課程／独立行政法人日本学術振興会・特別研究員 (DC1))	ロンドン	ロンドンに所在する大英図書館および英国国立公文書館にて、文献調査と史料調査を実施する。大英図書館では、日本の大学図書館等に収蔵されていないソ連時代の文献 (回顧録や研究書) を閲覧し、冷戦変容期のソ連における当局者の	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」

				認識や、ロシア語圏での研究動向を調査する。 また、英国国立公文書館では、冷戦変容期のソ連におけるリーダーシップを検討するうえで重要となる、政治指導者や外交官の発言、並びにそれに対する西側諸国の反応が記された文書を収集する。	
2024/12/12	オーストラリア国立大学での意見交換	森聡(慶應義塾大学教授), 鶴岡路人(慶應義塾大学准教授), 佐竹知彦(青山学院大学准教授)	オーストラリア国立大学	オーストラリア国立大学 戦略・防衛研究所 (SDSC) と共催で「日豪抑止対話」を開催し、オーストラリアの研究者と安全保障等について意見交換を実施した。	研究会 「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/1/19-1/25	ナイロビ出張	篠田英朗 (東京外国語大学大学院 総合国際学研究院・教授)、井上実佳 (東洋学園大学・教授)、Markos Rike (元エチオピア外務国務大臣)、Abdooulkader Houssein Mohamed (CERD・Research economist)、Simon	ナイロビ・Mercure Nairobi Upper Hill	●研究会「紛争解決の理論と実践」に係る聞き取り調査 面会者 アフリカ連合本部 Dr. Ikubaje John Gbodi 面会日 2025年1月21日 ●研究会「紛争解決の理論と実践」に係る来年度の共同研究成果の刊行を目指した国際研究集会、「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP) と東アフリカ」へ主催者として	研究会「紛争解決の理論と実践」

		Nyambura (IGAD Centre of Excellence for Pr・所長)、 Abdifatah Aden Abdi (ソマリア連邦政府内務・連邦事項・和解省・平和構築紛争アドバイザー)、 Yonas Ashine (アディスアベバ大学 政治・国際関係学部・学長)		出席。 於：ナイロビ・Mercure Nairobi Upper Hill 開催日 2025年1月22日 研究集会1日目 2025年1月23日 研究集会2日目 2025年1月24日 研究集会3日目 IGAD leadership Academy、広島平和構築人材育成センター (HPC) 共催	
2025/3/17	NIOD オランダ戦争史学研究所での意見交換	タム・ノー・NIOD オランダ戦争史学研究所主任研究員、ダット・ニューエン・NIOD オランダ戦争史学研究所研究員、立田由紀恵 (東大先端研特任研究員)	NIOD オランダ戦争史学研究所	戦争の記憶についての研究の状況や課題、今後の研究協力について意見交換	研究会「宗教と国際秩序」
2025/3/19	モスタル大学 (ボスニア・ヘルツェゴビナ) での意見交換	イニャ・ストイキッチ・モスタル大学国際協力局長、イエレナ・ユルチッチ・モスタル大学哲学部国際協力副部長、立田由紀恵 (東大先端研特任研究員)	モスタル大学	戦争の記憶についての戦争協力について、特にボスニア・ヘルツェゴビナの3民族を代表する諸大学との協力について意見交換	研究会「宗教と国際秩序」

2025/3/20	サラエボ大学での 意見交換	ディーノ・ア バゾビッチ・ サラエボ大学 政治学部教 授、立田由紀 恵（東大先端 研特任研究 員）	サラエボ市内	戦争の記憶と戦後社 会についての教育・ 研究協力について、 実際の実施方法も含 めた意見交換	研究会「宗 教と国際秩 序」
2025/3/22	サラエボ大学研究 員との意見交換	セルマ・アリ スパヒッチ・ サラエボ大学 政治学部教務 助手、立田由 紀恵（東大先 端研特任研究 員）	サラエボ市内 （ドブリニャ 地区、スルブ スカ共和国と の境界）	戦後社会についての 研究について意見交 換	研究会「宗 教と国際秩 序」
2025/3/24	サラエボ大学での 意見交換	セアド・トゥ ルチャロ・サ ラエボ大学政 治学部長、デ ィーノ・アバ ゾビッチ・サ ラエボ大学政 治学部教授、 立田由紀恵 （東大先端研 特任研究員）	サラエボ大学	立田特任研究員のサ ラエボ大学政治学部 客員研究員としての 任命および今後の研 究協力についての意 見交換	研究会「宗 教と国際秩 序」

2025/3/25	プリシュティナ大学（コソボ）での意見交換	ロザファ・バシャ・プリシュティナ大学国際局副局長、立田由紀恵（東大先端研特任研究員）	プリシュティナ大学	日本・コソボ間の教育研究協力について意見交換	研究会「宗教と国際秩序」
2025/3/25	プリシュティナ大学イスラーム学部での意見交換	イスラム・ハサニ・プリシュティナ大学イスラーム学部長、ベサ・イスマイリ・プリシュティナ大学イスラーム学部教授、立田由紀恵（東大先端研特任研究員）	プリシュティナ大学イスラーム学部	コソボにおけるイスラーム研究と国内ムスリム諸民族との関係、および日本との研究協力について意見交換	研究会「宗教と国際秩序」
2025/3/26	プリシュティナ大学哲学部での意見交換	ベキル・バリジ・プリシュティナ大学哲学部長、立田由紀恵（東大先端研特任研究員）	プリシュティナ大学哲学部	戦後社会における戦争の記憶研究とその協力についての意見交換	研究会「宗教と国際秩序」

2025/3/27	プリシュティナ大学（コソフスカ・ミトロビツァ）での意見交換	バレンティナ・ドラシュキッチ・プリシュティナ大学（コソフスカ・ミトロビツァ）国際関係局主任、立田由紀恵（東大先端研特任研究員）	プリシュティナ大学（コソフスカ・ミトロビツァ）	実質上セルビアに属するプリシュティナコソフスカ・ミトロビツァとの研究協力、および日本を介したコソボ国内他大学との研究協力の可能性について意見交換	研究会「宗教と国際秩序」
-----------	-------------------------------	---	-------------------------	--	--------------

2. 機動的かつタイムリーな国内外への発信（インターネット等による広報、公開セミナーの開催を含む）

イベントのメディア掲載

・5月12－13日に開催の「日本・中東戦略対話」（発展型総合事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」との合同事業）が、ヨルダン最有力のアラビア語紙 al-Ghad 紙の 5/13 日の第 2 面に詳細に取り上げられたほか、以下のメディアでも取り上げられた。

أكاديميون: دعم الأردن كمركز إقليمي خطوة نحو تحقيق الاستقرار والسلام

عمان- الشد- أجمع دبلوماسيون وأكاديميون وخبراء على أن دعم الأردن كمركز إقليمي يمكن أن يكون خطوة مهمة نحو تحقيق الاستقرار والسلام في المنطقة بأكملها إذ أن الأردن لديه تاريخ طويل من الاستقرار النسبي في منطقة الشرق الأوسط، ويعد نموذجا للتسامح الديني والتعايش السلمي بين مختلف الثقافات والأديان. وأكدوا أن تعزيز الاقتصاد يساهم بتعزيز الاستقرار الاقتصادي في المنطقة، ما يقلل من التوترات وتعزيز الحوار البناء فيما يمكن للأردن أن يؤدي دورا مهما في تعزيز التعاون الأمني في المنطقة، سواء عبر مشاركته في الجهود الدولية لمكافحة الإرهاب، أو عبر كونه مركزا لتعزيز الحوار الثقافي بين مختلف الشعوب في المنطقة، بما يساهم في تعزيز التفاهم المتبادل وتقبل الاختلافات. جاء ذلك خلال افتتاح فعاليات الجلسة الأولى من مؤتمر الحوار الاستراتيجي بين اليابان والشرق الأوسط، الذي ينظمه مركز الدراسات الاستراتيجية في الجامعة الأردنية أمس، بالتعاون مع مركز بحوث العلوم المتقدمة والتكنولوجيا المتقدمة في جامعة طوكيو.

وأكد رئيس الجامعة الأردنية، نذير عبيدات، أن القناعة تزداد في الأردن بشكل مضطرب، وبلا أدنى شك، في أن التعليم والبحث والاستثمار والإبداع هي طريق التنمية الحقيقية والنمو الاقتصادي والتطور والاستدامة. وهذا لن يتحقق إلا عبر بحث علمي تطبيقي رصين غير للخصومات، وبشركات حقيقية مع القطاع الخاص والشركات.

وتابع، حيث تطالع للأصحاء في اليابان المساعدة على خلق بيئة ودية تحية قادرة على الارتقاء والبحث العلمي وبيئتين، ليكونا قادرين على إقناع الصناعة وأصحاب الأعمال بهذه الشراكات.

وجهه، عبيدات الشكر للوكالة اليابانية للتعاون الدولي (جاكا) على ماقدمته للجامعة الأردنية، مبيهاً تطلعه لزيادة من هذه الشراكة معها في ظل التحولات المهمة التي تقوم بها الجامعة لتنمية الجانب الثقافي والتمهي في

برامجها المختلفة، وما يشهده ذلك من التحية إلى مزيد من التعاون في هذا المقام.

من جانبه، قال مدير مركز الدراسات الاستراتيجية د. زيد عبيدات إن المؤتمر يأتي في إطار تعزيز الروابط السياسية والأمنية والأكاديمية بين الجانبين، ومناقشة الدور الياباني المتنامي في الشرق الأوسط ومستقبل العلاقات اليابانية مع دول المنطقة في مجالات التكامل الاقتصادي الإقليمي ونقل التقنية والتنمية.

ودعا عبيدات إلى ضرورة استعادة النظام العالمي الأخلاقي، لكي يستعيد القانون الدولي لفته وهيبته، وأن يعود التوازن، وأن تسترد حالة الفوضى التي يشهدها العالم.

بحوره، قال السفير الياباني في عمان جيرو أوكوياما، إن عام 2024 يشكل الذكرى الـ 70 للعلاقات الأردنية اليابانية، والذكرى الـ 50 لتأسيس السفارات، والذكرى الخمسين أيضا لتأسيس (جاكا) في الأردن التي تعد العلاقة التعاون الفني والعلمي.

وقال أوكوياما، إن اليابان تنظر للأردن بوصفه شريكا إستراتيجيا، وتقدمه كمركز إقليمي في المنطقة، وتري فيه المنفذ على الشرق الأوسط، والرابطة الأساسية مع إفريقيا.

وتجد أن الأردن قدم نموذجا اقتصاديا في مواجهة الأزمات، وأعيد اللجوء، ونموذجا أمنيا متميزا للبيئة العربية.

وجعل الأحداث في غزة، قال أوكوياما إن اليابان تتعامل مع الأردن باعتباره الصوت الأوضح المؤثر في سياق الأحداث الذي يهود عن السلام والأمن الإقليمي.

بحوره، قال الرئيس المؤسس لمركز بحوث العلوم المتقدمة والتكنولوجيا المتقدمة في جامعة طوكيو د. ساتوشي إيكويوشي إن اليابان حاضرة بقوة في المشهد الدولي، وتسعى إلى جسر الفجوة بين الدول، والتلانسق بشكل أوسع من أجل المصالح المشتركة.

وتسعى الملتقى إلى تقديم مجموعة متنوعة من الرؤى ووجهات النظر في مجالات متعددة حول مستقبل الدور الياباني في الشرق الأوسط، والتكامل الاقتصادي بين الجانبين.

記事名	メディア名	日時
Japan-Middle East Strategic Dialogue Conference Kicks Off in Amman	Ammon News	2024/5/12
The University of Jordan News Japan-Middle East Strategic Dialogue Conference...	news.ju.edu.jo	2024/5/13
Japan-Middle East Strategic Dialogue Conference Kicks Off in Amman	Jordan News	2024/5/13
أكاديميون :دعم الأردن كمركز إقليمي خطوة نحو تحقيق الاستقرار والسلام (2面記事掲載)	アラビア語紙 al-Ghad	2024/5/13
中東緊迫「日本に橋渡しの義務」 ヨルダンで識者らが戦略対話	日本経済新聞	2024/5/14
アンマンでのイベントで注目される日本と中東の関係の未来	Arab News	2024/5/14
اليابان: غزة والشرق الوسط	پالستينا紙アル= Kuds	2024/5/19
العرب واليابان: نموذج الحداثة المحافظة	مركز الاتحاد للأخبار	2024/5/20
العرب واليابان: نموذج الحداثة المحافظة	イッティハード	2024/5/23

・また、9月18日、19日に開催した国際会議「持続的な安全保障とその先：人工知能（AI）の役割」

（発展型総合事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」の研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」、研究会「先端科学技術と安全保障」、本事業の研究会「紛争解決の理論と実践」、総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」の研究会「言説空間分析の文理横断的方法と応用」との合同事業）について、主筆が開催挨拶にも立つ Aletihad 紙によって、会議前後に以下とおり取り上げられた。

日時	記事名
2024/9/17	«تريندز» ينظم مؤتمره السنوي الدولي الرابع في اليابان
2024/9/19	خبراء: الذكاء الاصطناعي يقود مستقبل الأمن المستدام
2024/9/20	المؤتمر السنوي الدولي الرابع لـ«تريندز» يبحث الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي

・その他、上記会議に登壇したワシントンの中東研究所(MEI) の戦略技術・サイバーセキュリティ部門長のムハンマド・スレイマーン氏より、本会議への登壇を受け、Foreign Policy Research Institute ウェブサイトに 10 月 17 日付で「[Japan: America's Indispensable Ally in the 21st Century](#)」と題する論考が発表された。

・また、2024 年 12 月 2 日～8 日に開催された第 2 回徳之島国際ユースキャンプの活動が、12 月 25 日付アルジャジーラ・バルカンで取り上げられたほか、1 月 16 日、南日本放送で放送された。

日時	媒体名	記事名
2025/12/2 5	Al Jazeera Balkans	Značaj stranih edukacija za bh. studente: Prilika za putovanje, učenje i nova prijateljstva
2025/1/16	南日本放送	伊仙町で徳之島国際ユースキャンプ 鹿児島

・動画配信「ROLES Cast」第 14 回「プーチンの訪朝と露朝『包括的戦略パートナーシップ』の意味と展望」が 2024 年 9 月 5 日付新潮社 Foresight ウェブサイトに掲載された。（発展型総合事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」の研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」と、研究会「インド太平洋の安全保障構想」の共同成果）

URL : <https://www.fsight.jp/articles/-/50857>

・12月2日～8日に実施した第2回徳之島ユースキャンプが、2024年11月27日付奄美群島南三島経済新聞に「徳之島で『国際ユースキャンプ』 ボスニア・韓国・日本の学生が再び集結」 (<https://ami-minamisantou.keizai.biz/headline/556/>)、2024年12月11日付南海日日新聞に「3カ国の大学生と交流 戦争の記憶継承テーマに発表も 伊仙町」 (<https://www.nankainn.com/news/education/%EF%BC%93%E3%82%AB%E5%9B%BD%E3%81%AE%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%81%A8%E4%BA%A4%E6%B5%81%E3%80%80%E6%88%A6%E4%BA%89%E3%81%AE%E8%A8%98%E6%86%B6%E7%B6%99%E6%89%BF%E3%83%86%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%81%AB>) と題する記事でとりあげられた。

ROLES ウェブサイトを通じた発信

本事業では、ROLES ウェブサイト (<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/>) において、以下のような発信を行っている。

- ・ 日本語版刊行物：「ROLES Commentary」「ROLES Report」
- ・ 英語版刊行物：「ROLES INSIGHTS」
- ・ ジャーナル（日英）：『ROLES Review』
- ・ 日本語版時事解説動画シリーズ：「ROLES Cast」
- ・ 英語版時事解説動画シリーズ：「ROLES Talk」
- ・ その他の動画：YouTube チャンネル「ROLES Channel」
(<https://www.youtube.com/@ROLESChannel>) 登録者数 10,016 人
- ・ 各種セミナー・シンポジウムの告知：「イベント」欄 (<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/events>)
- ・ その他のお知らせ：「ニュース」欄 (<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/news>)

【ROLES Cast】

作成日	動画タイトル	視聴再生回数
2024/8/20	第5期プーチン政権始動：新内閣の顔ぶれと日露関係の今後	8,528

【ROLES Channel】

作成日	動画タイトル	視聴再生回数
2024/4/27	ウクライナ軍事侵攻の行方ー「西側の論理」から（ウェビナー）	17,716

2024/7/26	東大駒場リサーチキャンパス公開 2024 「激動する中東情勢: ガザ紛争の後に来るものは何か？」	5,500
2025/2/26	ロシア＝ウクライナ戦争の和平は可能か（ウェビナー）	26,886
2025/3/4	仏教と日本人 1 日本人は仏教徒か	328
2025/3/4	仏教と日本人 2 仏教は宗教か——神教と仏教の違い	107
2025/3/4	仏教と日本人 3 日本の価値観における仏教の役割	68
2025/3/4	仏教と日本人 4 日本人が仏教の教えに接する時	99
2025/3/4	仏教と日本人 5 変化する伝統—浄土から天国へ	75
2025/3/4	仏教と日本人 6 輪廻の意味	71
2025/3/4	仏教と日本人 7 変化した現代社会の中の仏教	59
2025/3/4	仏教と日本人 8 一切皆苦の意味	61
2025/3/4	仏教と日本人 9 執着の意味—自己中心的な考えの否定	59
2025/3/4	仏教と日本人 10 地域共同体における仏教の役割	57
2025/3/4	仏教と日本人 11 職業に励むこと	51
2025/3/4	仏教と日本人 12 世俗社会の中の仏教	54
2025/3/4	仏教と日本人 13 現実の肯定と一切皆苦	51
2025/3/4	仏教と日本人 14 変化する社会の中での仏教の役割	44
2025/3/4	仏教と日本人 15 仏教と神道を持つ日本とは	57
2025/3/4	仏教と日本人 16 住職の妻帯と世襲	80
2025/3/4	仏教と日本人 17 共同体の中の寺	58
2025/3/4	仏教と日本人 18 世界の中の日本人と仏教	84
2025/3/7	Building Eternity: The Kami-Human Landscape of Izumo Taisha 永遠を建てる—出雲大社カミとヒトの風景へ	773
2025/3/7	「永遠を建てる—出雲大社カミとヒトの風景へ」上映会・アフタートーク「古代バビロニアから出雲へ—永遠を目指す神殿—」	702

【ROLES Talk】

作成日	動画タイトル	視聴再生回数
2024/8/26	ROLES Talk ～写真で語る #1～	1,082
2024/10/16	ROLES Talk ～写真で語る #2～	417

【ROLES Report／Commentary】

作成日	刊行物タイトル	研究会
2024/5/3	ROLES Commentary No.20 石本凌也「包括的で重層的な『グローバル・パートナーシップ』：主体性を見せた岸田首相の訪米」	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」
2024/5/22	ROLES Commentary No.21 [Conference Papers] Hideaki Shinoda "What Japan Should Pursue in the Face of the Gaza Crisis"	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/5/22	ROLES Commentary No.21 篠田英朗「ガザ危機に直面する日本が追求すべきこと」	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/5/27	ROLES Commentary No.23 Guibourg Delamotte "Unrest in New Caledonia shows France needs AUKUS partners and Japan"	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2024/5/27	ROLES Commentary No.23 ギブール・ドラモット「ニューカレドニアの騒乱からの示唆：フランスは AUKUS のパートナーや日本を必要としている」	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2024/6/3	ROLES Commentary No.25 Guibourg Delamotte "What Is Holding Back France-Japan Cooperation?"	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2024/7/24	ROLES Commentary No.27 Philip Shetler-Jones, "A common problem of status quo vs. revolutionary foreign policies narrows the scope for conflict resolution in the Indo-Pacific and the Euro-Atlantic"	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/7/24	ROLES Commentary No.28 Abdifatah Aden Abdi, "Somalia's Perspective on the Free and Open Indo-Pacific: A Path to Peace and Conflict Resolution"	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/8/30	ROLES Commentary No.32 サヘル情勢の悪化：背景と展望 フランス国際関係研究所（Ifri）アラン・アンティル氏インタビュー	「国際理念と秩序の潮流：日本の安全保障戦略の課題」

2024/9/1	ROLES Commentary No.32 Dégradation de la situation au Sahel : Contexte et perspectives, l'interview d'Alain Antil	「国際理念と秩序の潮流：日本の安全保障戦略の課題」
2025/1/29	Mahfuz Kabir and Shanjida Shahab Uddin, "FOIP and BIG-B: Bangladesh in Perspective" (ROLES Commentary No. 37)	研究会「紛争解決の理論と実践」
2025/2/21	合六強「ウクライナの人々は「交渉」・「領土」・「安全の保証」をどう見ているか」 (ROLES Commentary No.38)	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/2/21	鶴岡路人「ウクライナ「停戦論」の来歴」 (ROLES Commentary No.39)	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/2/24	細谷雄一「ロシア＝ウクライナ戦争の和平は可能か」 (ROLES Commentary No.40)	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/2/24	岩間陽子「トランプ 2.0 の朝鮮とヨーロッパ」 (ROLES Commentary No.41)	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/2/26	ROLES Commentary No. 42 中井遼「バルト諸国のエネルギー独立, 海底ケーブル破損, グリーン政治の争点」	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/3/30	Naoko Kuwahara "Promoting the "Rule of Law" Abroad and "Legal Technical Assistance" the Japanese ODA: A Pragmatic Approach to Human Rights and Democracy?" (ROLES Commentary No.45)	研究会「安全保障協力体制の構想」
2025/3/30	久場川傳「ブッシュ大統領図書館の史料状況」 (ROLES Commentary No. 46)	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」
2025/3/30	久場川傳「日本外交史における湾岸戦争研究の現在」 (ROLES Commentary No.47)	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」
2025/3/30	Akira Nishimura "Hibakusha Masked by Borderline: Atomic Bomb Victims from Amami Archipelago" (ROLES Commentary No.48)	研究会「宗教と国際秩序」
2025/3/30	清水亮「ギャップに向き合うためにー戦争社会学研究会例会「これからの『私たち』の歴史実践に向けて」から考える」 (ROLES Commentary No.49)	研究会「宗教と国際秩序」

2025/3/31	平藤喜久子「「永遠を建てる」―出雲からバビロニア、そして世界のあり方を問う」(ROLES Commentary No.50)	研究会「宗教と国際秩序」
2025/3/31	井上まどか「アニメーションは戦争体験をいかに描くか? ―トーク・イベント 開催の背景と趣旨」(ROLES Commentary No.51)	研究会「宗教と国際秩序」
2025/3/31	長谷川章「ウクライナ戦争とソ連アニメーションの戦争の記憶」(ROLES Commentary No.52)	研究会「宗教と国際秩序」
2025/3/31	アルト・ヨアヒム「一終戦と戦後―アニメにおけるヒロシマと色丹島の比較」(ROLES Commentary No.53)	研究会「宗教と国際秩序」

【ROLES REVIEW】

作成日	刊行物タイトル	研究会
2024 / 8 / 31	ROLES Review Vol.5 『North Korea's Global Activities』	研究会「インド太平洋の安全保障構想」
2024 / 12 / 31	ROLES REVIEW Vol. 6 対外政策における「個人」の役割―その意義と限界	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」

(参考：『ROLES REVIEW Vol. 6』の目次)

巻頭言 対外政策における「個人」の役割	
――その意義と限界――	石本凌也
1. 佐藤官邸における東南アジア外交と政治課題	
――70 年安保問題、ポスト・ヴェトナム、ポスト・沖縄をめぐる議論に注目して――	中西 友汰
2. Foreign Policy toward Japan regarding SALT II during the Carter Administration:	
Continuity and Discontinuity from the Ford Years	Ryoya ISHIMOTO
3. 英国の対米協力、1986～1987 年	
――リビア空爆とペルシャ湾安全航行問題――	小南 有紀
4. 海部政権期における日本の対中政策	
――中国の「孤立化脱却」から「再関与」へ――	東郷 雄太

< 書評論文 >

浅野良成『賛同・許容・傍観された自民党政治』（有斐閣、2024 年） 中川 倫梨子

【その他】

作成日	刊行物タイトル	研究会
2024/7/12	[Working Papers] Hideaki Shinoda "A Critical Examination of Theories and Practices of Conflict Resolution: How do we approach 'International intra-state armed conflicts'?"	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/7/12	[Working Papers] Olena Akimova, Iurii Perga, Anna Ishchenko "Local (community) Resilience in Conflict zone Regions: in the search for Factors of Conflict resolution and Recovery Potential"	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/7/14	[Working Papers 日本語版] 篠田英朗「紛争解決の理論と実践の批判的な検討：『国際的な国内武力紛争』にはどのようにアプローチすべきか？」	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/7/14	[Working Papers 日本語版] オレナ・アキモヴァ、イウリイ・ペルガ、アンナ・イシュチェンコ「紛争地域における地域（コミュニティ）レジリエンス：紛争解決と復興の可能性の要因を探る」	研究会「紛争解決の理論と実践」
2024/12/13	[Conference Papers] Akira NISHIMURA, "Hibakusha Masked by Borderline: Atomic Bomb Victims from Amami Archipelago"	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「戦争の記憶と宗教」
2024/12/30	ROLES NEWSLETTER No.1 (2024 年 12 月)	「国際理念と秩序の潮流：日本の安全保障戦略の課題」
2025/1/31	ROLES NEWSLETTER No.2 (2025 年 1 月)	「国際理念と秩序の潮流：日本の安全保障戦略の課題」

2025/2/28	ROLES NEWSLETTER No.3 (2025 年 2 月)	「国際理念と秩序の潮流：日本の安全保障戦略の課題」
2025/3/31	ROLES NEWSLETTER No.4 (2025 年 3 月)	「国際理念と秩序の潮流：日本の安全保障戦略の課題」

広報用資料として、昨年度作成した ROLES パンフレットを改訂。

国内向け公開セミナーの開催

今年度開催した国内向け公開セミナー（日本語で開催したもの）の開催実績は以下の通り。

日時	イベント名	講演者（所属）	形式	事前登録	当日参加	共催機関	実施研究会
2024/7/18	【緊急開催】 RCAST セキュリティ・セミナー「フランス国民議会選挙の外交政策への影響」	池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）	対面	20	15	－	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2024/7/26	シンポジウム「激変する欧州・世界の中の NATO －『模索する NATO －米欧同盟の実像』をめぐって」	細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）、鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部准教授）、東野篤子（筑波大学教授）、合六強（二松学舎大学准教授）、小泉悠	対面	195	119	－	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」

		(東京大学先端科学技術研究センター准教授)					
2024/11/11	特別公開シンポジウム「アメリカ新政権と無極化する世界のゆくえ」	池内 恵（東京大学教授、ROLES 代表）、秋田 浩之（日本経済新聞社・本社コメンテーター）、細谷 雄一（慶應義塾大学教授、KCS センター長）、森 聡（慶應義塾大学教授、KCS 副センター長）、鶴岡 路人（慶應義塾大学准教授、KCS 副センター長）	対面	－	－	慶應戦略構想センター（KCS）	研究会 「『西側』の論理の検証と再構築」
2024/12/12	RCAST セキュリティ・セミナー「Fueling Sovereignty: Colonial Oil and the Creation of Unlikely States」	向山尚佑（東京大学未来ビジョン研究センター准教授）	対面	－	－	東京大学先端科学技術研究センター エネルギー国際安全保障機構（GSET）	研究会 「エネルギー国際秩序における日本の立場」
2025/1/11	QWS ACADEMIA（東京大学）「アニメーションは戦争体験をいかに描くか？」	アルト・ヨアヒム（国立歴史民俗博物館） 長谷川章（秋田大学）	対面	127	74	日本学術振興会科研費基盤 B「戦時下の教会：ウクライナとその	研究会 「宗教と国際秩序」

		井上まどか（清泉女子大学）				周辺国における宗教・国家・社会」	
2025/1/20	KCS 主催公開シンポジウム “KCS Strategic Foresight 2025”に登壇	池内 恵（東京大学教授、ROLES 代表） 小泉 悠（東京大学准教授、ROLES 副代表） 東野篤子（筑波大学教授） 加茂 具樹（慶應義塾大学教授、総合政策学部長） 西野 純也（慶應義塾大学教授） 合六 強（二松学舎大学准教授） 細谷 雄一（慶應義塾大学教授、KCS センター長） 森 聡（慶應義塾大学教授、KCS 副センター長） 鶴岡 路人（慶應義塾大学准教授、KCS 副センター長） 宮島昭夫（前ポーランド大使、元トルコ大使）	対面	-	-	KCS	研究会 「『西側』の論理の検証と再構築」

2025/1/22	上映会 “Building Eternity: The Kami-Human Landscape of Izumo Taisha” （永遠を建てるー出雲大社カミとヒトの風景へ） アフタートーク「古代バビロニアから出雲へー永遠を目指す神殿ー」	千家和比古（出雲大社権宮司） 月本昭男（立教大学・上智大学名誉教授） 港千尋（多摩美術大学教授、アートとデザインの人類学研究所長、写真家） 平藤喜久子（國學院大學教授、日本文化研究所所長） クラウス・アントーニ（テュービンゲン大学教授） ジャン-ミシェル・ビュテル（フランス国立東洋言語文化大学准教授）	対面	207	133	國學院大學 日本文化研究所	研究会 「宗教と国際秩序」
2025/1/26	これからの「私たち」の歴史実践に向けてー『戦争のかけらを集めて』から始まるトークセッション（戦争社会学研究会 2024 年度第 2 回例会）	白岩伸也（北海道教育大学）、 今泉裕美子（法政大学）	対面	-	-	戦争社会学 研究会事務局	研究会 「宗教と国際秩序」
2025/1/30	合評会「玉置敦彦『帝国アメリカがゆずるときー譲歩	小宮京（青山学院大学） 玉置敦彦（中央大	対面	26	28		研究会 「日本の価値

	と圧力の非対称同盟』』	学) 泉川泰博（青山学院大学） 高橋慶吉（大阪大学）					観外交 の検証 と再構 築」/サ ブユニ ット 「国際 政治と リーダー シップ」 研究会 「戦後 日本外 交の歴 史的研 究
2025/2/7	ROLES コモンルーム・トーク第1回 （宮島昭夫・前ポーランド大使）	宮島昭夫（前ポーランド大使・元トルコ大使）、川島真（東京大学大学院総合文化研究科教授）、東野篤子（筑波大学人文社会系教授）、松尾豪（合同会社エネルギー経済社会研究所代表取締役）、長谷川雄之（防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室 主任研究	対面及びハイブリッド	8	8		

		官)、池内恵(東京大学教授) 他					
2025/2/20	共催研究会「日本と非東アジア世界との国際関係」	谷一巳(東京外国語大学)、赤川尚平(慶應義塾大学)	ハイブリッド	-	-	「国際政治とリーダーシップ」(東大先端研 ROLES サブユニット)	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2025/2/24	ウェビナー「ロシア＝ウクライナ戦争の和平は可能か」	細谷雄一(慶應義塾大学教授)、岩間陽子(政策研究大学院大学教授)、東野篤子(筑波大学教授)、鶴岡路人(慶應義塾大学准教授)、合六強(二松学舎大学准教授)、小泉悠(東京大学先端科学技術研究センター准教授)	ZOOM	734	500		研究会「『西側』の論理の検証と再構築」

2025/3/1	【東京外国語大学 国際関係研究所と の共催】リサーチ セミナー「The Impacts of the Russo-Ukrainian War: Theoretical and Practical Explorations of Policy Agendas for Peace in Ukraine」	篠田英朗（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授／東京大学先端科学技術研究センター客員上級研究員）、安井日寧子（東京大学公共政策大学院／東京大学先端科学技術研究センター交流研究生）、Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev（ウクライナ国立工科大学社会学部教授）、Anna Mykolayivna Ishchenko（ウクライナ国立工科大学社会学部上級講師）、Olena Akimova（ウクライナ国立工科大学社会学部長）、Iurii Perga（ウクライナ国立工科大学社会学部准教授）、吉崎知典（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授）	対面及びハイブリッド	24	28	東京外国語大学国際関係研究所	研究会「紛争解決の理論と実践」
----------	--	--	------------	----	----	----------------	-----------------

2025/3/5	【イベント延期】 ボスニア・ヘルツェゴビナ上級代表 クリスティアン・シュミット氏 公開講演 「南東欧と西バルカンにおける現在の政治的課題と国際的安定への影響」	クリスティアン・シュミット（ボスニア・ヘルツェゴビナ上級代表）、池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授・ROLES 代表）、久保慶一（早稲田大学政治経済学術院教授）、中井遼（東京大学先端科学技術研究センター教授）	対面	-	-		研究会 「宗教と国際秩序」
2025/3/16	出雲神話フォーラム 2025	平藤喜久子（國學院大学、日本文化研究所所長）、港千尋（多摩美術大学教授、アートとデザインの人類学研究所長、写真家）、Alan Cummings（ロンドン大学東洋アフリカ研究学院准教授）、Kio Griffith（多摩美術大学客員教授）、大杉浩司（岡本太郎記念館客員研究員）、小泉凡（小泉八雲記念館館長）	対面	-	約 150	島根国際交流委員会	研究会 「宗教と国際秩序」

ROLES メンバーのメディア出演、メディア・ジャーナル寄稿実績

※ROLES 所属の教授・准教授・助教・研究員によるメディア出演及びメディア・ジャーナル寄稿実績実績は以下のとおり。

なお、ROLES は発展型総合事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」及び総合事業「自由・民主主義は何をもたらすことができるか」も実施しているが、事業別に出演実績を切り分けることは困難なため、上記 2 事業の実績報告書にも同様に記載している。

① 池内恵 教授

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/20	BS テレ東	日経プラス 9 サタデー【イスラエル V S イラン 報復の連鎖に歯止めは？】
2024/4/20	日本経済新聞	中東情勢で対話路線の日本、米欧はイラン追加制裁探る G7 外相（会員有料記事）
2024/4/28	BS 朝日	緊迫する中東情勢…対立と攻撃の連鎖に何が？ 激論! クロスファイア
2024/5/5	信濃毎日新聞デジタル	ガザ紛争、崩れる西側の論理 池内恵氏（東京大先端科学技術研究センター教授）（会員有料記事）
2024/8/3	BS テレ東	日経サタデー▼ニュースの疑問【暗殺・報復で中東緊迫▽波乱相場を緊急解説！】
2024/9/1	信濃毎日新聞デジタル	ガザ紛争で揺らぐ外交戦略 池内恵氏（東京大先端科学技術研究センター教授）〈多思彩々〉
2024/9/17	Aletihad Newspaper	From Tokyo to Jakarta: TRENDS Asia tour explores AI and sustainable security
2024/9/17	Aletihad Newspaper	«تريندز» ينظم مؤتمره السنوي الدولي الرابع في اليابان
2024/9/18	Aletihad Newspaper	At the University of Tokyo, TRENDS' Fourth Annual Conference on "Sustainable Security and AI" gets underway
2024/9/18	صحيفة الخليج	انطلاق أعمال مؤتمر تريندز عن «الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي» صحيفة الخليج
2024/9/18	wam.ae	أكد خبراء وأكاديميون وباحثون أهمية وضع إطار عمل عالمي شامل لحوكمة الذكاء الاصطناعي، يغطي الجوانب الأخلاقية والقانونية والاجتماعية، مشددين على ضرورة تعزيز التعاون الدولي في تطوير معايير

		مشتركة تضمن استخدام هذه التقنية بشكل مسؤول. جاء ذلك في مداخلات اليوم الأول من المؤتمر السنوي الدولي الرابع لمركز تريندز...
2024/9/18	شبكة أخبار الإمارات	انطلاق أعمال مؤتمر تريندز السنوي الرابع حول "الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي" - شبكة أخبار الإمارات
2024/9/19	Aletihad Newspaper	TRENDS' 4th Annual International Conference concludes two days of discussions on security and AI
2024/9/19	Aletihad Newspaper	خبراء: الذكاء الاصطناعي يقود مستقبل الأمن المستدام
2024/9/19	شبكة أخبار الإمارات	عُقد بالتعاون مع جامعة طوكيو المؤتمر السنوي الدولي الرابع لـ"تريندز" يختتم يومين من المناقشات حول الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي - شبكة أخبار الإمارات
2024/9/20	Aletihad Newspaper	المؤتمر السنوي الدولي الرابع لـ"تريندز" يبحث الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي
2024/9/20	trendsresearch.org	«تريندز» وجامعة طوكيو يوقعان اتفاقية تعاون لتعزيز البحث العلمي
2024/9/20	Al-Bayan	مؤتمر «تريندز» يناقش الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي
2024/9/20	جريدة الوطن	المؤتمر السنوي الدولي الرابع لـ"تريندز" يختتم يومين من المناقشات حول الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي
2024/9/20	日本経済新聞	アラブ首長国連邦やサウジアラビア、オイルマネーをAIへ編集委員 久門武史
2024/9/21	Aletihad Newspaper	تعاون بين «تريندز» وجامعة طوكيو
2024/9/21	Aletihad Newspaper	TRENDS launches its 9th global office in Tokyo
2024/9/21	جريدة الوطن	«تريندز» وجامعة طوكيو يوقعان اتفاقية تعاون لتعزيز البحث العلمي
2024/9/21	جريدة الوحدة - جريدة يومية	«تريندز» ي دشّن مكتبه التاسع عالمياً في «طوكيو» - جريدة الوحدة
2024/9/21	جريدة الوحدة - جريدة يومية	«تريندز» وجامعة طوكيو يوقعان اتفاقية تعاون لتعزيز البحث العلمي - جريدة الوحدة
2024/9/21	BS テレ東	日経サタデー▼ニュースの疑問【中東ポケベル爆発の謎…イスラエルどう動く？】
2024/11/6	PHP 総研	『Voice』2024年12月号▼宗教が動かす国際政治
2024/11/16	日本経済新聞	米共和「トリプルレッド」 小野亮さんと Think!
2024/12/1	信濃毎日新聞デジタル	中東の紛争、鍵を握る周辺の地域大国 「取引」重視のトランプ政権発 足へ 池内恵（東京大先端科学技術研究センター教授）〈多思彩々〉
2024/12/19	政策シンクタンク PHP 総研	2025年版 PHP グローバル・リスク分析

2024/12/19	NIKKEI ASIA	Thailand's Pita keen to return as PM candidate after political ban
2024/12/23	公研	「シリアをめぐる闘争」は続く【池内恵】
2025/1/20	慶應戦略構想センター	コメンタリー集『KCS Strategic Foresight 2025』池内恵「中東」
2025/1/31	外交 WEB	『外交』Vol.89 Jan./Feb. 2025▼中東秩序再編 主導権握るイスラエル (PDF 閲覧あり)
2025/2/13	新潮社 Foresight	「12 月 8 日」のシリア内戦終結と新たな中東地域秩序への闘争（※会員 有料記事）

② 小泉悠 准教授

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/3	The Japan Times	Negotiating with Putin now won't end the war
2024/4/4	経済界ウェブ	日本の軍事力の欠点は兵器の生産・復帰能力 小泉 悠
2024/4/4	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×東野篤子×鶴岡路人】 ウクライナ戦争と欧州の苦悩 2024/4/4 放送＜後編＞
2024/4/8	共同通信	ロシア北極圏で核実験の準備進行 衛星画像、「臨界前」の可能性
2024/4/9	BS 日テレ	【深層 NEWS】米外交官ら健康被害訴える「ハバナ症候群」に新事実か 露軍 GRU「29155 部隊」関与の報道「非致命的音響兵器」使用か “暗殺”疑惑 飛び交うロシアの闇を小泉悠×小谷哲男が徹底分析
2024/4/10	産経新聞	ロシア北極圏で核実験の準備進行 小泉悠氏が衛星画像を分析、露の意図を「欧米への威嚇」（※会員有料記事）
2024/4/10	ABEMA	ABEMA Prime▼日米首脳会談 防衛費増強より大事なものは“日本ブランド”安保戦略のあり方
2024/4/11	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up ! ▼東大先端科学技術研究センター准教授、軍事評論家 小泉悠
2024/4/14	BS 朝日	日曜スクープ▼防戦のウクライナ追加支援は届くのか 砲弾枯渇の“危機”大統領が抱く警戒感とは？
2024/4/15	BS フジ	【どう動く？イスラエル“反撃”】イラン報復攻撃で中東緊迫 小泉悠×小原凡司×黒井文太郎 2024/4/15 放送＜前編＞
2024/4/22	毎日新聞	小泉悠さんが語る 第 1 回 ロシア、ウクライナ、国際社会の誤算

2024/4/25	北羽新報社	橋本五郎文庫で 27 日に開設 13 周年イベント 著名人十数人がトーク
2024/4/26	BS 日テレ	深層 NEWS▽米国ウクライナ支援再開で戦況どう変わる？追加予算 9 兆円超の本気度は？長射程 ATACMS はすでに供与も▽“プリゴジン氏”登場ゲームとは▽小泉悠×兵頭慎治×小谷哲男
2024/4/30	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠 ×岩田清文】ウクライナ最新戦況 米国の ATACMS 供与で戦況は 【間一髪でアメリカの支援間に合う？】2024/4/30 放送＜後編＞
2024/5/1	BS-TBS	9 兆円超 アメリカが支援再開 透けて見える次の対ロシア戦略とは【5 月 1 日（水）#報道 1930】
2024/5/4	朝日新聞デジタル	泥沼のウクライナ戦争、ロシア軍に取り付く「亡霊」小泉悠さんに聞く（※会員有料記事）
2024/5/5	毎日新聞	海自ヘリ墜落 訓練の背景に静かな潜水艦 ロシア研究・小泉悠氏（※会員有料記事）
2024/5/7	PHP	Voice 2024 年 6 月号 不思議の国・ロシア 「戦争と暴力の本質は変わらない」小谷 賢&小泉 悠&先崎彰容
2024/5/7	BS フジ	プライムニュース▼【最新ウクライナ戦況】露軍が拠点制圧か 遠藤良介×小泉悠 2024/5/7 放送＜前編＞
2024/5/8	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up ! ▼2024 年 5 月 8 日（水）コメンテーター：小泉悠
2024/5/8	BS 日テレ	【深層 NEWS】石川一洋×小泉悠が分析 プーチン大統領が通算 5 期目の就任式「侵攻の正当性」西側との対話「対等な条件」強調▽新内閣若返り？国防相の処遇は▽戦術核演習の指示も「核の威嚇」思惑は
2024/5/10	軍事研究	軍事研究 2024 年 6 月号 「無人化する露軍の長距離攻撃能力」 小泉 悠
2024/5/11	朝日放送テレビ	教えて！ニュースライブ 正義のミカタ ABC テレビ 5 月 11 日（土）朝 9:30-11:00（出演）
2024/5/12	テレ朝 NEWS	【ロシア軍がハルキウ州で地上作戦】防御線突破で“越境攻撃”緩衝地帯の設置が狙いか【日曜スクープ】（2024 年 5 月 12 日）
2024/5/12	テレ朝 NEWS	【プーチン氏“核部隊は臨戦態勢”】欧州が抱く危機感…ウクライナ支援は新段階へ【日曜スクープ】（2024 年 5 月 12 日）

2024/5/15	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×小谷哲男×熊倉潤】プーチン 5 期目就任初の 外遊先に中国 狙いは 2024/5/15 放送＜前編＞
2024/5/16	BS 日テレ	【深層 NEWS】プーチン氏が大統領就任直後に訪中し習主席と会談…ウクラ イナ侵攻で連携狙いか▽“スパイ天国”日本で中露スパイ暗躍の実態「オウム 真理教」背後にロシアの影▽前国家安保局長・北村滋×小泉悠
2024/5/21	BS-TBS	石破 茂×小泉悠 北方領土にロシア軍 “新冷戦”日本の安全保障の重要課 題【5 月 21 日(火)#報道 1930】
2024/5/22	一般財団法人 中東協 力センター	中東協力センターニュース 2024 年 5 月号▼小泉悠「ロシアの中東戦略とウ クライナ戦争のインパクト」
2024/5/24	TBS NEWS DIG	石破茂×小泉悠 この国に何が足りないのか【報道 1930】
2024/6/4	BS-TBS	戦争の転換点か？ウクライナ軍 米供与の兵器でロシア領攻撃の舞台裏【6 月 4 日(火)#報道 1930】
2024/6/6	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×稲葉義泰】ウクライナ最新戦況 NATO 諸国 が「越境攻撃」容認 【露の早期警戒レーダーを攻撃？】2024/6/6 放送＜前 編＞
2024/6/13	BS 日テレ	【深層 NEWS】兵頭慎治×小泉悠が分析▽ウクライナ軍が防空システム相次 ぎ攻撃、露軍が迎撃できないワケ▽露軍“戦術核”演習第二段階へ…謎の「ト ラック車列」登場の背景▽プーチン大統領の娘の意外な過去
2024/6/14	BS-TBS	報道 1930▼G 7 サミット・ウクライナ軍支援は「新段階」？ウ大統領府長 官語る「無人軍新設」の実態は？▼核使用のきっかけは？プーチン氏が胸で 十字切る真意とは？
2024/6/14	朝日新聞出版	月刊 ジュニアエラ 2024 年 7 月号▼なぜなくせないの？
2024/6/15	ABC テレビ	教えて！ニュースライブ 正義のミカタ（出演）
2024/6/19	BS 日テレ	【深層 NEWS】プーチン氏 24 年ぶり訪朝“ドライブ会談”▽首脳会談で“侵略 された場合は相互支援”新条約署名▽衛星画像で分析…露朝“密輸ルート”武器 運搬か▽“蜜月”北が狙うロシア軍事技術
2024/6/25	spiegel.de	(S+) Asien: Sicherheitsexperte Yu Koizumi über die russische Bedrohung
2024/6/25	東京新聞 TOKYO Web	ウクライナで即時停戦には「反対」 軍事研究家・小泉悠氏「ロシアに主権 奪取を諦めさせなくては」
2024/6/26	共同通信	ロシア極東、極北のミサイル移動 ウクライナ戦に転用か、衛星画像

2024/6/26	BS-TBS	ウクライナ戦争の緊迫 アジアへ？プーチン氏受け入れ ベトナムの本当の狙い【6月26日（水）#報道1930】
2024/6/27	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×鶴岡路人】ウクライナ最新戦況 ウクライナ軍がクリミアの宇宙通信施設を攻撃か 【米供与 ATACMS 投入の波紋】 2024/6/27 放送＜前編＞
2024/6/27	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠&鶴岡路人が解説】露韓の緊張は日本にどう影響？【露朝新条約をどう解釈？】 2024/6/27 放送＜後編＞
2024/7/2	MBS ラジオ	上泉雄一のええなあ！▼小泉悠「ロシアプーチン政権、ロシア国民はどう評価している？」「ウクライナ侵攻はいつまで続くのか？」「ロシアと北朝鮮、パートナーシップ条約の影響」「日本の安全保障の課題」
2024/7/4	PRESIDENT Online	「アメリカの同盟国だから、中国は日本を攻撃しない」は甘い…ロシア・ウクライナ戦争でわかった「核抑止」の現実 核を持たぬ小国が犠牲になる「安定・不安定パラドックス」
2024/7/4	産経新聞	7月4日産経新聞▼正論 小泉悠「露朝『同盟』の背景を読み解く」
2024/7/5	新潮社 Foresight	中国「謎の巨大工事」を合成開口レーダーで透視した——核の「最小限抑止」戦略は変わったか：小泉悠
2024/7/5	PRESIDENT Online	プーチンの本当の狙いはウクライナの領土ではない…小泉悠「ロシアの軍需工場を狙わないと最悪の結末になる」放っておけば「ロシア完全勝利」にどんどん近づく
2024/7/7	韓国『東亜日報』	“북러 조약은 ‘동상이몽’ 혼인신고서…러, 동맹 격상 안할 것”
2024/7/9	BS-TBS	”もしトラ”で和平圧力か/危機感強める NATO のトランプ対策とは【7月9日（火）#報道1930】
2024/7/10	中央公論新社	中央公論 2024年8月号▼北岡伸一×小泉 悠「アメリカの問題、現実的な停戦ライン……歴史的視座から考えるウクライナ戦争」
2024/7/10	軍事研究	Japan Military Review「軍事研究」：軍事研究 2024年8月号▼「第五期プーチン政権」大物排除の国防人事
2024/7/14	東京新聞 TOKYO Web	新たな戦場は「人の脳」 ディープフェイクで対立あおり分断 国が不満や不正を放置すれば「弱点」に
2024/7/16	東京新聞 TOKYO Web	軍事研究家・小泉悠氏が「人の脳が戦場になる」解説 「信じない人」が狙われる＜認知戦インタビュー詳報＞

2024/7/24	NHK BS	国際報道 2024▼ロシアの核戦略を巡る動きが活発化 OSINT で迫る
2024/7/25	公益財団法人 日本証券経済研究所	定期刊行物】証券レビュー第 64 巻第 7 号(2024 年 7 月)▼小泉悠：講演「大統領選挙後のロシア政治・外交の行方について」
2024/7/26	BS 日テレ	【深層 NEWS】ゼレンスキー氏が対露交渉示唆も米大統領戦影響か▽露軍 1 日 6 k m 驚異的前進…縦横無尽「バイク部隊」とは▽露軍の武器庫全壊…ウクライナ軍が無人機攻撃▽モスクワ爆発事件の瞬間…露軍将校狙いか
2024/7/27	講談社	トランプ再選で「来年中にウクライナは敗北」し、ロシアの「属国」になる (週刊現代)
2024/7/31	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×鈴木一人×伊藤融】ウクライナ戦争 インドの本音は 2024/7/31 放送<前編>
2024/7/31	BS フジ	プライムニュース▼【実利を優先するのは当たり前？】全方位&実利主義インド外交の功罪 小泉悠×鈴木一人×伊藤融 2024/7/31 放送<後編>
2024/7/31	Numero TOKYO	小泉 悠×リサタニムラ×シャラ ラジマ鼎談：映画を見て、戦争と平和について考えてみよう
2024/7/31	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up ! ▼2024 年 7 月 31 日（水）コメンテーター： 小泉悠
2024/8/1	BS 日テレ	【深層 NEWS】衛星画像で分析…中露が北極圏共同偵察飛行、中国「氷上シルクロード」構想も北極圏めぐる中露の戦略▽米独長距離ミサイル配備計画 プーチン氏「冷戦時代をほうふつ」露ミサイル配備「欧米も射程内」
2024/8/2	South China Morning Post	Chinese Y-20 planes seen at Russian airport on same day as patrol near Alaska
2024/8/6	BS-TBS	衛星画像が捉えた中国核戦力の増強加速 「第 3 の核時代」の"相互確証破壊"とは【8 月 6 日(火)#報道 1930】
2024/8/7	BS フジ	プライムニュース▼【欧州戦闘機が初の同時展開 その実力は】"軍事マニア・小泉悠"が見た日欧訓練 佐藤丙午×小泉悠×張雲 2024/8/7 放送<前編>
2024/8/7	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×佐藤丙午×張雲】ロシアが中距離核配備？増大する核の脅威 2024/8/7 放送<後編>
2024/8/11	テレ東	池上彰の戦争を考える S P 2 0 2 4 なぜ、世界から戦争はなくなるのか

2024/8/14	AERA with Kids +	「戦争はなぜ起きるの？」子どもたちの疑問に軍事の専門家はどうか答える？ 人間が戦争をする“3つの理由”とは
2024/8/21	BS フジ	プライムニュース◆岩田元陸幕長×小泉悠 ウ軍“露領への進軍”を軍事解析
2024/8/22	BS-TBS	ロシア領進攻の影響は／徴集兵が捕虜に…プーチン氏の足元揺らぐ？【8月22日（木）#報道 1930】
2024/8/22	テレビ朝日	8/22 放送羽鳥慎一モーニングショー▼「戦争開始直後 ウクライナ、ロシア 和平交渉で決裂…今後の着地点は」
2024/8/27	NHK	ニュース7▼ロシアの大規模攻撃 狙いは 今後の焦点は
2024/8/30	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up! ▼灼熱の W コメンテーターウィーク
2024/9/10	軍事研究	軍事研究 2024 年 10 月号▼脅しをかけるロシアとその対抗措置「極東巻き 込む米露中距離ミサイル危機」 INF の破棄から五年、米露は中距離核ミサ イルの配備再開に踏み切る。そのオプションとは？
2024/9/13	BS 日テレ	【深層 NEWS】「空飛ぶチェルノブイリ」小型原子炉搭載巡航ミサイル「ブ レベスニク」配備地点が衛星画像で明らかに…射程距離は理論上「無限」ロ シア「核の威嚇」メッセージか
2024/9/13	毎日新聞	論点：戦争研究者と先の大戦
2024/9/17	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up! ▼軍事評論家 小泉悠
2024/9/19	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×高田克樹×鶴岡路人が緊急分析】 ウクライ ナ「勝利計画」の中身 2024/9/19 放送＜前編＞
2024/9/24	BS 日テレ	【深層 NEWS】ロシア軍機が領空侵犯で空自が初のフレア警告▽3 度の領空 侵犯“ジグザグ旋回”狙いは▽総裁選候補が言及…厳しい声も▽ゼレンスキー 氏「勝利計画」4 つのポイント…ウクライナ戦術に変化は
2024/9/24	日本経済新聞	小泉悠氏、ロシアの領空侵犯「中ロ艦艇の航行と関係」（会員有料記事）
2024/9/25	株式会社潮書房光人 新社	月刊雑誌「丸」2024 年 11 月号▼“人類破滅装置”ソ連弾道ミサイル潜水艦分 析 東京大学先端科学技術研究センター准教授 小泉悠
2024/9/25	季刊高知	季刊高知 94 号▼ジャイアント★インタビュー東京大学 先端科学技術研究 センター准教授 軍事アナリスト 小泉悠さん
2024/9/27	プレジデント	プレジデント 2024 年 10/18 号（2024 年 09 月 27 日発売）6 大分野別クイ ズ「バカの壁」▼ウクライナ戦争はなぜ終わらないのか……プーチンが悪い or ゼレンスキーが悪い——小泉 悠

2024/9/28	NHK	サタデーウオッチ 9 ▼北朝鮮脅威！ミサイル実戦で
2024/10/3	新潮社	週刊新潮▼元 NHK 岩田明子の貴方にスポットライト 小泉 悠 東京大学准教授
2024/10/6	読売テレビ	そこまで言って委員会 N P 米中露韓を徹底解剖！世界の気になるニュース S P
2024/10/7	BS フジ	プライムニュース▼【最新“露ウ戦線”予想外の撤退戦】新たな動きを見せる露ウ両軍の地上戦を読み解く 山下裕貴×小泉悠 2024/10/7 放送＜前編＞
2024/10/7	産経新聞	＜正論＞石破政権は現実的対露外交貫け 東京大学先端科学技術研究センター准教授、小泉悠（※会員有料記事）
2024/10/11	BS-TBS	石破総理の"安全保障"改革/「アジア版 NATO」が伝えたメッセージとは 【10 月 11 日(金)#報道 1930】
2024/10/12	毎日新聞	核軍縮に逆風下、被団協のノーベル平和賞は「意義大」 小泉悠氏
2024/10/13	BS11	【定点観測・大統領選】第2回 大詰め大統領選！ 中国、ロシアは？（10 月 13 日放送）笹川平和財団のスペシャリストが、大統領選を徹底解説！ ▼出演：兼原信克、小泉悠 山上信吾 上野愛奈 BS11
2024/10/17	BS-TBS	北朝鮮・中東情勢にロシアの影／ウクライナで劇的進化 ドローンと AI の「新たな戦争」 【10 月 17 日(木)#報道 1930】
2024/10/18	ニッポン放送	飯田浩司の OK!Cozy up! ▼2024 年 10 月 18 日（金）コメンテーター：小泉悠
2024/10/22	War on the Rocks	Russian Pacific Fleet Redux: Japan's North as a New Center of Gravity - War on the Rocks
2024/10/23	BS フジ	プライムニュース▼【兵頭慎治×東野篤子×小泉悠】ウクライナ勝利計画の現実味 2024/10/23 放送＜前編＞
2024/10/26	N1	Sigurnosni strahovi u sigurnom Japanu
2024/10/27	テレ東・BS テレ東 7ch(公式)	集まれ！総選挙ライブ【20 人の出演者が選挙を語り 政治家に問う選挙特番】
2024/11/9	ABC テレビ	教えて！ニュースライブ 正義のミカタ▼◇露朝 ロシアが北朝鮮兵に武器供与！？そしてロシア西部に派兵？！ロシア・北朝鮮は今後トランプ氏とどのような関係を築いていく？（出演）

2024/11/9	月刊軍事研究	軍事研究 2024 年 12 月号▼ロシア、北極圏で核実験再開か!?唯一の核実験場ノーヴァヤ・ゼムリャー島で進む大規模な建設工事、プーチンの企みとは 小泉悠
2024/11/15	BS 日テレ	【深層 NEWS】ロシア映画会社が軍に戦車提供▽北朝鮮自走砲も移送…北朝鮮兵派兵の実態▽プーチン氏とトランプ氏“電話会談”報道をロシアが否定なぜ▽2 か月で死傷者 8 万人超…損失甚大も戦果急ぐプーチン氏思惑
2024/11/21	読売新聞	ロシアがわずか 1000 k m先に ICBM 発射情報、アメリカへ「核攻撃いとわない」警告か
2024/11/22	産経新聞	<正論>トランプ政権とウクライナ支援 東京大学先端科学技術研究センター准教授・小泉悠（※有料会員記事）
2024/11/25	BS フジ	プライムニュース▼ロシア新型ミサイルの衝撃!米欧支援加速でウ軍巻き返しは?
2024/11/29	月刊軍事研究	「軍事研究」2025 年 1 月号 別冊▼ロシアの継戦能力は何故尽きないのか…小泉悠
2024/11/29	BS 日テレ	深層 N E W S ▽「欧州諸国の派兵議論か」仏有力視報じる。NATO が抱く危機感とは
2024/12/6	潮書房光人新社	軍事専門家・小泉悠が警告…! 2025 年、日本と世界が直面する「大規模戦争の危ない現実」と「日本の安全保障のリスク」
2024/12/6	言論テレビ	ウ戦争再び激化! 停戦の駆け引き鮮烈 トランプ『就任 24H で戦争は終わらせる』
2024/12/12	NHK	国際報道 2024▼「ロシアの核 日本近海の“戦力”増強」 衛星画像などの分析から、ロシアのカムチャツカ半島に軍の施設が次々に増強されている実態が明らかに 東京大学の #小泉悠 准教授や海上自衛隊元海将と読み解く
2024/12/12	BS フジ	【小泉 悠×黒井文太郎×ジョセフ・クラフト】反政府勢力「シリア解放機構」とは 2024/12/12 放送<前編>
2024/12/16	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up! ▼16 (月) 軍事評論家 小泉悠
2024/12/17	BS 日テレ	【深層 NEWS】モスクワ爆発で将校ら死亡…ウクライナ作戦認める報道▽シリア露軍基地で退避の動き…ロシア影響力低下も▽ウクライナがシリア反政府勢力支援か▽クルスク州戦闘に北朝鮮兵本格投入…犠牲拡大も

2024/12/19	日テレ NEWS NNN	北朝鮮兵、ウクライナ侵攻の最前線に…ゼレンスキー氏「プーチンのために死ぬ理由ない」 北朝鮮国民、派遣を知らされず？（2024 年 12 月 19 日掲載）
2024/12/21	ABC テレビ	【前半戦】世界“ふてほど”No.1 グランプリ 2024！国民民主党・玉木氏が緊急参戦！世界で一番「不適切にもほどがある」国を決める 3 時間半 SP
2024/12/22	朝日新聞デジタル	<お知らせ> トランプ再登場でウクライナは 記者サロン
2024/12/22	文春オンライン	【12 月 22 日(日)15 時～】小泉悠×高橋杉雄「虚構のなかの『冷戦』・『内戦』・『クーデター』」
2024/12/23	TBS ラジオ	『荻上チキ・Session』▼特集「小泉悠×荻上チキ～セッション・ニュース年録 2024」
2024/12/25	BS フジ	プライムニュース D X 米大統領選、自民党総裁選、総選挙、2024 年選挙を徹底検証
2024/12/27	日経ビジネス電子版	昭和 100 年の教訓 栄光と停滞、30 人の証言▼ウクライナ戦争 小泉 悠 [東京大学准教授]
2024/12/27	TBS NEWS DIG	N スタ▼“ロシア軍地对空ミサイルの誤射”か カザフスタンで旅客機墜落 38 人死亡 機体には複数の小さな穴 「防空システム」によってできた可能性が
2024/12/27	朝日新聞デジタル	小泉悠さん「諜報機関の人間なら見逃さない」 海底ケーブルのリスク
2024/12/29	TBS テレビ	報道の日 2024 TBS テレビ報道 70 年～8 つの禁断ニュース
2024/12/31	上泉雄一のええなぁ！	小泉悠「ロシアによるウクライナ侵攻、停戦はアメリカ次第」「プーチンの次の一手は、デモンストレーションの核使用」「アサド政権崩壊シリアでロシアの動きは？日本の安全保障は？」12月31日
2025/1/6	BS 日テレ	【深層 NEWS】戦後 80 年「いまを、戦前にさせない」ウクライナ侵攻の終わらせ方▽北朝鮮兵クルスク州で大損失「ロシア軍に守られていない」▽ロシアが日本との戦争想定か…日本・韓国攻撃目標 160 カ所計画
2025/1/10	月刊軍事研究	軍事研究 2025 年 2 月号▼ロシアの新「核ドクトリン」と抑止戦略
2025/1/10	中央公論.jp	中央公論 2025 年 2 月号◆ウクライナ「停戦」シナリオを読む▼小泉 悠
2025/1/14	NHK	第六夜 近くて遠い？大国のリアル@明治神宮外苑 - プラット -

2025/1/14	BS フジ	プライムニュース▼【ロシア西部とウクライナ東部での激戦】越境攻撃と北朝鮮兵の実態 岩田清文×東野篤子×小泉悠×神保謙 2025/1/14 放送＜前編＞
2025/1/14	BS フジ	プライムニュース▼【トランプ流の停戦案】領土 & NATO をめぐる停戦交渉の行方 岩田清文×東野篤子×小泉悠×神保謙 2025/1/14 放送＜後編＞
2025/1/17	オールナイトニッポン	松任谷由実のオールナイトニッポン GOLD（1 月 17 日ゲスト出演）
2025/1/20	慶應戦略構想センター	コメンタリー集『KCS Strategic Foresight 2025』小泉悠「ロシア」
2025/1/23	BS-TBS	外交・安保に 2 つの“派閥”？ トランプ政権の安保戦略「力による平和」とは何か【1 月 23 日(木)#報道 1930】
2025/1/24	BS 日テレ	【深層 NEWS】クルスク州の攻防ロシア「6 割奪還」主張…停戦交渉への影響は▽ゼレンスキー氏平和維持部隊「最低 20 万人必要」▽トランプ氏「自国第一主義」で世界は▽トランプ氏「賢い男だ」金正恩氏と対話模索
2025/1/28	日経ビジネス電子版	小泉悠×山口亮 グラデーション化する戦争、日本はすでに巻き込まれている
2025/1/28	みんなの（マガジン）	小泉悠が語る「プーチンの『本当の勝利』」3 つの重要ポイント…トランプ就任で何がかわるのか「もし軍事援助が削減されたら？」
2025/1/29	全国無料テレビ BS11	【トランプ】ロシアに制裁圧力 ウクライナ停戦の行方は？ インサイド OUT
2025/1/31	外交 WEB	『外交』Vol.89 Jan./Feb. 2025▼戦時下で変貌を遂げるロシア軍（PDF 閲覧あり）
2025/2/1	北海道新聞デジタル	脅威とは言えない北方領土のロシア軍 中ロの軍事連携、北方と南西はつながりと認識を
2025/2/8	NHK	北方領土 ロシア化進む ホテル スパ サウナ…衛星写真や SNS で分析 ウクライナ侵攻後に変化 軍事基地にも…
2025/2/13	日経ビジネス電子版	小泉悠×山口亮 台湾有事、中国が「今しかない」と思うと危ない
2025/2/14	日テレ NEWS NNN	ウクライナ“停戦交渉”のウラ側は——専門家 3 人に聞く 「ノーベル平和賞」狙い？ 見せかけの「充電期間」？ 再侵攻の可能性も（2025 年 2 月 14 日掲載）

2025/2/14	日本経済新聞	(停戦交渉 識者の見方) 米口のみでは実現厳しく 東大先端科学技術研究センター准教授 小泉悠氏 (※会員限定記事)
2025/2/17	BS11	インサイド OUT▼【ウクライナ】侵攻3年"トランプ停戦"はあるのか? 倉井高志 (元ウクライナ大使) 小泉悠 (東京大学先端科学技術研究センター准教授) VTR 出演: ハンノ・ペフクル(エストニア国防相)
2025/2/18	福井新聞D刊	軍事 小泉悠・東京大准教授 ロシア優位も目的未達成
2025/2/18	BS フジ	プライムニュース▼【激動ウクライナ停戦交渉】ロシア寄りの米国&プーチンの思惑とゼレンスキー大統領の反発 手嶋龍一×岡部芳彦×小泉悠 2025/2/18 放送<前編>
2025/2/18	日経ビジネス電子版	小泉悠×山口亮 北朝鮮と台湾海峡「ダブル有事」に備えよ
2025/2/18	DEEP DIVE	002 トランプ政権を読み解く
2025/2/21	BS 日テレ	【深層 NEWS】米ケロッグ特使がゼレンスキー氏と会談も共同会見中止なぜ▼トランプ氏“非常にイラ立っている”ゼレンスキー氏「トランプ氏は偽情報空間に生存」▼“ロシアは侵略者”表現に米国反対…プーチン氏の人心掌握術
2025/2/22	NHK	トランプとプーチン “ディール”の深層 - NHK スペシャル
2025/2/22	読売新聞	論点スペシャル▼露の要求 丸のみ恐れ 小泉悠氏
2025/2/22	毎日新聞	ウクライナ侵攻3年・識者に問う: 小泉悠さんに聞く/上 「全力で殴り合う準備」せずに侵攻したロシア
2025/2/23	毎日新聞	ウクライナ侵攻3年・識者に問う: 小泉悠さんに聞く/中 米露による合意「降伏の強要になりかねない」
2025/2/24	毎日新聞	ウクライナ侵攻・3年: 米、ロシアに強く出られるか 東大先端科学技術研究センター准教授 小泉悠さん
2025/2/24	BS-TBS	ウクライナ侵攻3年「ロシアは停戦を急がない」【2月24日(月) #報道1930】
2025/2/24	日本経済新聞	ロシアはウクライナの属国化に固執 小泉悠・東大准教授
2025/2/24	毎日新聞	ウクライナ侵攻3年・識者に問う: 小泉悠さんに聞く/下 「大日本帝国のような国」どう向き合うべきか
2025/2/26	産経ニュース	<正論>人ごとではない頭越しの「停戦」 東京大学先端科学技術研究センター准教授・小泉悠

2025/2/28	月刊正論	月刊正論 2025 年 4 月号▼小泉悠／「戦争のある 21 世紀」を生きるために 《第 25 回正論新風賞受賞記念論文》
2025/3/4	朝日新聞	ウクライナ、米の軍事支援停止でいつまで戦えるのか 小泉悠氏が分析 [トランプ再来]
2025/3/4	毎日新聞	戦後 80 年「戦争をしない」を続けるために：身勝手な「大国」に振り回されない 米中露に日本はどう対抗する
2025/3/6	VOICE	VOICE(ヴォイス) 2025 年 4 月号▼「復古主義者」としての信長とプーチン 呉座勇一 & 小泉悠
2025/3/8	NHK	サタデーウォッチ 9 激しい寒暖差…雪も▽ウクライナ支援の行方▽退職の理由投稿
2025/3/9	TBS	サンデーモーニング▼「最も影響が大きいのは情報提供」これまでの支援額、日本円にして 10 兆円…アメリカがウクライナへの軍事支援を一時停止 その影響の内実は：手作りフリップ
2025/3/10	産経ニュース	小泉悠氏が講演 ウクライナ「抵抗やめるわけにはいかず」 大阪「正論」懇話会
2025/3/10	月刊軍事研究	「軍事研究」 2025 年 4 月号▼新国防相ペロウソフが描く露軍の将来像 小泉悠
2025/3/12	日経 BOOK プラス	小泉悠×山口亮 東アジア人の視点から戦争を考える
2025/3/13	日テレ NEWS	【#きっかけ解説】“台湾有事”について考える 「軍事的圧力」強める中国 本当に台湾統一に武力を用いるのか？
2025/3/13	BS-TBS	報道 1930 ▼譲らないプーチン氏は米ウ停戦案にどう動く、ゼ大統領の譲歩の真意は
2025/3/19	ANN	報道ステーション（出演）【プーチン氏の“狙い”】米口首脳 30 日間停戦ならず
2025/3/20	TBS	“停戦後”の世界 バルト三国の覚悟 譲らない停戦条件 ロシア国民の支持は 【3 月 20 日(木)#報道 1930】
2025/3/22	クーリエ・ジャポン	「プーチンはいまのトランプとは停戦に応じない」 小泉悠が読む交渉の行方
2025/3/24	笹川平和財団	戦時下ロシア軍の変貌——その現状と将来像

2025/3/25	BS フジ	プライムニュース▼【米露・米ウ停戦再協議の裏側】エネルギー施設への攻撃回避は？全面停戦への進展は？ 東野篤子×神保 謙×小泉 悠 2025/3/25 放送＜前編＞
2025/3/25	朝日新聞	大国による「勢力分割」でロシアに共鳴か 北米にこだわるトランプ氏 [トランプ再来]
2025/3/29	ABC テレビ	教えて！ニュースライブ 正義のミカタ▼藤井聡、高橋洋一 高市早苗 小泉悠 西田亮介 ほか

③国末憲人 特任教授

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/1	Nippon.com	Europe's Response to the War in Gaza: Finding a Path to Constructive Engagement
2024/4/4	新潮社 Foresight	「次はナルヴァ」？ エストニア、国境の街の沈黙：国末憲人
2024/5/31	新潮社 Foresight	【特別インタビュー】パスカル・ペリノー仏パリ政治学院名誉教授（上）——欧州議会選で右翼ポピュリズムを後押しする「争点の国内化」
2024/5/31	新潮社 Foresight	【特別インタビュー】パスカル・ペリノー仏パリ政治学院名誉教授（下）——欧州政治の中道主導は変わらない
2024/6/10	BS-TBS	極右台頭の裏に中口の影？“極右”が“普通”になっていく世界は…【6月10日(月)＃報道 1930】
2024/6/12	毎日新聞	「ウクライナ 停戦難しい」 東大・国末特任教授 取材もとに講演 広島／広島
2024/6/21	新潮社 Foresight	「戦争」と「復興」が同居する日常の重力——キーウ、イルピン、ポロジャンカ、アンドリーウカ
2024/6/22	新潮社 Foresight	「戦争疲れ」と「戦争慣れ」——揺れる世論、再び顔を覗かせる“悪弊”
2024/6/23	新潮社 Foresight	取り残された前線州——ヘルソンへの旅
2024/6/25	新潮社 Foresight	フランス総選挙中間報告（上） マクロン「解散」の勝算と「四銃士」の策謀
2024/6/26	新潮社 Foresight	フランス総選挙中間報告（中） 右翼右派の連携を目論む「メディア王」
2024/6/26	新潮社 Foresight	フランス総選挙中間報告（下） 揺らぐ新人民戦線、左翼にかつての勢いなく

2024/6/28	新潮社 Foresight	ヘルソン、拷問施設の実態を探る——男性の精神を破壊するためのレイプ
2024/6/29	新潮社 Foresight	拘束された元知事の軌跡——「ウクライナ軍はお前を殺すだろう」
2024/6/30	新潮社 Foresight	「虐殺の街」その後——ブチャ・イワナフランクカ通り再訪
2024/7/6	新潮社 Foresight	[フランス総選挙] 統治経験なき右翼、核保有国フランスを治める不安——国際問題専門誌『グラン・コンティナン』代表ジル・グレサニ氏
2024/8/8	新潮社 Foresight	[混迷フランス政治] 大躍進でも勝ち切れない右翼「国民連合」、その「革命っぽさ」の虚実（上）
2024/8/8	新潮社 Foresight	[混迷フランス政治] 大躍進でも勝ち切れない右翼「国民連合」、その「革命っぽさ」の虚実（下）
2024/8/9	新潮社 Foresight	[混迷フランス政治] 左派左翼には選べぬ次期首相、焦点は唯一「中道・左派の連携」のみ
2024/8/19	新潮社 Foresight	英保守党「大敗」を演出した「14年間の失望の蓄積」
2024/10/3	新潮社 Foresight	フランス「バルニエ内閣」が示唆する欧州政治の「新トレンド」
2024/10/25	新潮社 Foresight	アルメニア「サバイバル戦略の行方」（1） ユーラシアの十字路
2024/10/26	新潮社 Foresight	アルメニア「サバイバル戦略の行方」（2） 圧迫される国土
2024/10/27	新潮社 Foresight	アルメニア「サバイバル戦略の行方」（3） 地域大国のゲームのはざままで
2024/11/29	新潮社 Foresight	第2部 チェルノブイリの捕虜たち（1） 原発占領
2024/11/30	新潮社 Foresight	第2部 チェルノブイリの捕虜たち（2） 連日の暴行
2024/12/6	新潮社 Foresight	第2部 チェルノブイリの捕虜たち（3） 473日の拘束
2024/12/7	新潮社 Foresight	第2部 チェルノブイリの捕虜たち（4） 帰らない人々
2024/12/8	新潮社 Foresight	第2部 チェルノブイリの捕虜たち（5） 占領地の明暗
2024/12/19	政策シンクタンク PHP 総研	2025年版 PHP グローバル・リスク分析
2024/12/31	新潮社 Foresight	フランス「終わらない政治危機」の構造——物語なき中道はデマゴグに抗えず
2025/1/23	人吉新聞社	元記者の国末さん 五木分校で生徒に戦争、報道語る
2025/1/28	熊本日新聞社	ウクライナ取材の元記者、人吉高五木分校で講話 「無縁ではない」
2025/2/3	新潮社 Foresight	ナゴルノ・カラバフ「統一」後の現在（1） 地雷と復興
2025/2/4	新潮社 Foresight	ナゴルノ・カラバフ「統一」後の現在（2） シュシャ、住民は帰還したが
2025/2/10	新潮社 Foresight	ナゴルノ・カラバフ「統一」後の現在（3） 住民の定着進むラチン

2025/2/11	新潮社 Foresight	ナゴルノ・カラバフ「統一」後の現在 (4) バクー：アルメニア非難とロシアへの配慮
2025/3/14	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (1) ハルキウ、前線の静寂
2025/3/15	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (2) ハルキウ、墓標なき墓地
2025/3/22	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (3) オデッサ、狙われた世界遺産
2025/3/23	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (4) オデッサ、戦争と文化
2025/3/24	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (5) キーウ、取り残される「正義」

③ 山口亮 特任助教

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/2	TBS	Nスタ ten (出演)
2024/4/2	TBS	北朝鮮ミサイル発射「狙いは武器の“多様化”と戦力向上のための“更新”」東京大学先端科学技術研究センター 山口亮特任助教インタビュー
2024/4/3	霞山会	月刊『東亜』2024年4月号▼*統一と体制維持の手段を絞った北朝鮮 山口亮
2024/4/5	Atlantic Council	The US and Japan are upgrading their security alliance. Here's what needs to come next.
2024/4/8	SBC 信越放送	SBC ラジオ「丸山隆之のあさまる」SBC ラジオ あさまるコラム
2024/4/10	South China Morning Post	Japan gets 'some of the same toys as the big boys' as first aircraft carrier since WWII enters service South China Morning Post (scmp.com)
2024/5/14	South China Morning Post	Drone footage of Japan warship on Chinese social media sparks concern in Tokyo
2024/5/14	NK PRO	Russia freighter returns to North Korean port amid new allegations of arms trade
2024/5/16	読売テレビ	【ヨコスカ解説】急接近する中露、それぞれの思惑—プーチン大統領、中国訪問 蜜月の裏で中国を“憂鬱”にさせる北朝鮮の存在とは？
2024/5/20	NK PRO	Why even faulty North Korean weapons won't derail military ties with Russia
2024/5/27	テレビ朝日	報道ステーション 5月27日 「北朝鮮の偵察衛星打ち上げについて」

2024/5/27	South China Morning Post	Can Japan, China resolve Fukushima water tensions? Experts say it's unlikely
2024/5/28	読売テレビ	朝生ワイド す・またん！Zip！「北朝鮮の偵察衛星について」5月28日
2024/6/10	South China Morning Post	Japan's coastguard to build megaship – is move aimed at China in Diaoyu Islands?
2024/6/17	NK News	G7 condemns North Korea-Russia arms trade ahead of possible Putin-Kim summit
2024/6/17	NK News	North Korea has added 20 nukes to arsenal since last year, think tank estimates
2024/6/18	South China Morning Post	Coastguard law could trigger new conflict 'flashpoints' in Japan-China ties
2024/6/25	霞山会	月刊『東亜』2024年7月号▼「北朝鮮の軍事偵察衛星システムの現状」 山口亮
2024/6/26	South China Morning Post	Japan on edge as tightening Russia-North Korea ties stoke defence anxieties
2024/7/8	SBC 信越放送	SBC ラジオ「丸山隆之のあさまる」（出演）
2024/7/9	South China Morning Post	Japan leverages demining diplomacy to counter China's Cambodia influence
2024/7/9	NK News	Russian military jet lands in North Korea, first known flight since Putin visit
2024/7/16	South China Morning Post	Japan steps up security for politicians, VIPs after Trump rally shooting
2024/7/22	DW	Japan's influence in Pacific comes up against China
2024/7/30	South China Morning Post	US military command upgrade in Japan a 'powerful geopolitical signal to China'
2024/8/6	KOREA PRO	Seoul and Tokyo boost defense ties, but remain vulnerable to political winds
2024/8/19	NHK	NHK ニュース「米韓軍事演習」
2024/8/27	South China Morning Post	Seoul's 'submissive' Tokyo ties blasted as Kishida seeks Yoon talks before exit

2024/8/27	NK PRO	How North Korea's new suicide drones could menace the South, with or without AI
-----------	--------	---

⑤西山美久 特任助教

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/5/20	Foresight	プーチンの愛国心教育は新たな「メディンスキーとトルクノフの歴史教科書」にどう記されたか（上）
2024/5/20	Foresight	プーチンの愛国心教育は新たな「メディンスキーとトルクノフの歴史教科書」にどう記されたか（下）

⑥豊田耕平 連携研究員

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/9	Arab News Japan	Japanese group pins hopes on Saudi Arabia for energy transition projects
2024/7/4	新潮社 Foresight	サウジ・UAE、国際 LNG 市場進出の狙いを捉える「市場・知見・外交」の三視点
2024/9/17	エネルギーフォーラム	イスラエル・レバノン戦線注視 エジプトのガス需給に影響も（会員有料記事）
2024/9/20	日本経済新聞	アラブ首長国連邦やサウジアラビア、オイルマネーを AI へ 編集委員 久門武史
2024/9/27	新潮社 Foresight	サウジ・UAE の脱炭素目標「10 年差」が示すエネルギー転換の戦略的差異：天然ガスの国内需要から LNG・水素輸出まで
2024/12/17	新潮社 Foresight	湾岸アラブ諸国は「水素外交」の布石着々——サウジ・UAE の再エネ「ナショナル・チャンピオン」企業が持つ戦略性
2025/2/18	新潮社 Foresight	暗転したエジプトの東地中海「エネルギーハブ」構想：持続可能な供給源となりえるか

⑦田中祐真 特任研究員

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/2	新潮社 Foresight	「中央アジアのロシア離れ」は本当か？——ロシア・ウクライナ戦争が浮彫りにする地域秩序の複雑性（上）：田中祐真

2024/4/2	新潮社 Foresight	「中央アジアのロシア離れ」は本当か？——ロシア・ウクライナ戦争が浮彫りにする地域秩序の複雑性（下）：田中祐真
----------	---------------	--

⑧石本凌也 特任研究員

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/8/21	The Diplomat	Strengthening Japan-US Security Relations Over Extended Deterrence
2025/1/7	SYNODOS	核兵器問題をめぐる日本の立場：唯一の「被爆国」であるアメリカの「同盟国」の実相/石本凌也

3. 外国シンクタンク・有識者等との連携、ネットワークを通じた国際世論の醸成への貢献（若手人材の参画を含む）

若手人材の育成

本事業では、発展型総合事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」、総合事業「自由・民主主義は何をもたらすことができるか」と連携しながら、研究能力、対外発信能力を育成すべく、パーマネントのポストを持たない若手の人材を積極的に登用しているほか、インターンの採用による次世代人材の発掘・育成を行っている。とりわけ、本事業では主として以下のプログラムを実施した。

(1) インターン制度の導入（3 事業共通）

本事業では、3 か月ごとにインターンを採用しており、春季・夏季・秋季・冬季インターンとして以下の 14 名を採用した。いずれも高い英語能力を有し、ROLES 助教・研究員の下で、調査研究支援や、国際ワークショップの企画運営に参画している。

- 平田 拓海 早稲田大学大学院政治学研究科修士課程 2 年（春季・夏季）
- 武田 大輝 東京大学前期教養学部文科一類 2 年（春季・夏季）
- 倉石 東那 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻国際関係論コース博士後期課程（春季・夏季）
- 浅野 華以 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系修士課程 2 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- 芦田 直澄 東京大学前期教養学部文科一類 2 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- 長谷川 航太 早稲田大学大学院政治学研究科修士課程 2 年（春季・夏季・秋季・冬季）

- ・ 林 奈都美 早稲田大学国際教養学部国際教養学科 4 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- ・ 宮本 緋夏 法政大学法学部国際政治学科 4 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- ・ 川目 慎太郎 立教大学異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 4 年（秋季・冬季）
- ・ 渡辺 大翔 早稲田大学大学院政治学研究科修士課程 1 年（秋季・冬季）
- ・ 杉山 弦 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻基礎科学系科学技術基礎論大講座博士後期課程（秋季・冬季）
- ・ 童 児夢 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程 1 年（秋季・冬季）
- ・ 何 山 放送大学教養学部通信課程（秋季・冬季）
- ・ 手塚 颯一郎 青山学院大学法学部法学科 4 年（秋季・冬季）

（2）第 2 回徳之島国際ユースキャンプ（Tokunoshima International Youth Camp）（12～14 頁を参照）

外国シンクタンク・有識者等との連携及びネットワークを通じた国際世論の醸成

本事業では、上記目的を達成するため、（1）ROLES メンバー及び研究会を主体とした外国有識者、シンクタンクとの意見交換／国際ワークショップ・シンポジウムの実施、（2）海外調査を通じた外国有識者、シンクタンクとのネットワーク強化、を実施した。

4. 国際的な議論を先導するシンポジウムの開催

本事業が単独または「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」と連携して実施した国際シンポジウムは以下の通り。

日時	イベント名	講演者（所属）	形式	事前 登録	当日 参加	共催機関	実施研 究会
2024/4/23	RCAST セキュリティ・セミナー「あ る中央情報部分析 官の生きざま」	康仁徳（北韓大学院 大学招聘教授）、宮 本悟（聖学院大学教 授）	対面	-	20		研究会 「イン ド太平 洋の安

							全保障 構想」
2024/5/13	日本・中東戦略対話	池内恵(ROLES 代表)、ザイド・イヤダト CSS 所長	対面	-	180	ヨルダン大学戦略研究センター (CSS)	研究会 「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」 研究会 「紛争解決の理論と実践」 との合同事業
2024/6/5	国際セミナー「中東王室の外交儀礼と日本：外交贈答品とその展示空間」	池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）、アッバス・ヒルミ、ジラルデッリ青木美由紀（イスタンブール工科大学・建築学部・准教授補）、日高薫（国立歴史民俗博物館研究部／情報資料研究系・教授）、岡本隆志（独立行政法人国立文化財機構・	対面	47	34	イスタンブール工科大学建築学部、人間文化研究機構 共創先導プロジェクト「外交と日本コレクション」	研究会 「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」 研究会 「日本の価値観外交の検証

		皇居三の丸尚蔵館学 芸部・展示・普及 課・主任研究員)					と再構 築」と の合同 事業
2024/9/18	国際会議「持続的 な安全保障とその 先：人工知能 (AI) の役割」	ファーター・マ・ア ル・ヤンマーヒー (TRENDS Research & Advisory 戦略パー トナーシップ専門 員)、杉山正和 (東 京大学先端科学技術 研究センター所 長)、ムハンマド・ アブドゥラー・ア ル・アリー (UAE・ TRENDS Research & Advisory 最高経営責 任者)、相原博昭 (東京大学理事・副 学長)、シハーブ・ アハマド・アル・フ アヒーム (アラブ首 長国連邦・駐日大 使)、松尾剛彦 (経 済産業省・経済産業 審議官) (ビデオ・ メッセージ)、三宅 浩史 (外務省・中東 アフリカ局参事 官)、オマル・スル	ハイブ リッド	201	130		研究会 「中 東・イ スラー ム世界 の多極 化と均 衡」 研究会 「先端 科学技 術と安 全保 障」 研究会 「紛争 解決の 理論と 実践」 研究会 「言説 空間分 析の文 理横断 的方法 と応

		ターン・アル・ウラ マー（アラブ首長国 連邦 AI・デジタル経 済・遠隔勤務担当国 務相）、ファイサ ル・アル・バンナー イー（アラブ首長国 連邦・先端技術調査 評議会事務局長）、 河野龍興（東京大学 先端科学技術研究セ ンター教授・附属エ ネルギー国際安全保 障機構・機構長）、 原田達也（東京大学 先端科学技術研究セ ンター教授）、カイ ス・ハンマーミー （イスラーム世界教 育・科学・文化機関 （ICESCO）戦略予 見・AI センター 長）、ムハンマド・ スレイマーン（米 国・中東研究所 （MEI）戦略技術・ サイバーセキュリティ 部門長）、アワ ド・アル・ブレイキ ー（UAE・TRENDS				用」と の合同 事業
--	--	--	--	--	--	------------------

		Research & Advisory 主任研究員・グローバル部門長）、杉山将（東京大学大学院新領域創成科学研究科・複雑理工学専攻教授/理化学研究所・革新知能統合研究センター長）、ビラル・サブ（UAE・TRENDS Research & Advisory 米国・中東関係部長）、矢入健久（東京大学先端科学技術研究センター教授）、プレスラフ・ナコフ（UAE・ムハンマド・ビン・ザーイド人工知能大学教授）、ルイジ・マルティーノ（UAE・ハリーファ大学サイバーセキュリティ・アカデミー所長）、保坂修司（日本エネルギー経済研究所・中東研究センター研究顧問）、江崎浩（東京大学大学院・情報理					
--	--	--	--	--	--	--	--

		工学系研究科教 授)、ムーサー・ア ル・マルズキー (UAE・TRENDS リ サーチ&アドバイザ リー株式会社・経済 研究室長)、近藤重 人(日本エネルギー 経済研究所・中東研 究センター主任研究 員)、アブドゥッラ ー・アル・アッバー スィー(バーレーン 戦略国際エネルギー 研究センター (Derasat) エネル ギー・環境プログラ ム長)					
--	--	---	--	--	--	--	--

2024/9/19	国際会議「持続的な安全保障と最先：人工知能(AI)の役割」	佐藤丙午（拓殖大学教授）、渡邊英徳（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授・情報学環メディア・コンテンツ総合研究機構・機構長）、小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）、モーゼス・カニイレ教授（南アフリカ・ステレンボッシュ大学軍事科学部・防衛人工知能ユニットディレクター）、パトリック・ベル（米国・国防大学助教授）、マノジュ・ハルジャーニー（シンガポール・南洋工科大学ラジャラトナム国際関係大学院（RSIS）防衛戦略研究所・研究フェロー）、スマーヤー・アル・ハドラミー（UAE・TRENDS Research & Advisory グローバル部門長代	ハイブリッド	209	109	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」 研究会「先端科学技術と安全保障」 研究会「紛争解決の理論と実践」 「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」 研究会「言説
-----------	---	--	--------	-----	-----	--

		理)、稲見昌彦(東京大学先端科学技術研究センター教授・総長特任補佐)、門内靖明(東京大学先端科学技術研究センター准教授)、エルネスト・ダミアーニ(UAE・ハリーファ大学サイバー物理システム(C2PS)教授・情報安全保障センター所長)、アブドルモッタレブ・アル・サディーク(UAE・ムハンマド・ビン・ザーイド人工知能大学兼任教授)、ヒメナ・ヴィヴェロス(メキシコ最高裁判事法律顧問長・国連AI高等諮問委員会委員)、マーゼン・ハサン(エジプト・カイロ大学政治経済学部教授)、中井遼(東京大学先端科学技術研究センター教授)、ヌール・アル・マズルー				空間分析の文理横断的方法と応用」との合同事業
--	--	--	--	--	--	------------------------

		イー（UAE・TRENDS リサーチ & アドバイザリー・AI プログラム代表）、ムハンマド・スレイマーン（米国・中東研究所（MEI）戦略技術・サイバーセキュリティ部門長）、池内恵（東京大学先端科学技術センター教授・創発戦略研究オープンラボ（ROLES）代表）、スマーヤー・アル・ハドラミー（UAE・TRENDS Research & Advisory グローバル部門長代理）					
2024/9/26	特別シンポジウム「西側同盟の運命—結束は持続可能か？」	池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）、細谷雄一（慶應義塾大学教授）、ブレンダン・シムズ（ケンブリッジ大学教授）、ジョン・ニルソン＝ライト（ケンブリッジ大学准教授）、フランシス・ギャビン（ジ	対面	132	82	慶應戦略構 想センター （KCS）	研究会 「『西側』の 論理の 検証と 再構築」

		ヨーンズ・ホプキンス 大学教授)、岩間陽 子(政策研究大学院 大学教授)、兼原信 克(同志社大学特別 客員教授/笹川平和 財団常務理事)					
2024/9/28	【同志社大学との 共催(開催地:京 都)】シンポジウ ム「バイデン政 権・岸田政権後の 日米同盟とグラン ド・ストラテジ ー」	村田晃嗣(同志社大 学教授)、鶴岡路人 (慶應義塾大学准教 授)、フランス・ ギャビン(ジョン ズ・ホプキンス大学 教授)、ブレンダ ン・シムズ(ケンプ リッジ大学教授)、 ジョン・ニルソン＝ ライト(ケンブリッ ジ大学准教授)、池 内恵(東京大学先端 科学技術研究センタ ー教授)	対面	48	34	同志社大学 アメリカ研 究所第6部 門研究	研究会 「『西 側』の 論理の 検証と 再構 築」
2024/10/21	“Animism Today” ワークショップ	Ranjani Atur(ミネ ソタ大学助教授)、 William Elison (UCSB 准教授)、 Claudia Moser (UCSB 准教授)、 Fabio Rambelli (UCSB 教授)、	対面			UCSB Cordano Chair in Catholic Studies UCSB Shinto Studies	研究会 「宗教 と国際 秩序」/ サブユ ニット 「日本 の宗教

		Amit Shilo (UCSB 准教授)、Christine Thomas (UCSB 教授)、平藤喜久子 (國學院大學教授)、小泉凡 (小泉八雲記念館館長)、松村一男 (和光大学 名誉教授)、港千尋 (多摩美術大学教授・写真家)				Chair UCSB Department of Religious Studies	伝統と価値観」
2024/10/23	シンポジウム「戦争の記憶に対する境界を越えたアプローチ：東アジアとバルカンの事例より」	西村明 (東京大学)、エルマ・ハシムベゴビッチ (ボスニア・ヘルツェゴビナ歴史博物館)、ディーノ・アバゾビッチ (サラエボ大学)	対面				研究会「宗教と国際秩序」/ サブユニット「戦争の記憶と宗教」
2024/11/4	Seminar “Japan and the Changing Security Environment in Asia”	岩間陽子 (政策研究大学院大学・教授)、桑原尚子 (岩手県立大学 総合政策学部・准教授)、中村真咲 (名古屋経済大学・教授)、Uyanga Myagmar (モンゴル国立大学法学	対面				研究会「安全保障協力体制の構想」

		部秘書准教授)、 Rinchinnyamyn Amarjargal (元モンゴル首相)、益尾知佐子 (九州大学大学院 比較社会文化研究院 比較社会文化研究院・教授)、宮本悟 (聖学院大学教授)、Dashnyam ZOLBOO(モンゴル科学アカデミー国際問題研究所)、大庭三枝 (神奈川大学 法学部・教授)、 Altankhuu Badarch(モンゴル戦略研究所主任研究員)、N Tsogtgerel (モンゴル戦略研究所研究員)					
2024/11/11	特別公開シンポジウム「アメリカ新政権と無極化する世界のゆくえ」	池内 恵 (東京大学教授、ROLES 代表)、 秋田 浩之 (日本経済新聞社・本社コメンテーター)、細谷 雄一 (慶應義塾大学教授、KCS センター長)、森 聡 (慶應義塾大学教授、KCS 副センター長)、鶴岡	対面			慶應戦略構 想センター (KCS)	研究会 「『西側』の 論理の 検証と 再構築」

		路人（慶應義塾大学 准教授、KCS 副セン ター長）					
2024/12/12	Public Event “Japan’s new Foreign and Security Policy Directions – Implications for the Japan- Australia Partnership”	森聡（慶應義塾大学 教授）、鶴岡路人 （慶應義塾大学准教 授）、佐竹知彦（青 山学院大学准教授）	対面			オーストラ リア国立大 学 戦略・ 防衛研究所 （SDSC）	研究会 「『西 側』の 論理の 検証と 再構 築」
2025/1/14	セミナー「モンゴ ルとアジアにおけ る対話外交」	A.デルゲルマー（駐 日モンゴル国大使館 公使参事官） 岩間 陽子（政策研 究大学院大学教授） 大庭 三枝（神奈川 大学教授）	対面	22	10		研究会 「安全 保障協 力体制 の構 想」

3-2 事業の実施状況・成果の定量的概要

【調査】

- ・ 情報収集・調査実施回数： 65 回

【会議】

- ・ 研究会の実施数： 37 回
- ・ シンポジウム／セミナー／ワークショップ等の主催・共催数： 28 回
- ・ 他団体主催のシンポジウム／セミナー／ワークショップ等への参加数： 0 回

【情報発信】

- ・ インタビューや報道発表の実施数： 228 回
- ・ 論文やコメントリーの発出数： 110 回
- ・ 政策提言を含む報告書の発出数： 9 回
- ・ 学術誌の発行： 2 回

URL は 3-1 (別紙) 「イベントのメディア掲載」「ROLES ウェブサイトを通じた発信」に記載済み。

※ 主要なものにつき、審査委員や政府関係者などが閲覧できるよう URL (未発表のものは概要) を記載。また、上記以外の情報発信 (メールマガジン配信、ウェビナー動画の発信など、独自に実施している情報発信) も該当があれば記載すること。

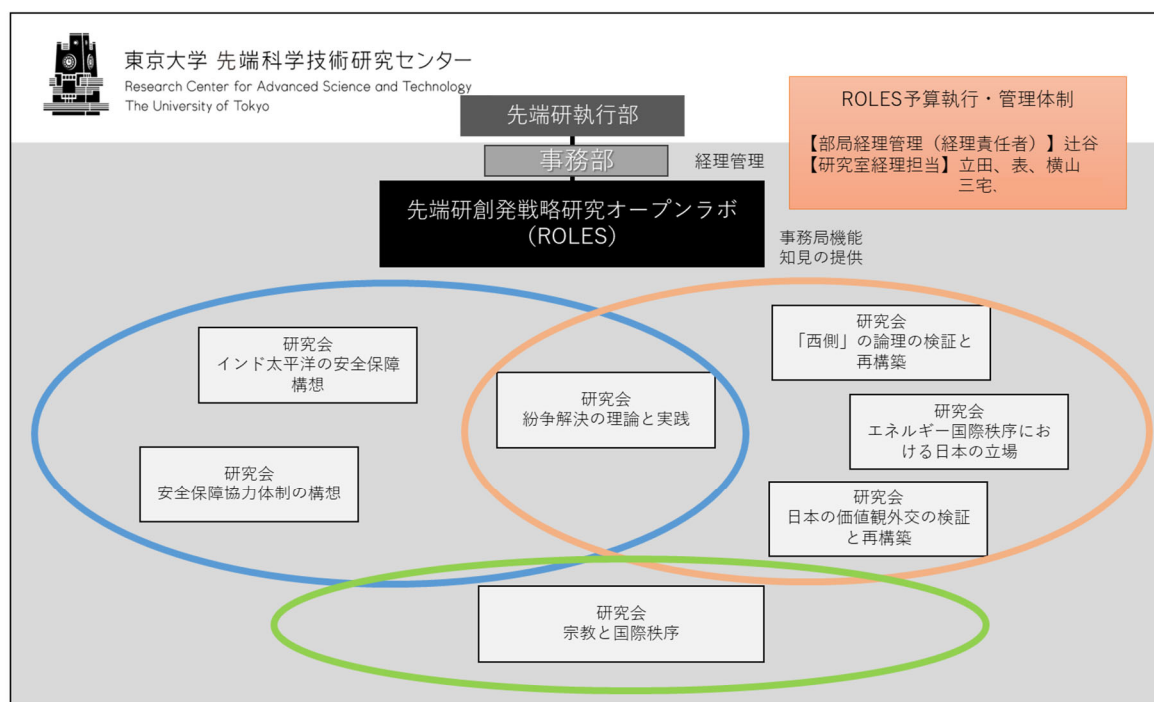
4-1 事業実施体制

- ・事業を実施するための人的体制、それぞれの役割分担等を記載のこと。
 - ・必要に応じ、それぞれの経験、能力等を示す資料を別添可。
 - ・若手、女性研究者、地方在住の研究者にカウントしている場合はそれを分かるようにすること。
- (※) 年齢・性別は評価の際の参考情報として記載するものであり、対外公表はしない。

1 組織図（自由書式）

※ 複数の分科会／研究会が設けられている場合は、それらが有機的に連携するためにどのような体制が取られているか明示すること。

※ 予算の執行・管理体制を明示すること。



2 メンバー詳細

事業総括、グループリーダー、研究担当、渉外担当、経理担当等の別	氏名	所属機関・部局・職	役割
事務局（ROLES）			

事業総括	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	事業全体の総括(事業全体の企画・管理等)
副事業総括	国末 憲人	東京大学先端科学技術研究センター特任教授	事業全体の副総括
副事業総括	小泉 悠(若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	事業全体の副総括(研究企画担当)
副事業総括	伊藤 和歌子(女性)	東京大学先端科学技術研究センターシニアプログラム・コーディネーター	事業全体の副総括(プロジェクト管理担当)
事業総括補佐	立田 由紀恵(女性)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業総括の補佐(総務担当)
事業総括補佐	鍛冶 一郎(若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業総括の補佐(広報・データベース担当)
経理管理	辻谷 宏人	東京大学・先端科学技術研究センター事務局・上席係長(外部資金担当)	経理事務の管理・監督
経理	表 真琴(女性)	東京大学先端科学技術研究センター事務補佐員	経理に関わる実務
広報	田中 周	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	アウトリーチ活動に関わる実務
広報	金子 美和(女性)	東京大学先端科学技術研究センター事務補佐員	アウトリーチ活動に関わる庶務
連絡調整	西山 美久(若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任助教	事業メンバー・学内との連絡・調整
連絡調整	狩野 希望(若手・女性)	東京大学先端科学技術研究センター協力研究員	事業メンバーとの連絡・調整
連絡調整	石本 凌也	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業メンバー・学内との連絡・調整
連絡調整	小林 弘幸	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業メンバー・学内との連絡・調整
研究会「インド太平洋の安全保障構想」			
座長・幹事	山口 亮 (若手)	東京国際大学 国際戦略研究所 准教授	- 全体会合のとりまとめ - インド太平洋地域の安全保障問題及び防衛政策に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
幹事・副座長	Christopher K. LAMONT	東京国際大学 教授	- 民間航空の保安・安全保障、国際法に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援。

研究担当	清水 愛子 (若手・女性・国外在住)	マイクロソフト 政策渉外・ 法務部本部デジタル・イン クルージョン担当部長	非伝統安全保障、 持続可能交通シス テムに関する知見 の提供、調査研究、 発信等。海外での 調査・シンポジウム 参加の支援。
研究担当	WU Shang-Su (若手・国外在住)	ラブダン・アカデミー 助教 授	台湾の安全保障戦 略、鉄道の保安と安 全保障に関する知 見の提供、調査研 究、発信等。海外で の調査・シンポジウ ム参加の支援。
研究担当	Jonathan Berkshire MILLER (若手・国外在住)	マクドナルド・ローリエ研究 所 シニアフェロー	カナダの防衛政策 及びインド太平洋地 域の安全保障に関 する知見の提供、調 査研究、発信等。海 外での調査・シンポ ジウム参加の支援。
研究担当	John BRADFORD (国外在住)	CFR 国際フェロー(インド ネシア)	日米、東南アジア諸 国の安全 保障 戦 略、海洋安全保障 に関する知見の提 供、調査研究、発信 等。海外での調査・ シンポジウム参加の 支援。
研究担当	Jeffrey ORDANIEL (若手)	東京国際大学 准教授	フィリピンの安全保 障戦略、海洋安全 保障、国際法に関 する知見の提供、調 査研究、発信等。海 外での調査・シンポ ジウム参加の支援。
研究担当	Bich TRAN (若手・女性・国外在住)	CSIS 客員フェロー	ベトナムの安全保障 戦略、ASEAN に関 する知見の提供、調 査研究、発信等。海 外での調査・シンポ ジウム参加の支援。

研究担当	LIM Eunjung (若手・女性・国外在住)	公州大学校 准教授	エネルギーと環境問題に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	稲葉 義泰 (若手)	専修大学大学院法学研究科博士後期課程	日本の安全保障政策、海洋安全保障、国際法に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	Jasmin ALSAIED (若手・女性・国外在住)	中東研究所 客員フェロー	米国の防衛政策及びインド太平洋地域における安全保障問題に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	Arius DERR (若手・国外在住)	オーストラリア国立大学 博士課程	米韓の安全保障戦略、インド太平洋地域における大量破壊兵器問題に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	青木 尚子 (女性・国外在住)	ランド研究所 アソシエート ポリティカルサイエンティスト	日米の防衛戦略及び北朝鮮、中国に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	Kristi GOVELLA (若手・女性・国外在住)	ハワイ大学マノア校 アジア研究プログラム助教授	日米関係と経済安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。

研究担当	Maria TANYAG (若手・女性・国外在住)	オーストラリア国立大学 講師	人間と環境の安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	Lauren GILBERT (若手・女性・国外在住)	アトランティック・カウンスル アソシエートディレクター	米韓の安全保障戦略、インド太平洋地域における大量破壊兵器問題に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	Emma VERGES (若手・女性・国外在住)	アトランティック・カウンスル プログラムアシスタント	中国の安全保障戦略、インド太平洋地域における非伝統安全保障問題に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	今井 慶子 (若手・女性・国外在住)	アトランティック・カウンスル アシスタントディレクター	日米安全保障戦略、インド太平洋地域における非伝統安全保障問題に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	Tonny Dian EFFENDI (若手・国外在住)	ムハマディア大学マラン校 助教授	インドネシアの安全保障戦略、ASEANに関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	S. Paul CHOI (若手・国外在住)	ストラットウェイズ・グループ 代表	米国の抑止政策及び米韓の安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等

			海外での調査・シンポジウム参加の支援
副座長	Collin KOH Swee Lean (若手・国外在住)	南洋工科大学ラジャラトナム国際関係研究大学院 シニア・フェロー	- 東南アジアの安全保障環境、海洋安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	Zack COOPER (若手・国外在住)	アメリカン・エンタープライズ研究所 上級研究員	- 米国の抑止政策及び日米韓の安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	Sung-Min CHO (若手・国外在住)	アジア太平洋安全保障研究センター 教授	日米韓の安全保障、中朝関係に関する知見の提供、調査研究、発信
研究担当	DongJoon PARK (若手・国外在住)	済州平和研究院 研究委員	朝鮮半島情勢、日米韓関係に関する知見の提供、調査研究、発信等。海外での調査・シンポジウム参加の支援。
研究担当	Katherine YUSKO (若手・女性・国外在住)	アトランティック・カウンスル プロジェクトアシスタント	米国の対外政策、非伝統安全保障問題に関する知見の提供
研究会「安全保障協力体制の構想」			
座長	岩間 陽子 (女性)	政策研究大学院大学教授	- 全体会合のとりまとめ - 各分科会の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等

幹事	小林 弘幸 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	国際的な核不拡散・安全保障研究
研究担当	大庭 三枝 (女性)	神奈川大学法学部教授	アジアにおける地域主義に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	中村 真咲 (地方在住)	名古屋経済大学経営学部教授	モンゴルにおける憲法、法整備に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	LOTTAZ Pascal (若手・地方在住)	京都大学 白眉センター特定准教授	中立主義に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	桑原 尚子 (女性・地方在住)	岩手県立大学総合政策学部准教授	途上国における法整備に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Umirdinov Alisher (地方在住)	名古屋経済大学法学部教授	中央アジア法、国際法に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	古賀 慶 (国外在住)	南洋工科大学准教授	アジアにおける安全保障についての知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	益尾 知佐子 (女性・地方在住)	九州大学教授	中国の外交・安全保障についての知見の提供、調査研究、発信等
研究会「『西側』の論理の検証と再構築」			
座長	細谷 雄一	慶應義塾大学法学部教授	- 分科会のとりまとめ - 各分科会の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
幹事	小林 弘幸 (若手)	群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部非常勤講師	欧州の核抑止・核不拡散体制に関する調査研究
研究担当	合六 強 (若手)	二松學舎大学国際政治経済学部准教授	先進国の民主主義(欧州)に関する知見の提供、調査研究、発信等

			海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	岩間 陽子 (女性)	政策研究大学院大学教授	先進国の民主主義(欧州)に関する知見の提供、調査研究、発信等 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	鶴岡 路人	慶應義塾大学総合政策学部准教授	先進国の民主主義(欧州)に関する知見の提供、調査研究、発信等 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	東野 篤子 (女性・地方在住)	筑波大学人文社会系教授	- 先進国(欧州)の民主主義に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	ギブール・ドラモット (女性・国外在住)	フランス国立東洋言語文化学院教授	- 先進国の民主主義(欧州)に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	佐竹 知彦 (地方在住)	青山学院大学准教授	日豪関係、安全保障研究に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	森 聡	慶應義塾大学教授	アメリカ外交、安全保障研究に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	寺岡 亜由美 (若手・女性・国外在住)	コロンビア大学博士研究員	安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究会「宗教と国際秩序」			

座長	西村 明	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学講座准教授	• 全体のとりまとめ • 各委員の調査研究に関する方向性のとりまとめ • 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
世話人	立田 由紀恵 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	• 権威主義(中東)に関する知見の提供、調査研究、発信等 • 海外での調査・シンポジウム参加の支援
サブユニット「一神教の思想と世界」			
ユニット長	市川 裕	東京大学人文社会系研究科名誉教授	• ユダヤ教思想および歴史とその社会における役割に関する知見の提供、調査研究、発信等 • 海外での調査・シンポジウム参加の支援
ユニット幹事	山城 貢司	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	• ユダヤ教、アブラハム宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	澤井 義次	天理大学名誉教授	• ヒンドゥー教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	中西 悠喜	大阪大学非常勤講師	• イスラーム教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	志田 雅弘 (若手)	東京大学大学院人文社会系研究科講師	• ユダヤ教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	宮川 創 (若手)	国立国語研究所助教	• 古代宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	戸田 聡 (地方在住)	北海道大学大学院文学研究院教授	• 古代キリスト教に関する知見の提供、調査研究、発信等

研究担当	納富 信留	東京大学大学院人文社会系研究科教授	古代ギリシア哲学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	下田 正弘	武蔵野大学経済学部教授	インド仏教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	古勝 隆一 (地方在住)	京都大学人文科学研究所教授	古代中国哲学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	木村 風雅 (若手)	東京大学大学院総合文化研究科特任助教	イスラーム法学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Joerg Riepke (国外在住)	エアフルト大学教授	比較宗教学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Avishai Bar-Asher (国外在住)	ヘブライ大学講師	ユダヤ思想に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Guy Stroumsa (国外在住)	ヘブライ大学名誉教授	アブラハム宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Menahem Kister (国外在住)	ヘブライ大学名誉教授	モーゼ律法に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Sarah Stroumsa (女性・国外在住)	ヘブライ大学名誉教授	アラブ世界におけるスコラ哲学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Naphtali Meshel (国外在住)	ヘブライ大学上級講師	古代オリエント世界におけるヘブライ語聖書に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Mohammad Ali Amir-Moezzi (国外在住)	フランス国立高等研究実習院教授	イスラーム教シーア派に関する知見の提供、調査研究、発信等

			信等
研究担当	Winrich Loehr (国外在住)	ハイデルベルク大学教授	古代キリスト教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Corinne Bonnet (女性・国外在住)	トゥールーズ大学教授	古代ギリシア宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Moshe Halbertal (国外在住)	ヘブライ大学教授	ユダヤ思想に関する知見の提供、調査研究、発信等
サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」			
ユニット長	平藤 喜久子 (女性)	國學院大學神道文化学部教授	日本神道に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	星野 靖二	國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所教授	近代日本宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
サブユニット「戦争の記憶と宗教」			
ユニット長	西村 明	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学講座准教授	- 全体会合のとりまとめ - 各分科会の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
研究担当	栗津 賢太	上智大学グリーンケア研究所客員研究員	戦争の記憶に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	李 貞善 (女性)	東京大学大学院人文社会系研究科研究員	朝鮮戦争の記憶に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	清水 亮 (若手)	東京大学未来ビジョン研究センター特任助教	戦争の記憶に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	富澤 かな (女性・地方在住)	静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科准教授	インドにおける宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等

			海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	浜井 和史	帝京大学教育学部教育文化学科准教授	日本の戦後処理に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Dino Abazović (国外在住)	サラエボ大学教授	ボスニアのイスラーム教や内戦に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Tâm Ngô (国外在住)	オランダ戦争文書研究所 戦争・ホロコースト・大量虐殺研究所上席研究員	欧州の戦争の記憶に関する知見の提供、調査研究、発信等
サブユニット「ウクライナ戦争に見る宗教と文学」			
ユニット長	井上 まどか (女性)	清泉女子大学文学部文化史学科准教授	- ロシアにおける宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	野中 進	埼玉大学人文社会科学部研究科教授	ロシアの戦争と文学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	加藤 久子 (女性・地方在住)	大和大学社会学部教授	東欧の戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	長谷川 章 (地方在住)	秋田大学教育文化学部教授	ロシアの戦争と映像作品に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	神原 ゆうこ (女性・地方在住)	北九州市立大学基盤教育センター教授	東欧の戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	高橋 沙奈美 (女性・地方在住)	九州大学大学院人間環境学研究院講師	ロシアとウクライナの宗教に関する知見の提供、調査研

			究、発信等
研究担当	鴻野 わか菜 (女性)	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	ロシア文学における戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	鳥山 祐介	東京大学大学院総合文化研究科准教授	ロシア文学における戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	中井 杏奈 (若手・女性・国外在住)	東京外国語大学海外事情研究所特別研究員・東京外国語大学非常勤講師	東欧における戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	長縄 宣博 (地方在住)	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授	ロシアとイスラム教の観点からの戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	越野 剛	慶應義塾大学文学部,准教授	ロシア文学における戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	オルハ・ニコレンコ (国外在住)	ポルタワ国立教育大学教授	ウクライナ文学における戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」			
座長	井上 正也	慶應義塾大学法学部教授	戦後日本外交の歴史的展開の検証に関する知見の提供、研究会の取りまとめ
研究担当	高橋 和宏	法政大学法学部教授	戦後日本外交の経済的展開の側面からの歴史的検証
研究担当	前田 亮介 (若手・地方在住)	北海道大学大学院法学研究科准教授	戦後日本における学知の役割に関する知見の提供
研究担当	白鳥 潤一郎 (若手)	放送大学教養学部准教授	戦後日本外交のエネルギー政策の展開に関する歴史的検証

研究担当	久場川 傳 (若手)	慶應義塾大学大学院法学 研究科修士課程	ポスト冷戦黎明期における日本外交の展開に関する知見の提供
サブユニット「国際政治とリーダーシップ」			
ユニット長	山口 航 (若手)	帝京大学法学部専任講師	総合安全保障政策と日本外交に関する知見の提供
ユニット幹事	石本 凌也 (若手・地方在住)	同志社大学大学院法学研究科博士課程/サントリー文化財団鳥井フェロー	核軍縮における日本外交の役割に関する知見の提供
研究担当	小南 有紀 (若手)	日本国際問題研究所 研究員	英米特殊関係に関する知見の提供
研究担当	堀田 主 (若手)	慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程	欧州とロシア・ソ連関係に関する知見の提供
研究担当	田口 季京 (若手・女性)	コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー	国際政治におけるドイツの役割に関する知見の提供
研究担当	中川 倫梨子 (若手・女性)	慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程	戦後日本における政治的アクターに関する知見の提供
研究会「エネルギー国際秩序における日本の立場」			
座長	岩瀬 昇	エネルギーアナリスト	- 権威主義(中東)に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
副座長	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	- 分科会のとりまとめ - 各分科会の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
幹事	豊田 耕平 (若手)	独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構調査部調査課／東京大学先端科学技術研究センター連携研究員	中東地域のエネルギー問題に関する知見の提供、調査研究、発信等

			海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	小林 周 (若手)	日本エネルギー経済研究所中東研究センター主任 研究員	- 権威主義(中東)に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	榎本 量平	INPEX ソリューションズ	- エネルギー問題に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	高橋 雅英	公益財団法人中東調査会 主任研究員	- エネルギー問題に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究会「紛争解決の理論と実践」			
座長	篠田 英朗	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授	- 紛争問題に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	吉崎 知典	東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授	欧州の安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Anna Mykolayivna Ischenko (若手・女性・国外在住)	ウクライナ国立工科大学(KPI)社会学部上級講師	紛争に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Iurii Perga (国外在住)	ウクライナ国立工科大学(KPI)社会学部大学院教授	紛争に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Olena Akimova Kasatnika (女性・国外在住)	ウクライナ国立工科大学(KPI)経営理論実践学科准教授	紛争に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev (国外在住)	ウクライナ国立工科大学(KPI)社会学部学部長	紛争に関する知見の提供、調査研究、発信等

研究担当	Philip Shetler-Jones (国外在住)	RUSI シニア・リサーチ・フ ェロー	インド太平洋と NATO に関する知 見の提供、調査研 究、発信等
------	--------------------------------	------------------------	---

4－2 事業実施体制の定量的概要	
研究者数合計	110 名
うち若手（※）研究者数	42 名（全体の 38 %）
うち女性研究者数	34 名（全体の 31 %）
うち地方在住の研究者数	59 名（全体の 54 %）